

「だれもがその人らしくいきいきと暮らせる沖縄市を目指して」

男女共同参画に関するアンケートの調査結果

平成 30 年 3 月

沖縄市

目 次

1. 第2次沖縄市男女共同参画計画基礎調査の概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査対象者.....	1
(3) 調査方法.....	1
(4) 調査期間.....	1
(5) 回収状況.....	1
(6) 留意事項.....	1
2. アンケート調査結果.....	2
(1) 市民アンケート.....	2
問1 年齢.....	2
問2 結婚しているか.....	2
問3 職業.....	2
問4 複数の仕事の掛け持ち.....	3
問5 配偶者（パートナー）の職業.....	3
問6 家族構成.....	4
問7 家庭での男女の役割.....	4
問8 家庭における役割分担に納得しているか.....	5
問9 言葉の認知度.....	6
問10 男女の地位について.....	7
問11 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて.....	8
問12 学校教育で大切だと思うこと.....	8
問13 年中行事における男女の負担.....	9
問14 トートナーは誰が継ぐべきか.....	9
問15 育児休業について.....	10
問16 女性が職業をもつことについて.....	10
問17 女性の就労意向.....	11
問18 現在働けない理由.....	11
問19 女性が働き続けるために必要なこと.....	12
問20 女性が再就職するために必要なこと.....	12
問21 個人の時間を過ごせているか.....	13
問22 個人の時間を過ごせない理由.....	13
問23 男女がともに「仕事と家庭の両立」を図るために.....	14
問24 生活の中での優先度.....	15
問25 DVの経験の有無.....	16

問 26 DVの事を誰に相談したか	16
問 27 DVを誰にも相談できなかった理由	17
問 28 身近なDVについて	17
問 29 DVについての相談窓口	18
問 30 男女共同参画社会の実現に向け重点的に取り組むべきこと	19
問 31 性の多様性への理解について	19
問 32 性の多様性を認め合う社会づくりについて	20
問 33 当事者か	20
問 34 性別（自認する性について）	20
自由意見	21
(2) 事業者アンケート	28
問 1 事業所の概要	28
問 2 女性活用を困難にしている要因の有無	30
問 3 女性活用を困難にしている主な要因	31
問 4 「女性のみ」又は「男性のみ」となっている主要職務を行う部署	31
問 5 「女性のみ」又は「男性のみ」となっている部署がある理由	31
問 6 過去 5 年間で女性従業員の退職理由	32
問 7 女性従業員が活躍できる仕事・職場環境に必要なこと	32
問 8 育児休業の規定	33
問 9 介護休業の規定	33
問 10 育児や介護を行う従業員への支援	33
問 11 今後育児休業等を定着させるために大切なこと	34
問 12 育児休業の利用について	34
問 13 職場でのセクハラ及びマタハラ・パタハラ等の防止の取り組みの実施について	35
問 14 ワーク・ライフ・バランス企業認証制度について	36
問 15 ワーク・ライフ・バランスの取り組み	36
問 16 性の多様性への理解について	36
問 17 L G B T 等の当事者について	37
問 18 当事者が働き続けるための配慮	37
問 19 多様な人材、優秀な人材確保のための取り組み	38
自由意見	38
(3) 中高生アンケート	39
問 1 学年	39
問 2 性別	39
問 3 「男（または女）だから〇〇しなさい」	39
問 4-1 どんな時に言われるか	40

問 4-2 言われた時の気持ち	40
問 4-3 言うのは誰か	41
問 5 「男に生まれてくやしい」または「女に生まれてくやしい」思いをしたことがあるか ..	41
問 6 言葉の認知度	42
問 7 担当している役割	43
問 8 家事は誰がやるのが一番よいと思うか	43
問 9 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方について	44
問 10 将来の仕事と家事について	44
問 11 女性が仕事をもつことについて	45
問 12 進路や将来の仕事について保護者と話しをしたことがあるか	45
問 13 希望する進路や仕事について保護者は賛成しているか	46
問 14 学校生活における男女の役割	47
問 15 家庭内でDVを見たことがあるか	48
問 16 DVの経験の有無	48
問 17 DVの事を誰に相談したか	49
問 18 身体的・心理的、性的な暴力について	50
問 19 DVを知った時、相談された時の対応	51
問 20 L G B Tを含む多様性について知っていたか	52
問 21 当事者の方が身近にいるか	52
問 22 偏見や差別をなくすための取り組みが必要だと思うか	52
自由意見	53
(4) 学校教員アンケート	60
問 1 年齢	60
問 2 所属学校	60
問 3 職名	60
問 4 言葉の認知度	61
問 5 男女共同参画が話題になったことがあるか	62
問 6 男女の平等について	62
問 7 男女共同参画を進めるために大切なこと	63
問 8 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて	63
問 9 女性が職業をもつことについて	64
問 10 育児休業について	64
問 11 女性が働き続けるために必要なこと	65
問 12 女性が再就職するために必要なこと	66
問 13 男女がともにワーク・ライフ・バランスを図るために	67
問 14 生活の中での優先度	68

問 15 学校教育で大切だと思うこと	69
問 16 性別で区別しない名簿（男女混合名簿）について	70
問 17 生徒のデートDVを見聞きしたことがあるか	70
問 18 生徒からデートDVについての相談	71
問 19 生徒のデートDVの内容	71
問 20 デートDVの相談を受けたときの対応	72
問 21 生徒の生活環境におけるDV相談	72
問 22 相談を受けた際の対応	72
問 23 L G B Tを含む多様性	73
問 24 L G B T等の研修等を受けたことがあるか	73
問 25 L G B T等の児童生徒からの相談、または間接的な相談	73
問 26 L G B T等の児童生徒に対しての学校における支援の充実の必要性	74
問 27 性の多様性を認め合う社会をつくるための取組みの必要性	74
問 28 L G B T等の当事者ですか	74
問 29 性別（自認する性別）	75
自由意見	75
(5) 市役所職員アンケート	81
問 1 年齢	81
問 2 職位	81
問 3 共働きについて	81
問 4 言葉の認知度	82
問 5 男女の地位について	83
問 6 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて	83
問 7 男女差別について	84
問 8 役付きの内示について	85
問 9 受けられない、受けたくない理由	85
問 10 育児休暇や介護休暇の取得について	86
問 11 抵抗を感じる主な理由	86
問 12 女性が働き続けるために必要なこと	87
問 13 女性が再就職するために必要なこと	87
問 14 職場でハラスメントを受けたこと、見聞きしたことの有無	88
問 15 職場で受けたセクハラを相談したか	89
問 16 男女がともに「仕事と家庭の両立」を図るために	90
問 17 生活の中での優先度	91
問 18 DVの経験の有無	92
問 19 DVの事を誰に相談したか	92

問 20DVを誰にも相談できなかった理由	93
問 21 身近な暴力について	93
問 22DVについての相談窓口	94
問 23 男女共同参画や男女平等の意識について	95
問 24 男女共同参画に関する研修や講演会への参加の有無について	95
問 25 男女共同参画を進める必要性について	96
問 26 男女共同参画社会の実現に向け重点的に取り組むべきこと	96
問 27 登用目標を設定する事について	97
問 28 性の多様性への理解について	97
問 29 L G B T等の当事者について	98
問 30 当事者から相談を受けたこと	98
問 31 性の多様性を認め合う社会をつくるための取組みの必要性	98
問 32 L G B T等の当事者ですか	99
問 33 性別（自認する性別）	99
自由意見	99
(資料) 調査票	109

1. 第2次沖縄市男女共同参画計画基礎調査の概要

(1) 調査の目的

「第2次沖縄市男女共同参画推進計画 ひと・きらめきプラン」見直しの計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

(2) 調査対象者

- ①沖縄市に在住する18歳以上の方2,600人（無作為抽出）
- ②沖縄市内に本社又は支店・営業所を有する事業者100社（無作為抽出）
- ③沖縄市内の中学2年生及び高校2年生2,879人
- ④沖縄市内の幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校の教員1,706人
- ⑤市役所職員2,012人

(3) 調査方法

上記①及び②については、郵送による配布・回収を行いました。

③及び④については、学校を通じて直接配布・回収を行いました。

(4) 調査期間

平成29年9月下旬から10月末までの約1ヶ月

(5) 回収状況

	配布数	有効回収数	回収率
①市民	2,600	606	23.3%
②事業者	100	31	31.0%
③中高生	2,879	2,646	91.9%
④学校教員	1,706	1,012	59.3%
⑤市役所職員	2,012	1,776	88.3%
合 計	9,297	6,071	65.3%

(6) 留意事項

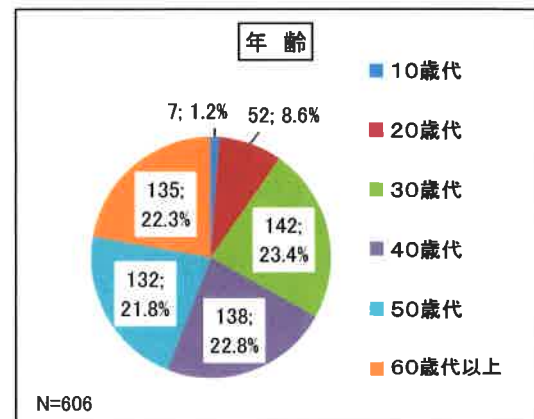
各アンケートの質問において、選択肢の構成比の合計は四捨五入の関係上100%にならない場合もあります。

2. アンケート調査結果

(1) 市民アンケート

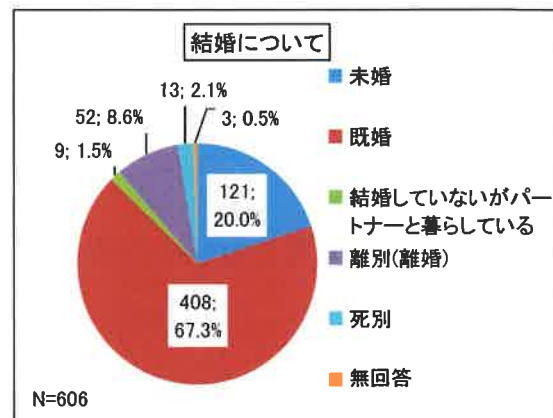
問1 年齢

アンケート回答者の年齢は、「30 歳代」が最も高く 23.4%、次いで「40 歳代」が 22.8%、「60 歳代以上」が 22.3%、「50 歳代」が 21.8%、「20 歳代」が 8.6%、「10 歳代」が 1.2%となっています。



問2 結婚しているか

結婚しているかについては、「既婚」が最も高く 67.3%、次いで「未婚」が 20.0%、「離別（離婚）」が 8.6%、「死別」が 2.1%、「結婚していないがパートナーと暮らしている」が 1.5%となっています。



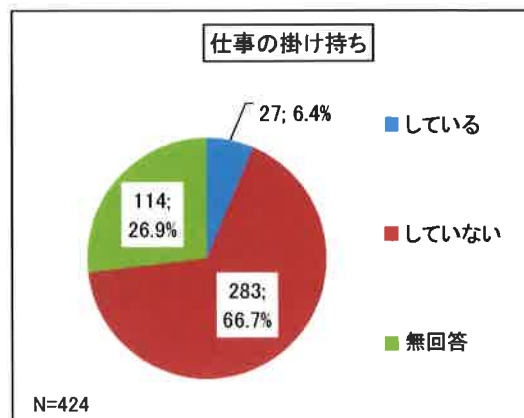
問3 職業

職業では、「正社員（一般職）」が最も高く 18.3%、次いで「主夫・主婦」が 14.7%、「無職」が 12.7%、「常勤パートタイマー」が 10.2%、「契約社員、派遣社員」が 9.4%、「臨時・アルバイト」が 7.8%となっています。

正社員（一般職）	111	18.3%
主夫・主婦	89	14.7%
無職	77	12.7%
常勤パートタイマー	62	10.2%
契約社員、派遣社員	57	9.4%
臨時・アルバイト	47	7.8%
正職員（技術職）	41	6.8%
公務員	32	5.3%
商工業・サービス業（卸・小売店、飲食店等サービス）	24	4.0%
管理職・会社役員	23	3.8%
自由業（開業医師、弁護士、芸術家など）	21	3.5%
学生	11	1.8%
農業・林業・漁業	4	0.7%
内職	2	0.3%
無回答	5	0.8%
合 計	606	100.0%

問4 複数の仕事の掛け持ち

複数の仕事を掛け持ち（ダブルワークや副業）については、「していない」が66.7%、「している」が6.4%となっています。



問5 配偶者（パートナー）の職業

配偶者（パートナー）の職業では、「正社員（一般職）」が最も高く 23.5%、次いで「無職」が 13.7%、「主夫・主婦」が 8.9%、「正職員（技術職）」が 8.6%、「常勤パートタイマー」が 7.7% となっています。

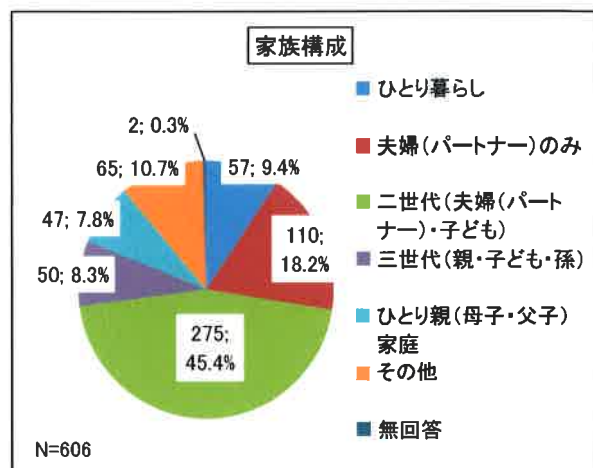
正社員（一般職）	98	23.5%
無職	57	13.7%
主夫・主婦	37	8.9%
正職員（技術職）	36	8.6%
常勤パートタイマー	32	7.7%
公務員	23	5.5%
管理職・会社役員	21	5.0%
契約社員、派遣社員	18	4.3%
臨時・アルバイト	18	4.3%
商工業・サービス業（卸・小売店、飲食店等サービス）	14	3.4%
自由業（開業医師、弁護士、芸術家など）	9	2.2%
農業・林業・漁業	5	1.2%
内職	2	0.5%
学生	0	0.0%
無回答	47	11.3%
合 計	417	100.0%

配偶者もしくはパートナーと暮らしている回答者のうち共働きの割合は、66.2%となっています。これを平成24年度調査（44.0%）と比較すると、22.2ポイント上昇しています。

	共働き世帯の割合
平成24年	44.0%
平成29年	66.2%

問6 家族構成

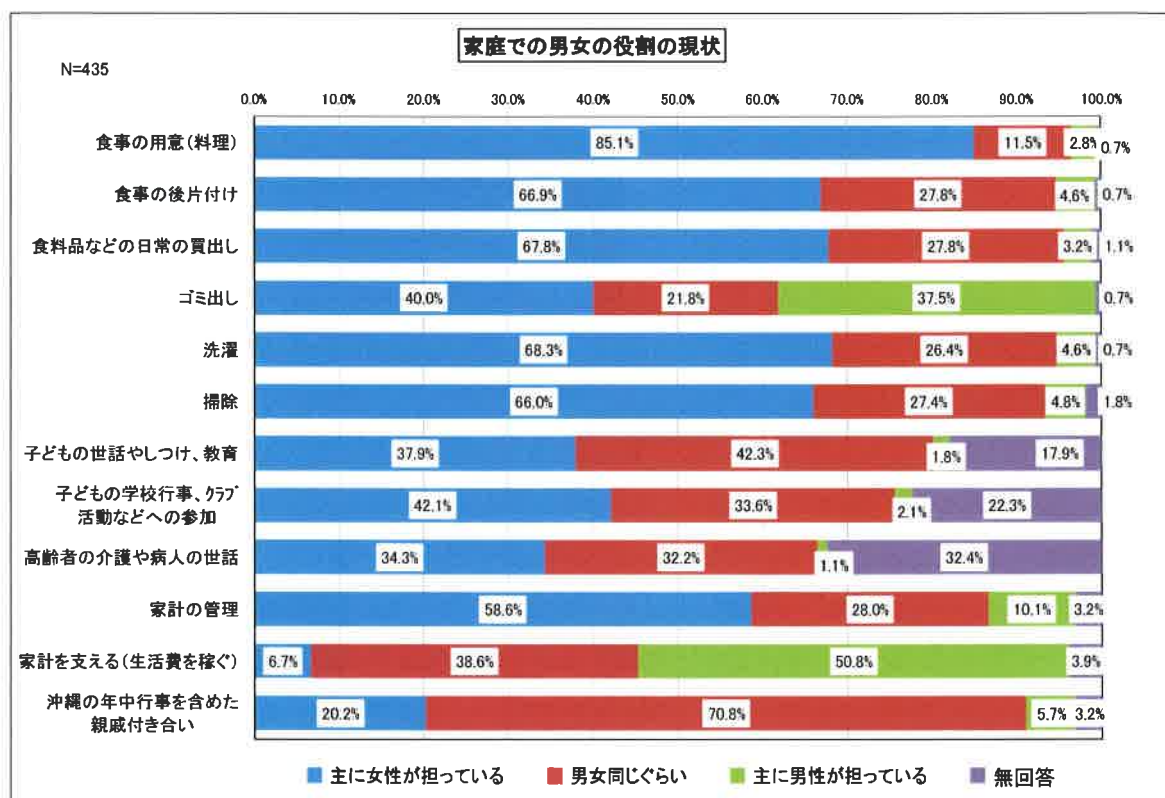
家族構成は、「二世世代（夫婦（パートナー）・子ども）」の割合が最も高く45.4%、次いで「夫婦（パートナー）のみ」が18.2%、「その他」が10.7%、「ひとり暮らし」が9.4%、「三世代（親・子ども・孫）」が8.3%、「ひとり親（母子・父子）家庭」が7.8%となっています。



家庭について

問7 家庭での男女の役割

家庭での男女の役割分担について、12項目中9項目で「主に女性が担っている」という回答が最も高くなっています。



家庭の男女の役割分担について、「男女同じくらい」という回答割合を平成 24 年調査結果と比較すると、全ての項目で前回調査よりも数値が上昇しています。

家庭の役割分担で「男女同じくらい」という回答割合

	平成24年	平成29年	H29-H24
食事の用意(料理)	9.2%	11.5%	2.3
食事の後片付け	13.9%	27.8%	13.9
食料品などの日常の買出し	15.0%	27.8%	12.8
ゴミ出し	18.8%	21.8%	3.0
洗濯	16.8%	26.4%	9.6
掃除	17.4%	27.4%	10.0
子どもの世話やしつけ、教育	26.8%	42.3%	15.5
子どもの学校行事、クラブ活動などへの参加	21.7%	33.6%	11.8
高齢者の介護や病人の世話	15.6%	32.2%	16.6
家計の管理	14.7%	28.0%	13.4
家計を支える(生活費を稼ぐ)	26.6%	38.6%	12.0
沖縄の年中行事を含めた親戚付き合い	41.8%	70.8%	29.0

問 8 家庭における役割分担に納得しているか

家庭における役割分担（家事や育児、介護など）に納得しているかについて、「納得している」と「どちらかといえば納得している」を加えた割合は、女性で 61.2%、男性では 71.1% となっており、男女間で 9.9 ポイントの差があります。

平成 24 年調査結果と比較すると、女性で納得しているとの回答割合は 13.6 ポイント上昇し、男女間にあった 31 ポイントという差が縮小していることが分かります。

家庭の役割分担について

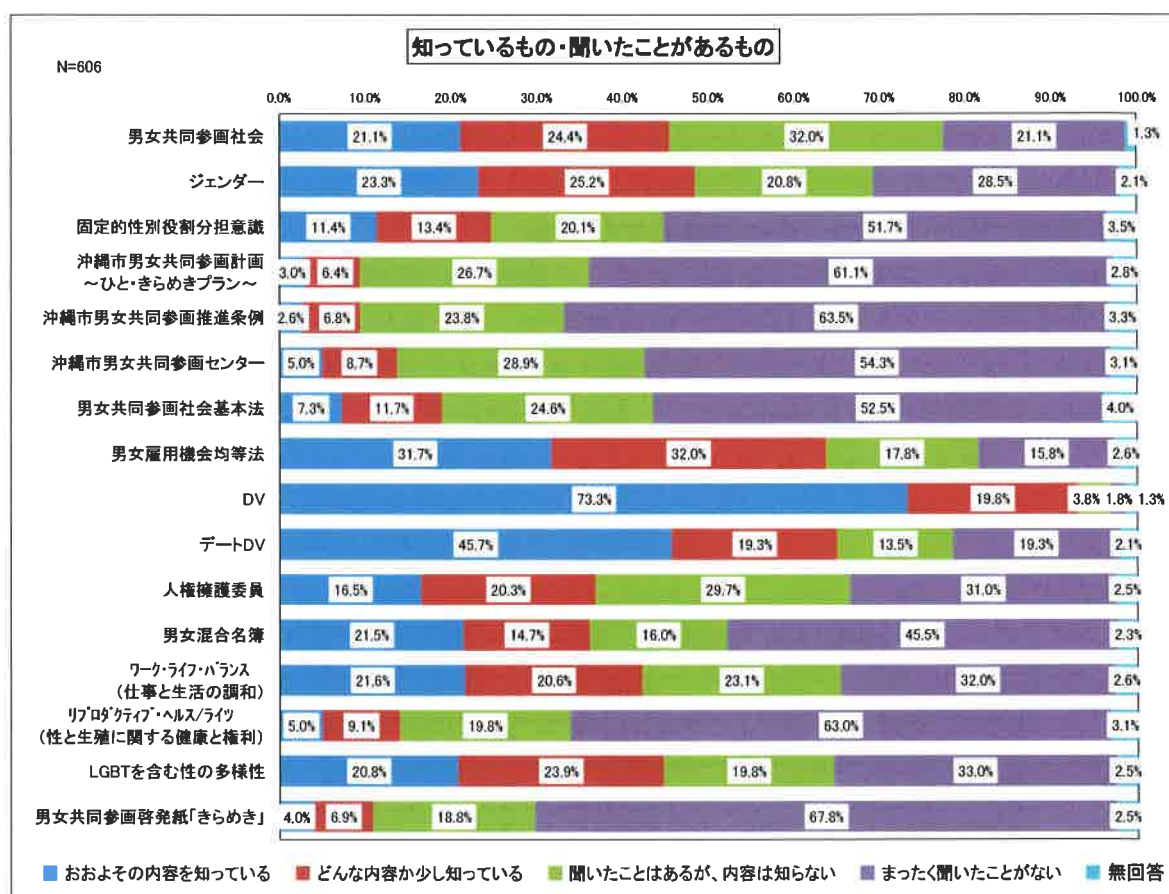
		a	b	c	d	e		
		納得している	どちらかといえ ば納得してい る	どちらかといえ ば納得してい ない	まったく納得し ていない	どちらともいえ ない	無回答	納得している (a+b)
平成29年	女性(N=384)	27.1%	34.1%	15.1%	8.3%	7.0%	8.3%	61.2%
	男性(N=194)	39.7%	31.4%	5.7%	0.5%	9.8%	12.9%	71.1%
平成24年	女性(N=336)	20.2%	27.4%	25.9%	6.8%	15.2%	4.5%	47.6%
	男性(N=215)	35.8%	42.8%	5.6%	0.5%	13.0%	2.3%	78.6%

男女共同参画に関する言葉について

問9 言葉の認知度

次の言葉の認知度について、「おおよその内容を知っている」という回答割合が最も高いのは「DV」で73.3%、次いで「デートDV」が45.7%、「男女雇用機会均等法」が31.7%、「ジェンダー」が23.3%、「ワーク・ライフ・バランス」が21.6%となっています。

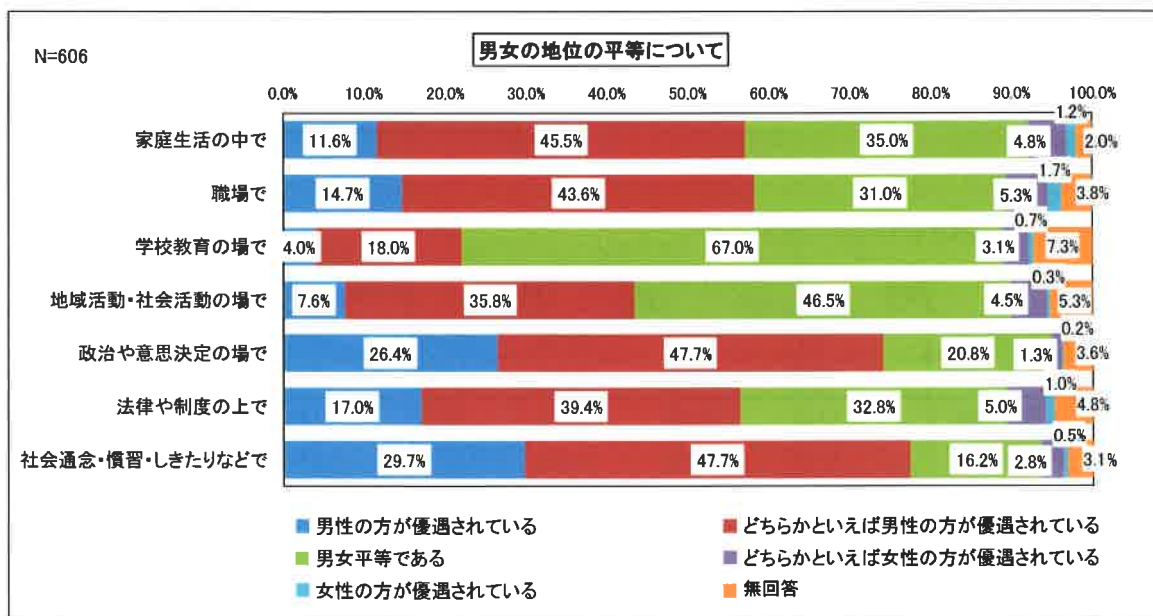
「沖縄市男女共同参画計画～ひと・きらめきプラン～」(3.0%)、「沖縄市男女共同参画推進条例」(2.6%)、「沖縄市男女共同参画センター」(5.0%)については、認知度が低い状況にあります。



男女平等に関する意識について

問 10 男女の地位について

7つの分野で男性と女性どちらが優遇されていると思うかという問いに対して、全ての項目で男性が優遇されている（「優遇されている」と「どちらかといえば優遇されている」の合計）という割合が、女性が優遇されている（「優遇されている」と「どちらかといえば優遇されている」の合計）割合よりも高くなっています。



これを平成24年意識調査結果と「男女平等である」との回答割合を比較すると、「家庭生活の中で」「学校教育の場」「地域活動・社会活動の場で」「社会通念・慣習・しきたりなどで」の4分野で上昇するものの、「職場で」「法律や制度の上で」「政治や意思決定の場で」で低下しています。

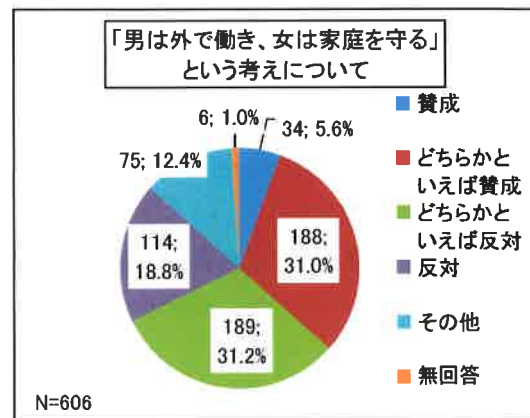
男女の地位について「男女平等である」という回答割合

	平成24年	平成29年	H29-H24
家庭生活の中で	31.2%	35.0%	3.8
職場で	39.3%	31.0%	-8.3
学校教育の場で	62.7%	67.0%	4.3
地域活動・社会活動の場で	41.3%	46.5%	5.2
政治や意思決定の場で	23.9%	20.8%	-3.1
法律や制度の上で	40.4%	32.8%	-7.6
社会通念・慣習・しきたりなどで	13.4%	16.2%	2.8

問 11 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて

「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて、「どちらかといえば反対」が最も高く 31.2%、次いで「どちらかといえば賛成」が 31.0%、「反対」が 18.8%、「その他」が 12.4%、「賛成」が 5.6%となっています。

男女別の回答の割合を平成 24 年意識調査結果と比較すると、女性で反対の割合（反対+どちらかといえば反対）が 4.2 ポイント上昇するのに対して、男性では 5.6 ポイント低下しています。

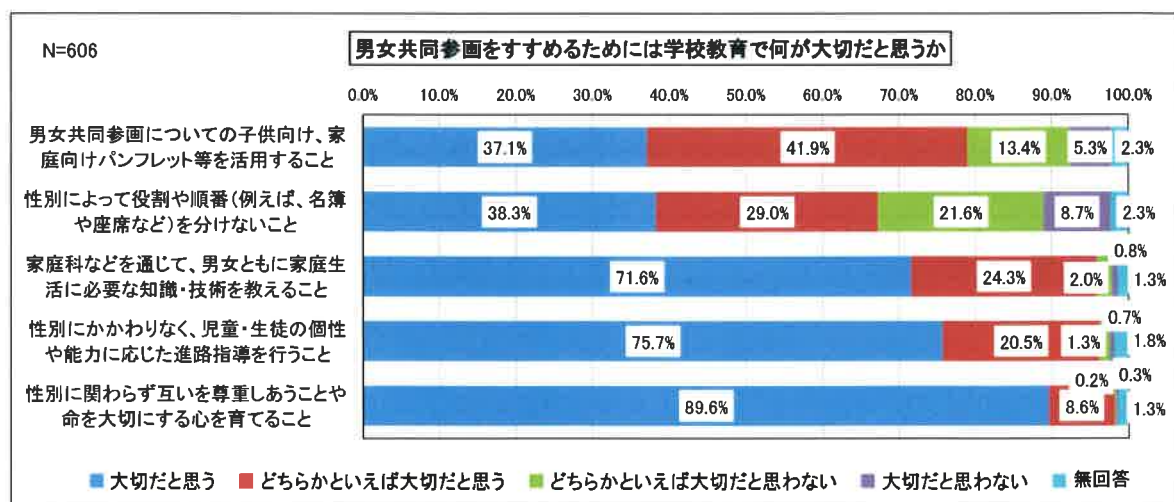


「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて

		a	b	c	d	e			
		賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	その他	無回答	賛成 (a+b)	反対 (c+d)
平成29年	女性(N=384)	4.4%	25.8%	33.3%	22.4%	13.0%	1.0%	30.2%	55.7%
	男性(N=194)	7.7%	42.3%	25.8%	12.4%	10.8%	1.0%	50.0%	38.1%
平成24年	女性(N=336)	4.8%	28.9%	32.1%	19.3%	14.0%	0.9%	33.6%	51.5%
	男性(N=215)	6.5%	39.1%	25.6%	18.1%	8.8%	1.9%	45.6%	43.7%

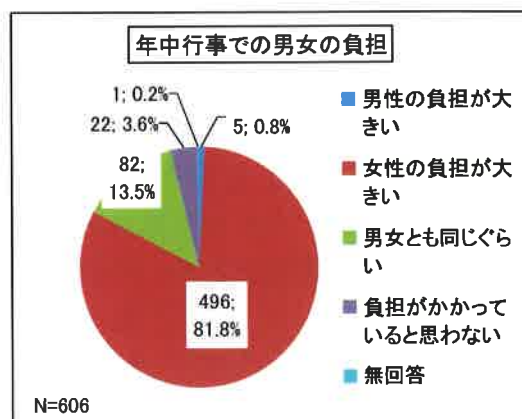
問 12 学校教育で大切だと思うこと

男女共同参画をすすめるために学校教育で「大切だと思う」という割合が最も高いのは、「性別に関わらず互いを尊重しあうことや命を大切にする心を育てること」で 89.6%、次いで「性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた進路指導を行うこと」で 75.7%、「家庭科などを通じて、男女ともに家庭生活に必要な知識・技術を教えること」で 71.6%、「性別によって役割や順番（例えば、名簿や座席など）を分けないこと」で 38.3%、「男女共同参画についての子供向け、家庭向けパンフレット等を活用すること」で 37.1%となっています。



問 13 年中行事における男女の負担

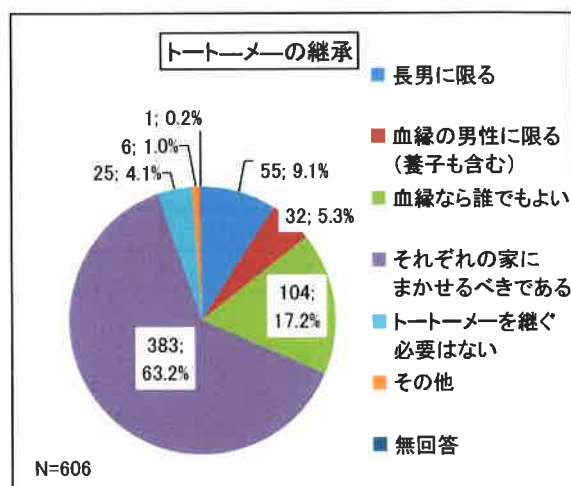
年中行事における男女の負担については、「女性の負担が大きい」という割合が 81.8%と最も高くなっています。次いで「男女とも同じくらい」が 13.5%、「負担がかかっていると思わない」が 3.6%、「男性の負担が大きい」が 0.8%となっています。



問 14 トートーメーは誰が継ぐべきか

トートーメー（位牌）は誰が継ぐべきだと思うかについては、「それぞれの家にまかせるべきである」という割合が 63.2%で最も高くなっています。次いで「血縁なら誰でもよい」が 17.2%、「長男に限る」が 9.1%、「血縁の男性に限る（養子も含む）」が 5.3%、「トートーメーを継ぐ必要はない」が 4.1%、「その他」が 1.0%となっています。

男女別の回答割合を平成 24 年意識調査結果と比較すると、男女ともに「それぞれの家にまかせるべきである」の回答が高まっています。



トートーメー（位牌）について

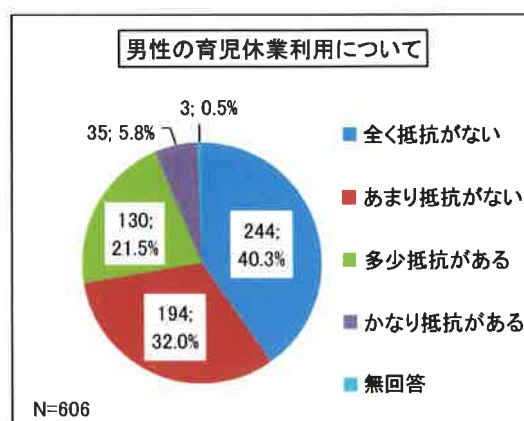
		長男に限る	血縁の男性に限る (養子も含む)	血縁なら誰でもよい	それぞれの家にまかせるべきである	トートーメーを継ぐ必要はない	その他	無回答
平成29年	女性(N=384)	6.8%	4.9%	13.5%	69.8%	3.9%	1.0%	0.0%
	男性(N=194)	12.9%	6.2%	23.7%	51.0%	4.6%	1.0%	0.5%
平成24年	女性(N=336)	6.8%	5.4%	20.5%	62.8%	1.8%	1.8%	0.9%
	男性(N=215)	17.7%	9.3%	20.5%	48.8%	2.3%	0.5%	0.9%

職場、就労について

問 15 育児休業について

男性が育児休業を取ることにについては、「全く抵抗がない」という割合が最も高く 40.3%、次いで「あまり抵抗がない」が 32.0%、「多少抵抗がある」が 21.5%、「かなり抵抗がある」が 5.8%となっています。

抵抗があるという回答（「多少抵抗がある」と「かなり抵抗がある」）を平成 24 年意識調査結果と比較すると、女性が低下（H24:24.5%→H29:18.7%）するのに対し、男性は（H24:43.3%→H29:44.3%）ほぼ変化がなく、男自体の抵抗感が伺えます。

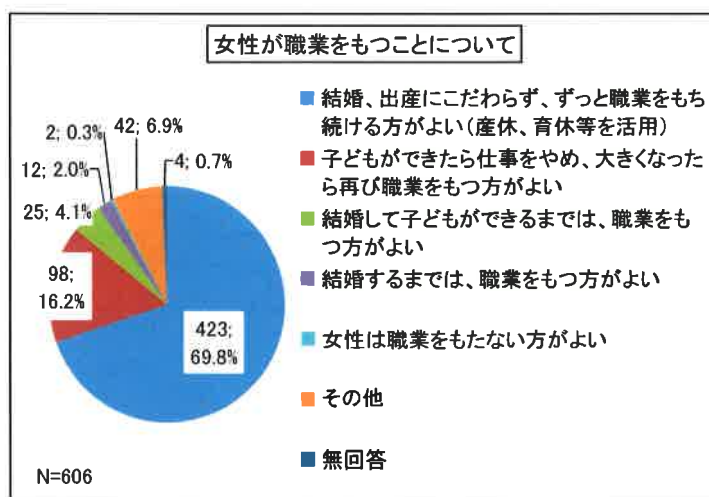


男性が育児休業を取ることにについて

		全く抵抗がない	あまり抵抗がない	多少抵抗がある	かなり抵抗がある	無回答
平成29年	女性(N=384)	46.9%	34.1%	15.1%	3.6%	0.3%
	男性(N=194)	26.8%	27.8%	34.0%	10.3%	1.0%
平成24年	女性(N=336)	42.6%	32.1%	18.8%	5.7%	0.9%
	男性(N=215)	30.7%	24.2%	29.8%	13.5%	1.9%

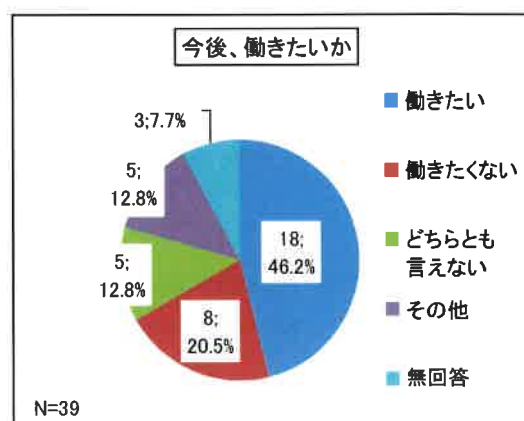
問 16 女性が職業をもつことについて

一般的に女性が職業をもつことについては、「結婚、出産にこだわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい（産休、育休等を活用）」が最も高く 69.8%、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が 16.2%、この 2 項目で全体の 86%を占めています。



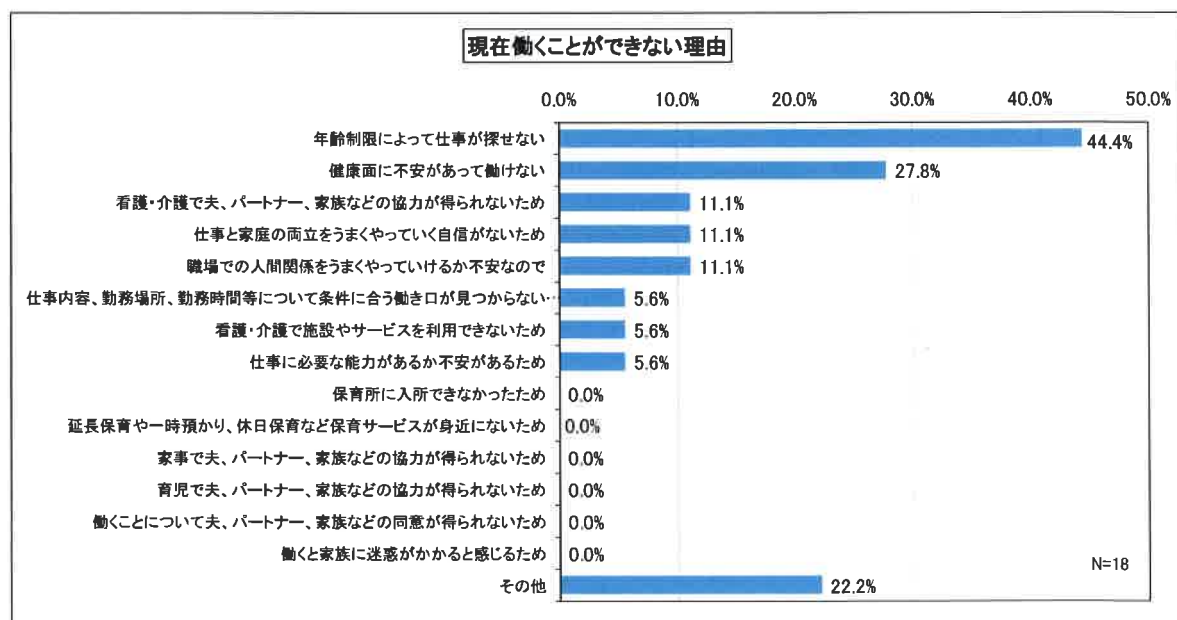
問 17 女性の就労意向

今後、働きたいと考えているかについては、「働きたい」という割合が最も高く 46.2%、次いで「働きたくない」が 20.5%、「どちらとも言えない」と「その他」がともに 12.8%となっています。



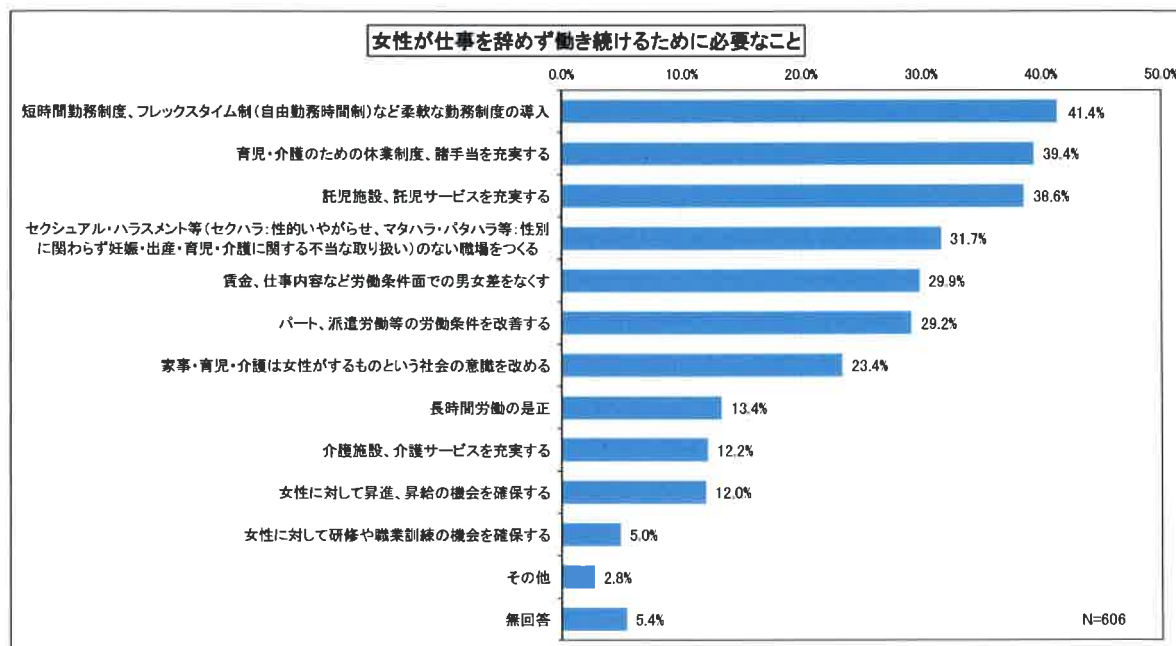
問 18 現在働けない理由

今後、働きたいが、現在働くことができない理由の第 1 位は、「年齢制限によって仕事が探せない」で 44.4%、第 2 位は「健康面に不安があって働けない」で 27.8%、第 3 位は「看護・介護で夫、パートナー、家族などの協力が得られないため」及び「仕事と家庭の両立をうまくやっていく自信がないため」及び「職場での人間関係をうまくやっていけるか不安なので」、ともに 11.1%となっています。



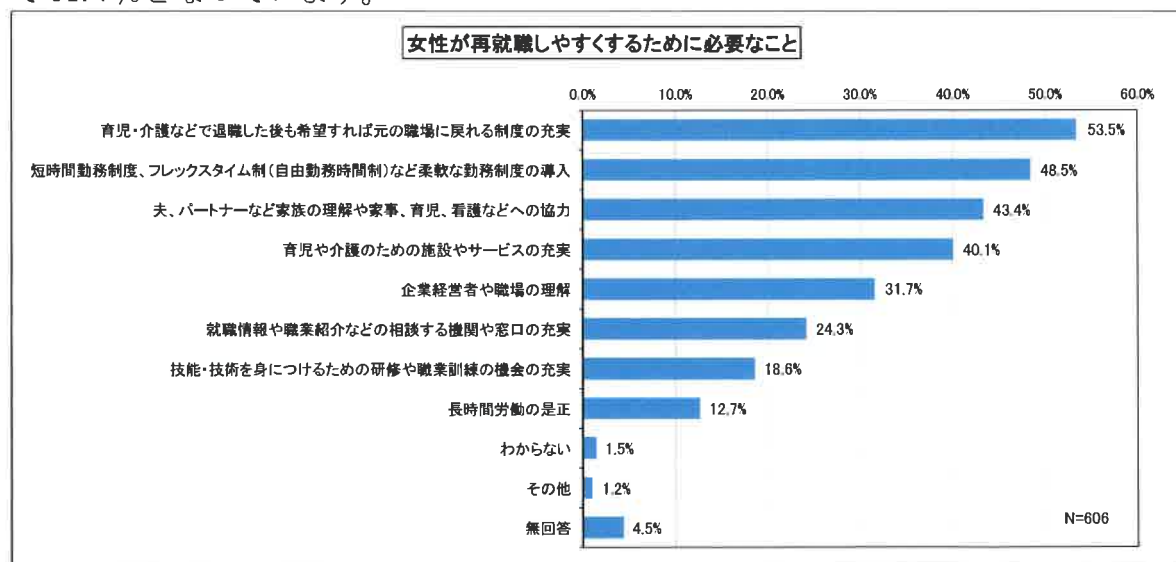
問 19 女性が働き続けるために必要なこと

女性が仕事を辞めずに働き続けるために必要なことの第1位は、「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で41.4%、第2位は「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」で39.4%、第3位は「託児施設、託児サービスを充実する」で38.6%となっています。



問 20 女性が再就職するために必要なこと

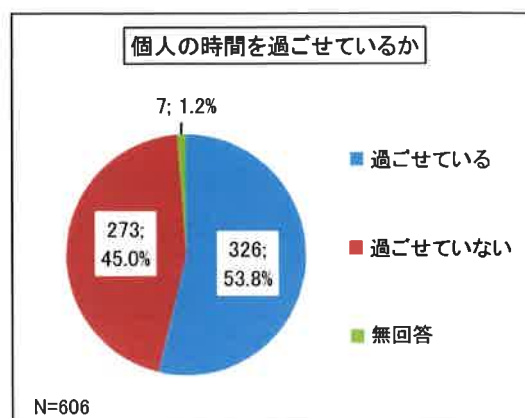
出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めた女性が再就職しやすくするために何が必要だと思うかの第1位は、「育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の充実」で53.5%、第2位は「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で48.5%、第3位は「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力」で43.4%、第4位は「育児や介護のための施設やサービスの充実」で40.1%、第5位は「企業経営者や職場の理解」で31.7%となっています。



ワーク・ライフ・バランスについて

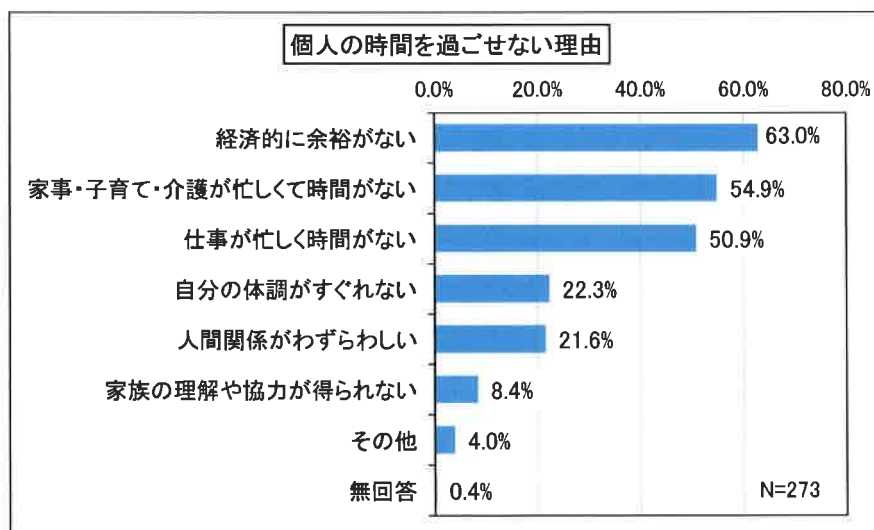
問 21 個人の時間を過ごせているか

趣味の活動や地域活動など、個人の時間を過ごせているかについては、「過ごせている」が 53.8%、「過ごせていない」が 45.0%となっています。



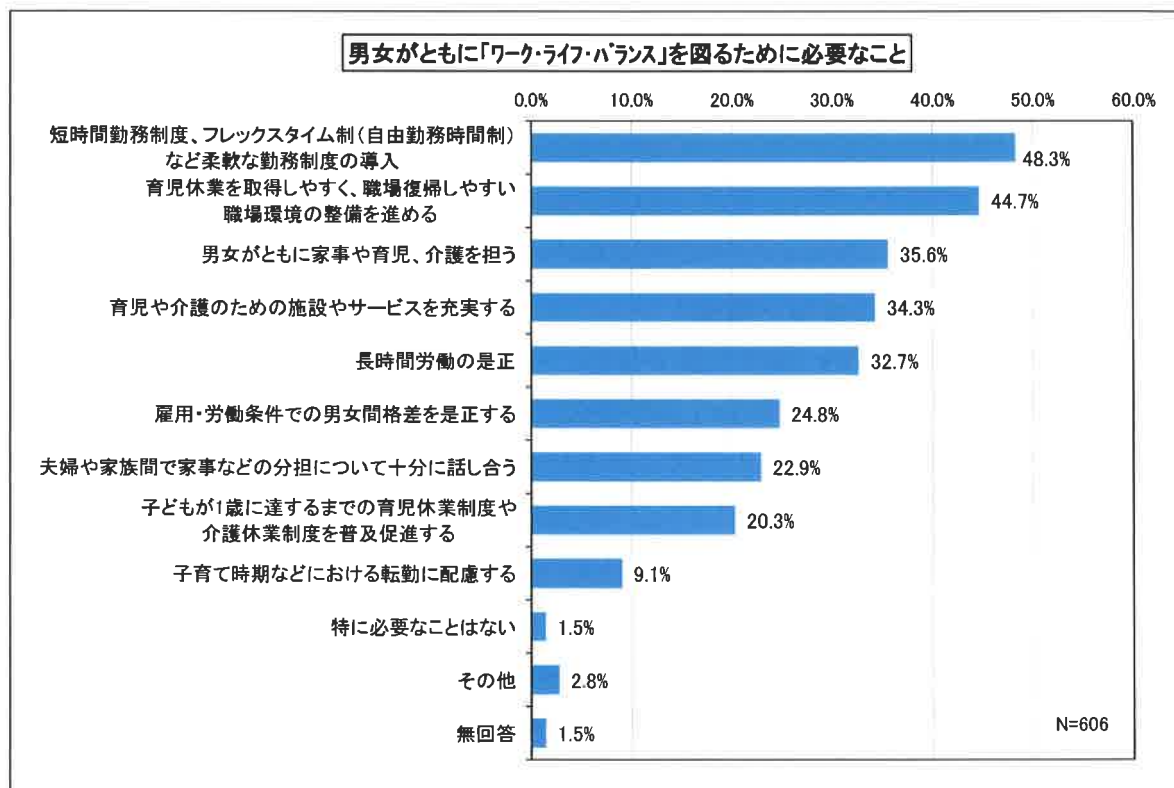
問 22 個人の時間を過ごせない理由

個人の時間を過ごせない理由の第 1 位は、「経済的に余裕がない」で 63.0%、第 2 位は「家事・子育て・介護が忙しくて時間がない」で 54.9%、第 3 位は「仕事が忙しく時間がない」で 50.9%、第 4 位は「自分の体調がすぐれない」で 22.3%、第 5 位は「人間関係がわずらわしい」で 21.6%となっています。



問 23 男女がともに「仕事と家庭の両立」を図るために

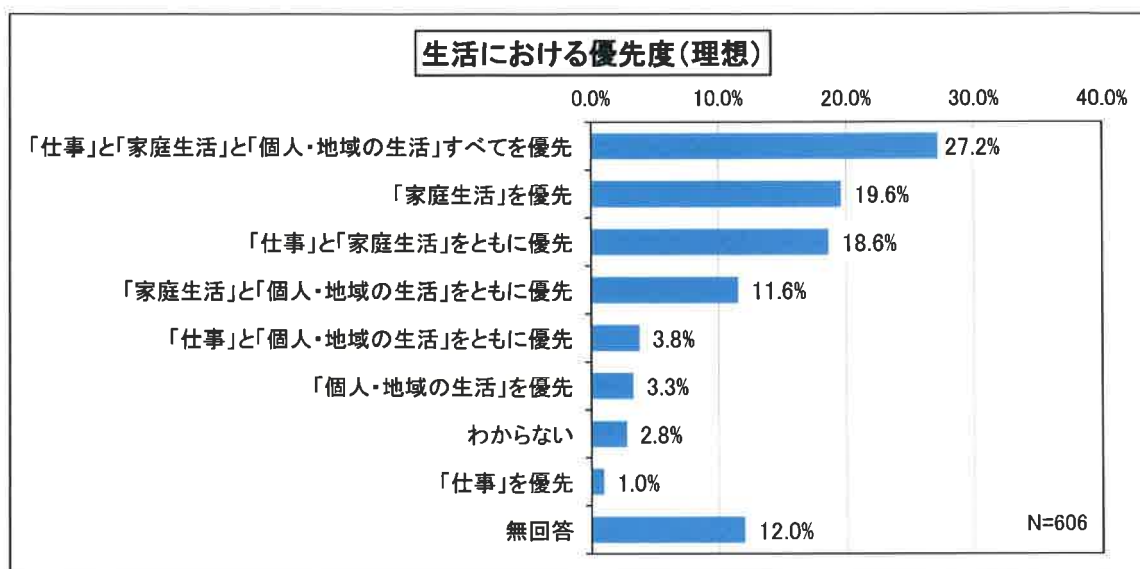
男女がともに「仕事と家庭の両立」を図るために必要なことの第1位は、「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で48.3%、第2位は「育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい職場環境の整備を進める」で44.7%、第3位は「男女がともに家事や育児、介護を担う」で35.6%、第4位は「育児や介護のための施設やサービスを充実する」で34.3%、第5位は「長時間労働の是正」で32.7%となっています。



問 24 生活の中での優先度

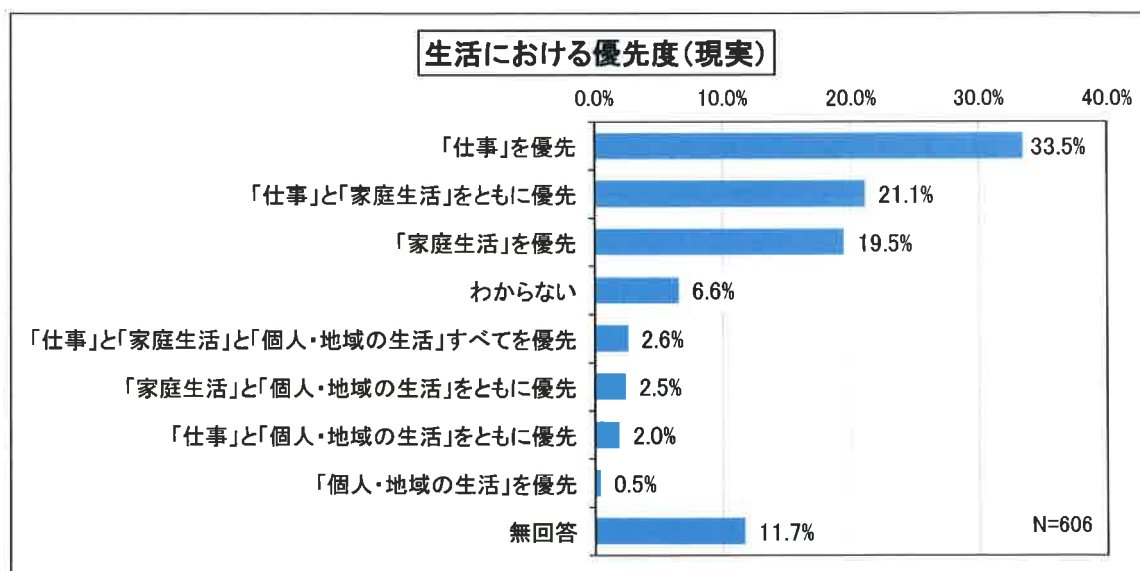
【理想】

生活における優先度の理想について、最も高いのは「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」すべてを優先」で27.2%、次いで「家庭生活」を優先」で19.6%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」で18.6%となっています。



【現実】

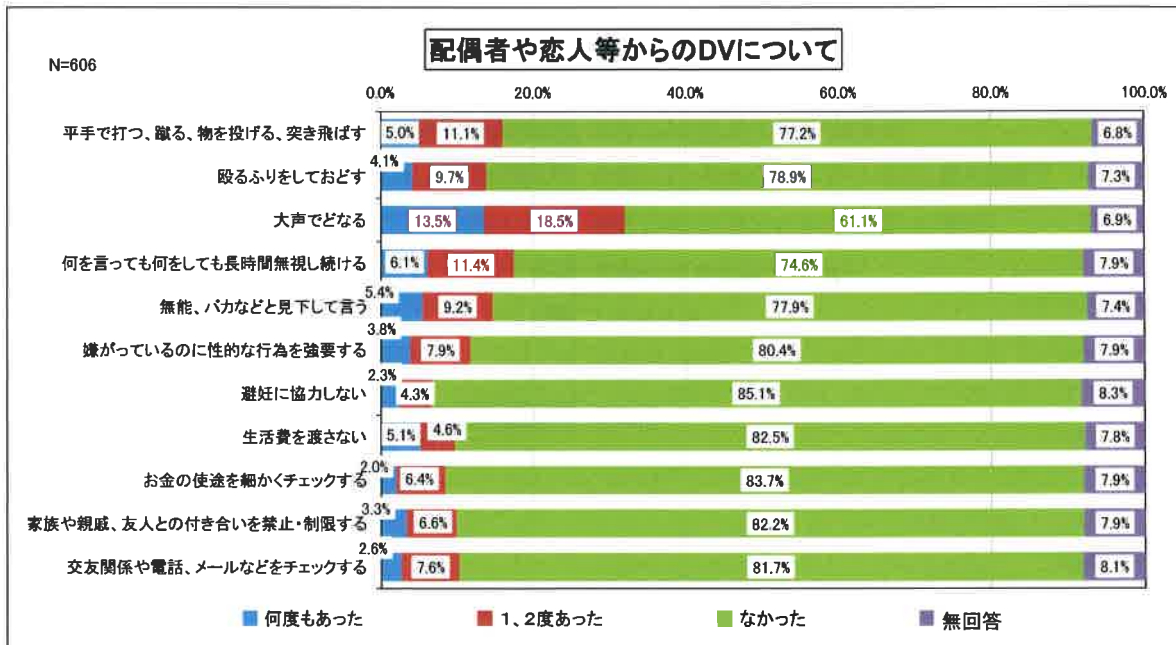
生活における現実の優先度で最も高いのは、「仕事」を優先」で33.5%となっており、他の項目より突出して高くなっています。次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」で21.1%、「家庭生活」を優先」で19.5%となっています。「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」すべてを優先」したいという理想に対して、現実には仕事を優先している状況となっています。



DVについて

問 25 DVの経験の有無

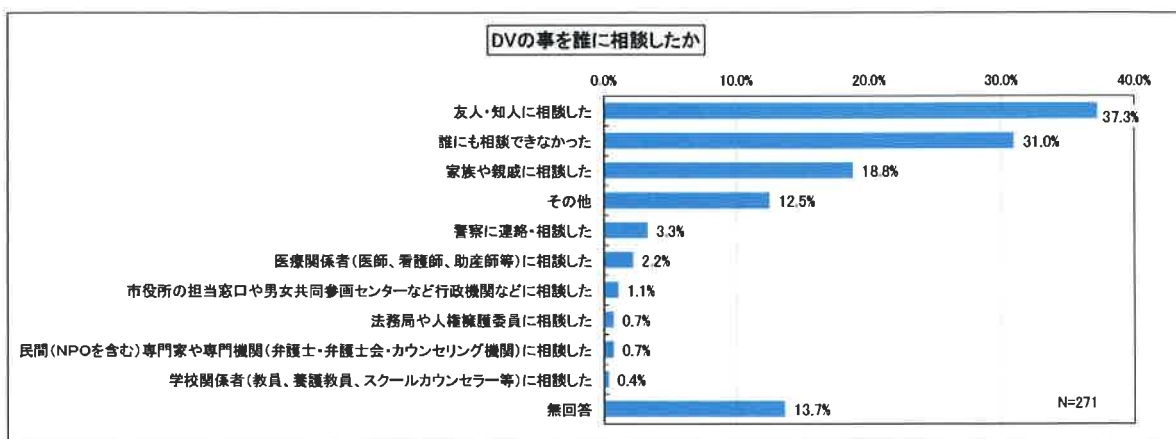
配偶者や恋人等からのDVについて、「何度もあった」と「1、2度あった」を加えた、DVを経験したことのある割合は、「大声でどなる」が32.0%、「何を言っても何をしても長時間無視し続ける」が17.5%、「平手で打つ、蹴る、物を投げる、突き飛ばす」が16.1%、「無能、バカなどに見下して言う」が14.6%、「殴るふりをしておどす」が13.8%となっています。



問 26 DVの事を誰に相談したか

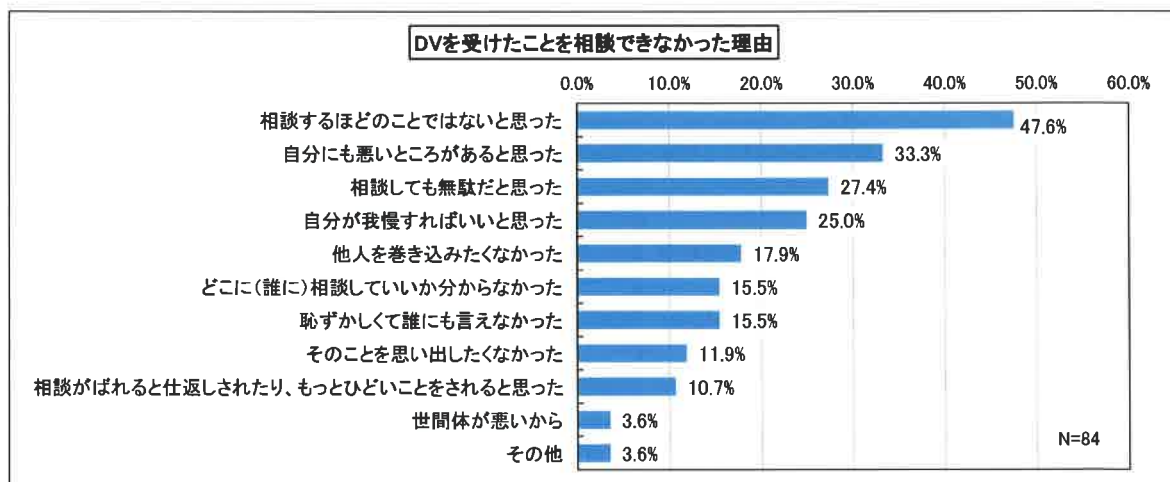
(「何度もあった」または「1、2度あった」が対象)

DVを経験したことがある回答者のうち、その事を誰かに相談したかに関して、回答の第1位は「友人・知人に相談した」で37.3%、第2位は「誰にも相談できなかった」で31.0%、第3位は「家族や親戚に相談した」で18.8%、第4位は「その他」で12.5%、第5位は「警察に連絡・相談した」で3.3%となっています。



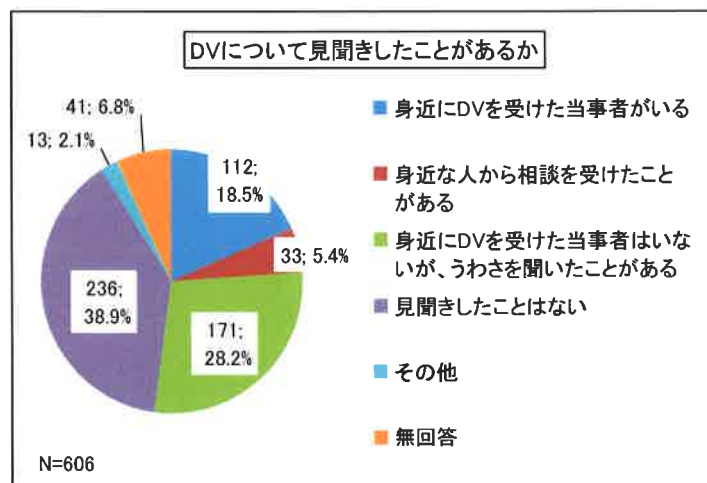
問 27 DVを誰にも相談できなかった理由

DVを誰にも相談できなかった理由の第1位は、「相談するほどのことではないと思った」で47.6%、第2位は「自分にも悪いところがあると思った」で33.3%、第3位は「相談しても無駄だと思った」で27.4%、第4位は「自分が我慢すればいいと思った」で25.0%、第5位は「他人を巻き込みたくなかった」で17.9%となっています。



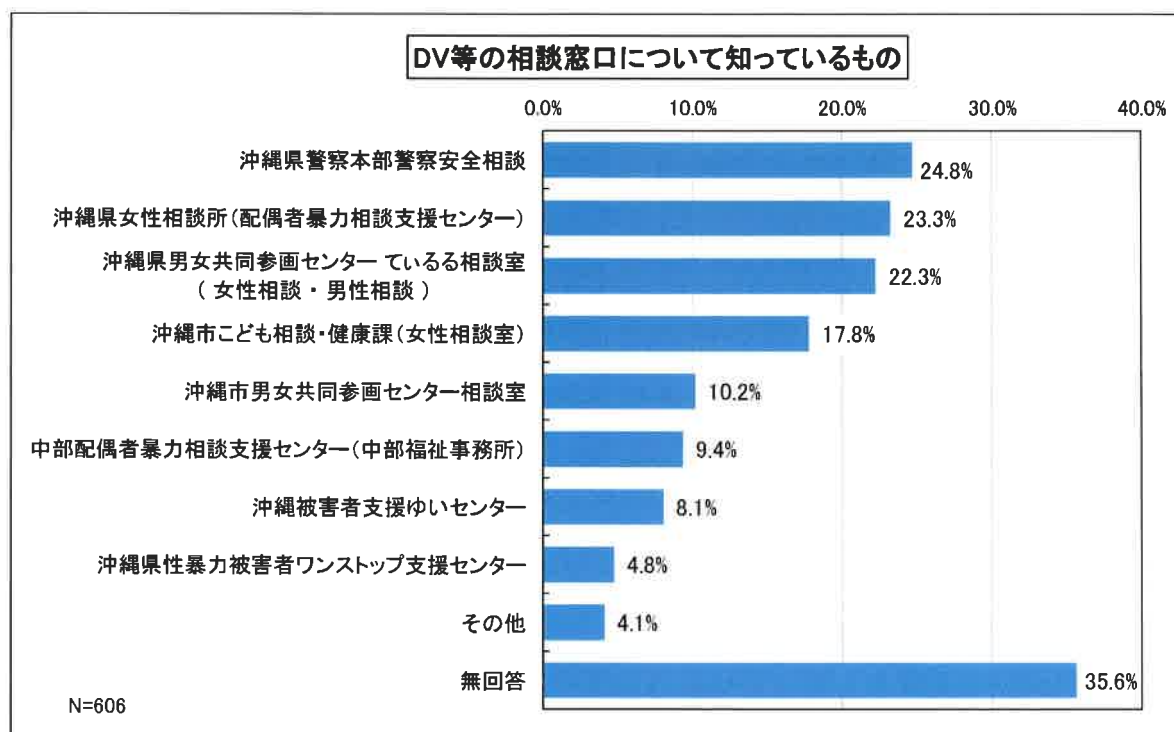
問 28 身近なDVについて

DVについて見聞きしたことがあるかについて、「見聞きしたことはない」という回答割合が最も多く 38.9%、次いで「身近にDVを受けた当事者はいないが、うわさを聞いたことがある」が28.2%、「身近にDVを受けた当事者がいる」が18.5%、「身近な人から相談を受けたことがある」が5.4%、「その他」が2.1%となっています。



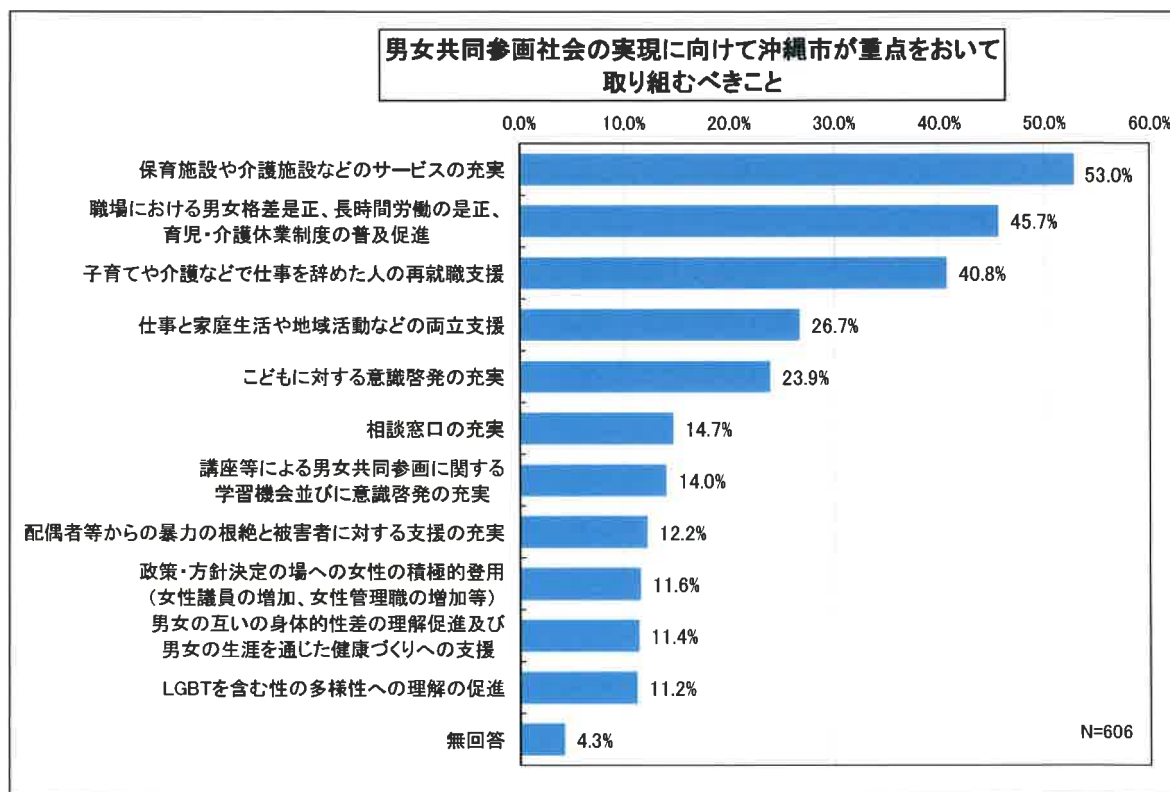
問 29 DVについての相談窓口

DV等の相談窓口について知っている窓口の第1位は、「沖縄県警察本部警察安全相談」で24.8%、第2位は「沖縄県女性相談所（配偶者暴力相談支援センター）」で23.3%、第3位は「沖縄県男女共同参画センター ているる相談室（女性相談・男性相談）」で22.3%、第4位は「沖縄市こども相談・健康課（女性相談室）」で17.8%、第5位は「沖縄市男女共同参画センター相談室」で10.2%となっています。



問 30 男女共同参画社会の実現に向け重点的に取り組むべきこと

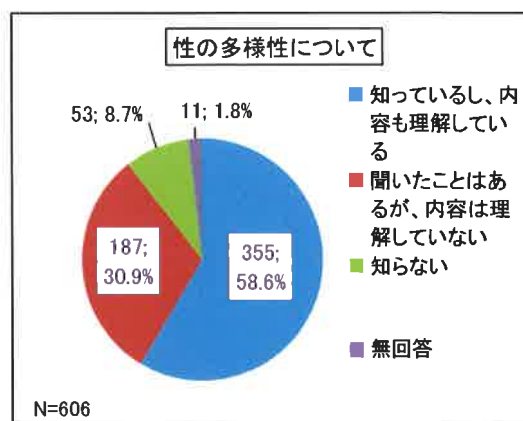
男女共同参画社会の実現に向け沖縄市が重点をおいて取り組むべきと思うことの第1位は、「保育施設や介護施設などのサービスの充実」で53.0%、第2位は「職場における男女格差是正、長時間労働の是正、育児・介護休業制度の普及促進」で45.7%、第3位は「子育てや介護などで仕事を辞めた人の再就職支援」で40.8%、第4位は「仕事と家庭生活や地域活動などの両立支援」で26.7%、第5位は「こどもに対する意識啓発の充実」で23.9%となっています。



LGBTを含む性の多様性への理解について

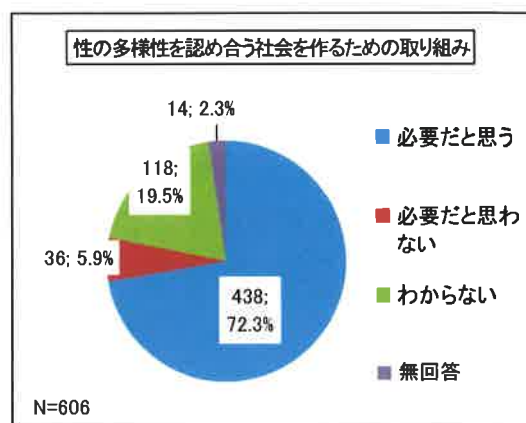
問 31 性の多様性への理解について

LGBTを含む性の多様性について知っていたかについて、「知っているし、内容も理解している」という割合が最も高く58.6%、次いで「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が30.9%、「知らない」が8.7%となっています。



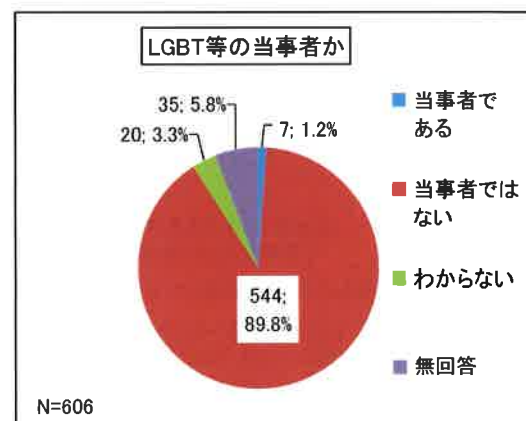
問 32 性の多様性を認め合う社会づくりについて

LGBT等の当事者への偏見や差別をなくし、性の多様性を認め合う社会を作るための取り組みが必要だと思うかについて、「必要だと思う」という割合が最も高く72.3%、次いで「わからない」が19.5%、「必要だと思わない」が5.9%となっています。



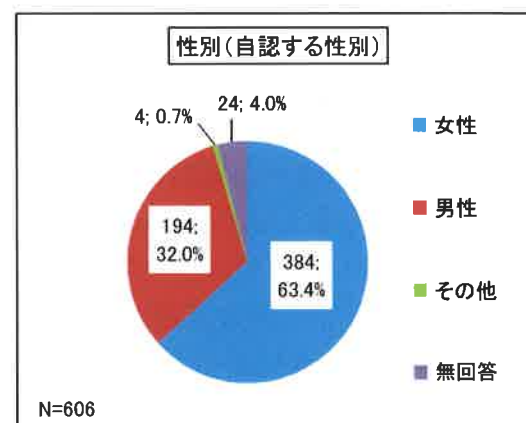
問 33 当事者か

LGBT等の当事者かについて、「当事者ではない」という割合が最も高く89.8%、次いで「わからない」が3.3%、「当事者である」が1.2%となっている。



問 34 性別（自認する性について）

あなたの性別は何かについて、「女性」という割合が最も高く63.4%、次いで「男性」が32.0%、「その他」が0.7%となっている。



自由意見

女性が社会に参画していくためにはもっと子育てに対する支援が必要である。 沖縄市は保育園待機児童も多いし、子どもが病気のときに預かれる病児施設も少ない(いつもいっぱい入れない)。もっと子育て支援に関する取り組みをしてほしい。
身近に LGBT の方がいないので、ピンときません。沖縄市でも、結構多くの方がいらっしゃるのでしょうか？ まだまだ表に出ない方も多いのでしょうかね。
男性が一家の大黒柱という時代ではありません。女性が働いています。働く女性は働きたいから働いていると思いますが、出産するのは女性です。出産前も働いています。体調が良くなくても、職場を休むわけにはいかないと考えていても、体調が悪く、赤ちゃんが危険と言われれば、まわりに迷惑をかけていると思いながらも仕事を休みます。この状態に耐えられない人はどんどん辞めていきます。産休・育休の長期取得、出産前休暇についても見直しが必要だと思います。
いろんな相談窓口を一覧にし、広報か何かでも知らせてほしい。
広め方によって、どうにでも変わりますので、間違った伝え方をしないようにしてほしい。また、言葉葉をにごすなど、中途半端にならにようにするべき。
男女の差が出てしまう事は、仕方のない事だと思う!! 現に、男性の方が女性より働いており、力仕事もやっている。難しいように思います。
男女平等の世の中とは言え、長男嫁でトートーメー問題で悩みます。男子が優先で家を継ぐのは長男とか男子を産めなかった姪は養子との間にうまくいくかどうか老後は不安がいっぱいです。女の子2人嫁に行くからです。
アンケートを取るならばぜひ向上に努めて頂きたく存じます。
・まずは、沖縄市に仕事の出来る場所を多く作る事。 ・時給を南部と同じように上げてほしい(1,000 円とか) ・介護施設で、身体をきたえる場所をふやしてほしい。 ・仕事後に運動やリフレッシュできる場所があってほしい。 ・就職のさいに、インターシップをできる企業を増やしてほしい(職場体験)。 ・経営者向けのコーチングの事業をおこなってほしい
政治に女性の議員が半分もいると世の中は良くなると思います。政治家の皆さんも定年をもうけるべきです。そろそろ世代交代お願いします。
沖縄市は保育園が少ないため、働きたくても働けない人が沢山います。現実、男性(夫)が働いてくれるため助かっていますが、もっと子どもが多い沖縄市、保育園をもっと増やしていけば、もっと良いと思います。一時保育できる所が少なすぎます。それで、女性が働くって無理です。子どもを安心して預けられる環境が必要だと思います。
男性、女性は肉体的、体力的違いは絶対的にあるので、すべての事柄を平等にすることは難しい部分もありますが、性別ではなく個々の能力に応じての仕事、役割を会社や社会生活の中で活かして行ける環境になればいいなと思います。そのためにはまず雇用主や同僚、地域で男女共同参画についての理解を深めていかないとはいけません。特にまだ子育て中の女性にとっては、厳しい環境が多すぎる様に感じます。

女性は本来働きたいのではなく、働かざるを得ない環境である人が大半を占めているのは最低賃金にも関わっているのでは、県内で高取得といわれる公務員の方々が理化し、関わって頂きたいと思います。アンケート内容がそもそも”女性は働きたい””働けるには”という前提で作成されている事が女性の負担を広げていると思う。
男女平等とは、強い男は弱い女をいたわって初めて平等。重くて持てない女性に変わって持ってあげて初めて平等。
今回の9月7日の平和イベントに仕事の合間、参加させていただきました。心のゆとりや生活のゆとりがないとなかなか地域への関心は退化するばかりで、今日一日いっぱいいっぱい明日は無事にむかえられるのだろうか？電気、水道、光熱費、NHK、保険料、その他の請求書が山積みであっちこっちから借りては払い、それがまた借金となり、市役所に相談すると窓口で生活保護を受けるしかないですねと言われ、途方にくれながら、半額の食品を買いもとめ、なんとか、親の面倒を見ている。自分も病気もちなので、フルには働けず、未来に絶望を感じながらも1つ1つ平和のツルを折りました。色々な願いをこめて…このような生活をしている方々は、多くいらっしゃると思いますが、国には届かない。県、市町村には届かない。日本の未来はどうなるのでしょうか？ツルを折ることで心おだやかになりギネスに協力できたことをささやかながらうれしく思います。関係者の皆様ほんとうにおつかれさまでした。また、おめでとうございます。皆様の御多幸を祈っています。
同じ沖縄県でも市町村によって差別が有る緊張をに間らうべきで有る。
男女共同参画の人員と沖縄市議会員のコラボで、沖縄市議会の開催してみるのも良いと思いました。
アンケートの項目の偏りが気になる。女性が差別されているという結果しかでなそう。
他の市町村も男女共同参画センター等を設置しているのでしょうか。LGBT相談窓口があるのは、とても素晴らしいと思う。ただ現役教職員向けの講座はもう少し強化したらいいのかなと思う。LGBTに属する学生に気づき、楽しい学校生活が送れるよう、配慮できる先生がいない気がするので…学校の規則だと思うが、男子学生服、女子学生服どっちからかを着ないといけない、中学・高校生活もLGBTにとっては、居心地が悪いのかなと思う。
皆が「沖縄市に住みたい！と思うような場所にしてほしいです。
家庭や夫婦の問題を相談し、相談員からのアドバイスなどを実行できるか不安と相談したことがばれると最悪でも、一人で悩まずに相談しかないかなとも考える。今後の為にも祖弾室の利用は検討したい。
甘やかすのでは無く、次世代を津殻強く担ってくれる子供達をみんなで育てて行く事が地域を育てていく事ではないでしょうか？

・今回のアンケートに回答する機会を持てて良かったです。私は「作用療法士」OT の仕事をしています。OT になるための教育の場でも、仕事上も女性であるから不利な条件や状況になることが比較的少ない方であると感じています。初任給の男女差もありません。が昇任するチャンスは男性の方がやや多いと思います。⇒男性は産休などをとる人が少ない。女性はキャリアの中断が多いので…。

・1児の母として”仕事と育児の両立”をしていた時、大きなさまたげになったのは「子育ては母親がすべき」ちう考えを持っている、上司、同僚の親族でした。⇒問 19 の 11 を選んだのはそのためです。11 が成功するのは果てしない道のりのように感じますが、同時に男女共同参画のためには一番の近道でもあると思います。

・学校教育で…(問 12)「家庭科」に女子の勉強(=男子がするのははずかしいとか不要のイメージもあるのでは)というイメージがもう固定化していると思うので、名称を変える方が良いと思います。「男女ともに家庭生活に必要な知識・技術を教えること」には大賛成です。そして、その「知識・技術を身につけること」は「自分の人生にとって重要であること」「出来るようになること」がすばらしいこと、であると子どもたちが感じて育ってほしい。

・沖縄市は…子どもが多い(子育て世代が多い)ので、是非、保育園等の充実を！沖縄の中で一番子育てしやすい街を目指してほしい。子どもの国、図書館、くすぬち、東南植物楽園など親子にとって良い場所も多いので。

・PTA…主婦だった時に、PTA に参加しました。「主婦=いつでも OK」という感じであてにされ、嫌な思いをすることもありました。PTA の必要性や、あり方を再考する必要もあると思います。誰でも参加できるようにとか！

沖縄の人は昔から男の人を大事にしすぎて男の人がだらしくなっている。行事では男の人は何もしない、女の人はずっと働く風潮がある。改善しないから離婚が多いと思う。

男女共同参画と表記する事がまず改める事では、働く事、社会とかかわる事は色々あると思います。色々な人がいて、考え、思った通りに生活に充実できる様な社会になれば、理想的だと思います。(人が違えば、育った環境が違えば、それぞれの価値格があるのでは)

沖縄市は貧困のイメージがあるので、市ならではの独創的な施策が必要と感じる。男女共同参画でも雇用する就職先が少ないことも要因のひとつであり、交通渋滞を解消する手だてもふまえながらいい気での企業を発足させることも必要と感じる。

沖縄は男性の育休取得率が全国より多い？そうです、子育ては男もするべき！！と広めて下さい。

安心して子育てができて、子どもの心身の成長に広く活躍してほしい。沖縄市だけでなく沖縄県全体が「性」に関して、男の役割、女の役割についてど等同でない部分が大きいように感じる。DV 被害者の PDSO 診断と治療に関しても積極的に行ってほしい。DV 加害者へならないための、連鎖を切るための一歩として。

・男女共同参画…自体があまり知られていない気がします。特に年令が高い人ほど、そうだと思います。沖縄市広報を活用してはと思います。

・教育現場での子どもたちへの参画

頑張ってください、お疲れ様でした！

“働きは最上の喜び”とにかく皆労働して報酬を得て喜わせ幸せになれるように

私は県外から来て仕事をしています。5年目になりますがお付き合いしている人に生まれては初めてDVを受けました(沖縄の人です)DVはその人の育った環境が大きく影響していると思います。なんで好きな人に暴力をふるうのか分かりませんが、その時は意思とは反対の行動が出ていて本人もやっていることに気づいていないのかもしれませんが、かといって許される事ではありません。気に入らない発言をされるとカッときて殴ったり言葉の暴力で朝方まで攻められ続けます。大きな声がするので近所にも聞こえているはずで、いつ苦情が来るかとひやひやして生活しています。コンビニとかに貼ってあるDV相談の電話番号に電話したこともありましたが祝日で留守電話でした。それ以後電話はしていません。DVされたことはその恐怖が体で覚えており、忘れることはできません。今でもいつやられるか常に不安です。生活を変えることができずにいます、こんな人たくさんいると思いますよ。
女性のことだけではなく、男性にも着目してほしい
もっと市民皆が意識、理解できるようにうまく伝えていかなければ意味がないと思う。実際初めてこのアンケートで男女共同参画というのを知った。沖縄市は伝え方宣伝などが下手だと思う。
人が性別に関係なく、互いに尊重し支え合える社会こそが幸福・平和につながると思う
私は助成で現在働いているのですが、おきなわ広報で良く講座を見るのですが、シニアや労働者ばかりの無料講座が多はなぜでしょうか？もっと無色の方や若い方にもチャンスのある募集が良いのになと思います。見逃していたらすみませんもっと楽しく選べる環境をお願いいたします。
講座をやったりすることも大切だと思うが教育として子供たちに教えていくことの方が大事だと思う。大人になった時にジェンダーレスな世界がふつうであることの方が望ましいと思う
問30に「女性議員の増加女性管理職の増加」とありましたが、確かに男女平等という点では重要と思います。しかしこれらを増やしたからと言ってパワハラ、特にまた腹や育児中のママへのパワハラなどは減ると思えません。人の上に立って仕事する人たちが男女共同参画を理解していない意識が低ければ意味がないです、人事の際に昇進させる時には男女共同参画、そのものを理解し、かつそれに基づく行動ができる人材なのか、をしっかりと見抜いて選んでほしいものです。
ぜひ推進してもらいたい
女性が社会参加をしていくには保育園の充実が必要不可欠だと思います、沖縄市も「待機児童ゼロ」を目指しての活動よろしくをお願いします
このようなテーマは個人個人の置かれた状況や価値観などで様々だと思われるので、他人様のことをあれこれ言ったり判断することは不可能なのではないかと思います。ただ、だからと言って無視をするのではなく関心を持ち考えることはとても大切だと思います。
沖縄市主催のピースランという行事にも取り組んで男女共同参画の取り組みも多様多積に多くの方に呼びかけて放送していけたらいいと思います
今回のアンケートで、初めて知った沖縄市の取り組みが多かったので自分自身があまり興味がなかったのかな？と思うと同時にもっと多くの人に知らせられる仕組み作りが必要だと思いました。例えば人が多く集まるイベント(エイサー祭り、キングスの試合、Aランチ選手権等)市の取り組みを拡散できる仕組みが作れたらもっと面白くなるのではないかと思います。
LGBTのことへの理解を小学校教育に組み入れ道徳の時間で学び共存できる社会にした方が良くと思う。LGBTの子を早期に発見して幼少のころから苦しめないよう配慮生活させたいと思う。子どもの貧困をなくすための方法？

社会全体の取り組みが必要だと思う、特に日本は遅れていることを日本人の全ての人が理解することが大切であると思うし、子どもの教育が意識付けがこれからの日本を変える大切なことになると思う ※お仕事、ご苦労様です頑張ってください！！
基本的に男・女と分ける必要ないと思います、できる人がその役割を果たせばいい、平等が大前提
沖縄市を良い方向にという動きに、とても共感します。
生活が苦しい
賃金の違い
男女所得地方と都市などから m に得るのは弱い方にお金が回っていないと思う、この格差を解消するにはいろいろな問題があるが地元の産業、地域の連携が必ずかかわってくる、まず各事業所からの啓示から必要になってくるのではないかな
男女共同参画センターがあることが全く知りませんでした。もう少し市民にアピールすることが大事だと思います
全国に先駆けて県全域で同姓のパートナーシップを導入してほしい。そのためにも沖縄市も同制度を導入してほしい。
今回のアンケートでそういう取り組みがあることを初めて知りました、もっと多様な人が知ることのできる機会があったらいいなと思います
男女平等と協働参画の言葉の鳥違いを良く聞く。身体的に男女差は生まれながらにしてあるのだからお互いをきちんと理解し支え合って、せめて共同参画が成功するのではないかなと思う。思いやりは双方に必要だと思われるので、その心を基にできる人ができる時に家内とも職場においても協力していけたらいいなと思っている
LGBT に関してはその個人のつらい過去が原因なので過去に起きた辛さをカウンセリングなどで取り除いてあげる必要があると思います
LGBT、性の多様性については認め理解する必要はもちろんあるが、受け入れる方向ではなく『治す』という方向性がベストだと思う。そういう意味での取り組みは必要だと思う
色々なことを学校でやってもらうのは限度があると思う、パンフとかも渡すだけで子供たちに理解させるまでには至らない。各学校や職場、公民館、イベント会場、お笑い芸人たちが回って分かりやすい内容の劇とかにかんして見せてくれる機会が増えれば食いつくと思う
職場でもまだ、男性の女性蔑視を感じる。女性の能力を活かすことができる組織が今後は発展していけると思う。その一役を担えるよう女性として力を発揮し社会の一員として貢献したい。組織や行政のバックアップを願います
沖縄県は男女格差がひどい、古い習慣から抜け切れない文化がある{なんくるないさー}は悪習だと感じている「他人に思いを巡らす」という観点がなさすぎる
アルコール依存症や暴力など家庭内で困っていることを相談できる場所があればいいなと思います
男だから女だからではなく、一人の人間として子供たちが胸を張って笑って暮らせる地域になればいいと思います
男性、女性共に育児休業を取りやすい社会であつたらいいと思います。そのためには経済的に会社も個人もゆとりがあることが一つの条件だと思います。
沖縄県の高齢者が一番男女平等を理解していない長男が一番という考え次男は長男の次、女の子は

どっちでもいいという考えが根付き過ぎ
男性が中心となって作っている社会の中で女性への偏見は、一般社会のみならず、市議会議員の中にも見受けられる。1人1人の考え方か？認識か？変わらない限り、共同は難しいのではないのでしょうか？
宣伝不足。公共施設の場合、ほとんどが、ネット検索して初めて施設の存在を発見する為、それ自体あってもネット検索しないと発見できない施設又は政策では、存在してないのと同じ。あっても意味がない。税金のムダ使いと同じ。そのため、警察署等に窓口を作った方がいちばんわかりやすい。
沖縄県は、女性に期待される役割が多く、負担が大きいと感じます。行政の力でやれることをできるだけ頑張って下さい。
女性のことが優先されすぎている部分も感じます
アンケートに答える事で「少しは男女共同参画」に対して、興味を持つ事ができました。ありがとうございます。
・聞いたことの無い内容が多く、勉強になった。 ・サービス残業は、人の創造性を負わせます。現実には、長時間労働以前の問題があります。事業者もきびしいと思いますが、全体が衰退すると思います。
・長時間労働の是正については特に改善を求めます。沖縄市が率先して行うことを期待します。残業時間減らすなど。 ・沖縄市は子どものまち宣言をしているので、子育て世代の方々が働きやすい環境づくりをしてほしい。保育施設の充実など。 ・沖縄市がどのような取り組みをしているのかあまり分からない。活動をもっとアピールすべきだと思います。地震が就労しており将来は子育てをすることになるので、特に上記2つの取り組みの充実を望みます。周りには、朝早くから夜い奥まで仕事場にいても仕事が終わらない。職員増やしてほしいと言う人や、育休から復帰するとき保育所探しに苦労した。仕事辞めるところだった。という人もいた。そういった話をきくと不安になります。ただ、そういった方々の役に立つ情報があるなら知りたいし、政策があるならすぐに実行してほしいです。
ところどころで書きこんだが、男女平等のはずが男女悪平等になっている面がある。私は保育士と幼稚園教諭をしていたが職場は男性は自分一人で”男だから”と任される仕事はたくさんあったし(嫌ではない)女性は女性である特権を十分利用していたと思う。特権を利用しながらも文句を言っている女性は独身でモテない人が多かった。インドのようなカースト制度、男尊女卑でもないし、ゲイやレズの人でもモテて自分の性、プライベートが充実している人は文句やことさら男女平等を主張している人はいないのが僕の周囲の現実だ。正直男女平等よりも子育て支援、保育現場の改善を求めたい。子育て支援ではなく、親の就労支援、現場の状況を知らない頭の中がアップデートされていないジジイ議員が給料改善して、無資格者でもいいから人手解消にどんどん採用しておけばどうかなと思っていることが問題だ。こどもの町であるならば幼児教育に力を入れてほしいし、議員も市長も保育園、幼稚園、介護：障害者施設で1年以上勤務経験がないと立候補出来ない制度を作ってほしいくらい彼らは現場の事、幼児教育、福祉のことについて何も知らない。選挙が終われば施設にもこないし、現場の声を届けても係長止まり、何か施行する時は思考決定後に”現場と話し合ってた”という既成事実作りを集められて話し合い、説明されるだけでほとんど議員や上の一存だけで強行に採決されている。男女用等にしても

LGBTにしてもそう感じるし、現実を無視していると感じる(父性、母性、男性、女性でなければ出来ないことは沢山あるし、もしそれが間違っているなら理由を説明してほしい。男女混合名簿も理由の説明もなくいきなり強要され、これに満足して達成感を味わっているのは冲教祖とノンケのバカ議員だけだったので何をするにしても現場に議員を来させる、意見を聞く、説明背金を果たさせることが第一だと思う。LGBTを理解させるつもりが内地の周和教育のように更に差別を助長させる結果にならないことを願います。

今の時代は男が仕事をとらせ女性の働く事じゃましているので男性にもっと女性がふたんをhらしていける事とちゃんと働ける様になる事を今後のかだいとして、県や市や町など強く取りくんでほしいです。

がんばって下さい

私は県外からの移住者ですが、沖縄県民の方々の意識で、男は何もしないで女が動くことが当たり前とされているように感じられます(特に高齢になる程)。女性が仕事を継続するには家庭での分担が必要で、その為には男性の意識改革が必要だと思います。

男女共同参画という言葉は役所がどこかで目にしたことはあるが、どういうものかはぜんぜん知りませんでした。私の地元は沖縄市ではありませんが、沖縄市に住むようになって、福祉の充実やいろいろなイベントなどをせっきよく的にやっているのを見て、いろんな面で助けられています。これからもやり続けて下さい。こうやって住人のアンケートをとり、意見を聞くことは個人的によいことだと感じます。

相談しても何もしてくれない行政。弱者に本当に力になってくれる行政の人、いないのが残念。あきらめばかりで希望持てない沖縄市を何とかして欲しい。

保育園へ入れなかったことでフルタイム勤務ができず、給与が減りボーナスも入らない、これでは女性が社会進出などむずかしい状態であると思います。市だけでなく企業も努力を

申し訳ないが、このアンケートには答えずらかったです。年齢が60歳以上で独身(未婚)の私にとっては。

私は母の介護をしています、ヘルパーさんの時間を増やしてほしい

男女共同参画という言葉はあwかりませんでしたが、解説の中にわかるのもありました。詳しく知りたいと思う事があっても中々出向くのが難しいのが現実です。もっと手に取りやすい状況にあれば、いろいろな人の目に止るかもしれないと思いました。

・子どもの頃から男女問わず料理や片付けを習慣化させる。大切にされる。環境づくり。が大切だと感じます。

・仕事を定時に帰れることを普通にならたらいいな

男と女では、男性、女性と言うように、性格の基(基本)が違うと思います。女は卵巣が有り、卵を持ち歩き、卵を守りながら日々生活をしている女が、卵を守りながら日々、男たちと仕事で、競争し合うのは、痛々しい思いがします。生活が苦しくて仕事をしなければならないようなら、夫や男の給与を政府が良くしてあげて、その分女は家庭に入り、親、夫、子どもたちを愛してほしい(幸せになれる)。人間はそう言う生き物だと思います。

・保育園の充実(数を増やす事、保育の中身の充実

・埋め立て事業(泡瀬)本当に計画通りいくのか?

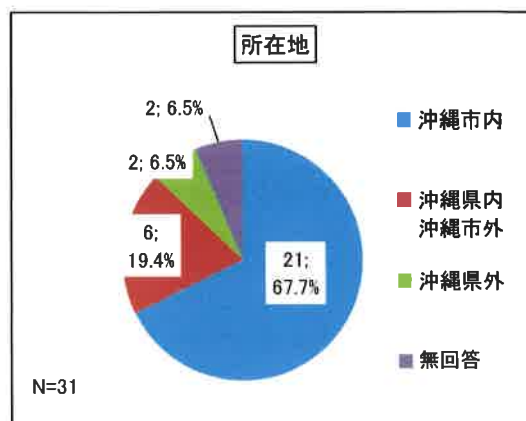
・子どもが奥さんから、どこに助けを

（２）事業者アンケート

問１事業所の概要

【所在地（本社）】

アンケートに回答した事業者の本社所在地は、「沖縄市内」の割合が最も高く 67.7%、次いで「沖縄県内沖縄市外」が 19.4%、「沖縄県外」が 6.5%となっています。



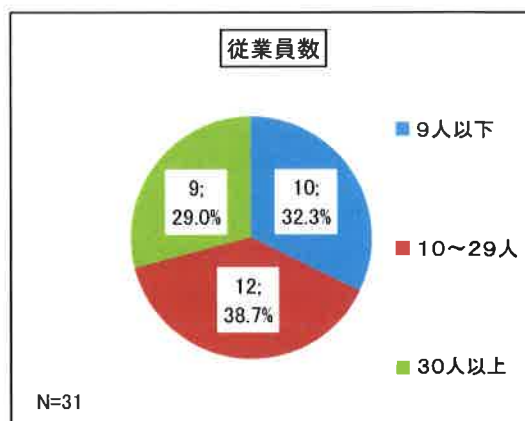
【業種】

業種は、「卸売業、小売業」の割合が最も高く 38.7%、次いで「宿泊業、飲食サービス業」が 16.1%、「建設業」、「製造業」、「金融業、保険業」、「医療、福祉」が 6.5%となっています。

卸売業、小売業	12	38.7%
宿泊業、飲食サービス業	5	16.1%
建設業	2	6.5%
製造業	2	6.5%
金融業、保険業	2	6.5%
医療、福祉	2	6.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	1	3.2%
情報通信業	1	3.2%
学術研究、専門・技術サービス業	1	3.2%
教育、学習支援業	1	3.2%
複合サービス事業	1	3.2%
その他サービス業	1	3.2%
運輸業、郵便業	0	0.0%
不動産業、物品賃貸業	0	0.0%
生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0%
その他	0	0.0%
合 計	31	100.0%

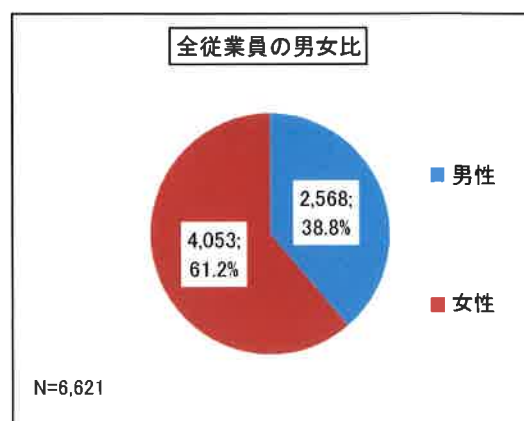
【従業員数】

従業員数は、「10～29 人」の割合が最も高く 38.7%、次いで「9 人以下」が 32.3%、「30 人以上」が 29.0%となっています。



【全従業員の男女比】

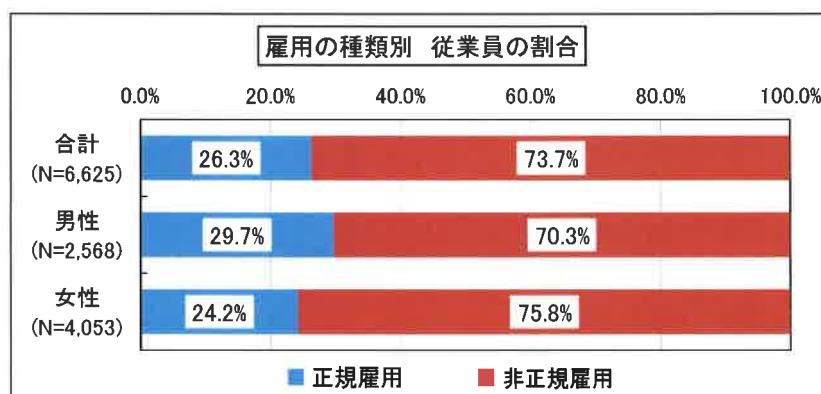
全従業員の男女比は、「男性」が 38.8%、「女性」が 61.2%となっており、女性の割合が上回っています。



【雇用の種類別 従業員の割合】

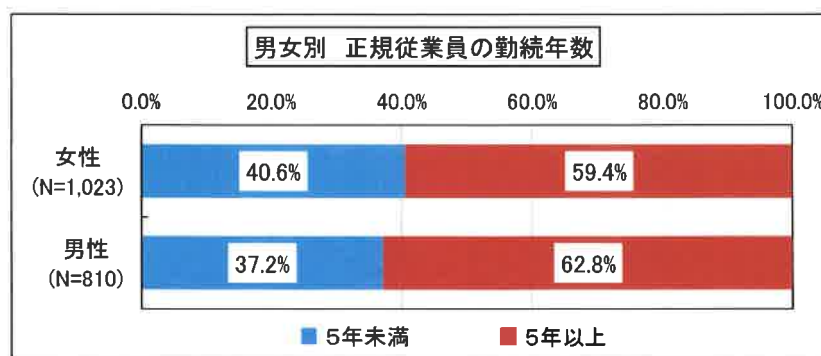
従業員雇用の種類は、「正規雇用」の割合が 26.3%、「非正規雇用」が 73.7%となっており、「非正規雇用」の割合が「正規雇用」の約 3 倍となっています。

「男性」では、「非正規雇用」の割合が「正規雇用」の約 2.4 倍、「女性」では約 3 倍高くなっています。



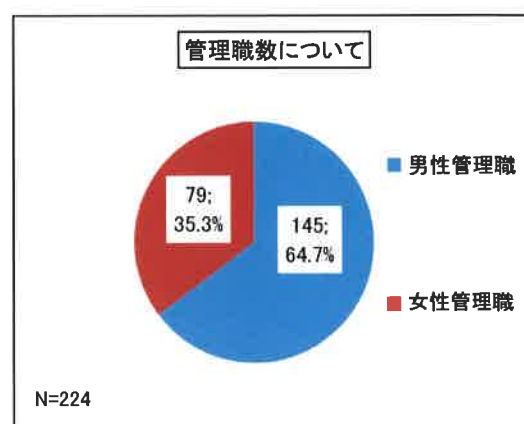
【男女別 正規雇用従業員の勤続年数】

男女別正規雇用従業員の勤続年数は、「5 年未満」では女性が 40.6%、男性が 37.2%、「5 年以上」では女性が 59.4%、男性が 62.8%となっています。



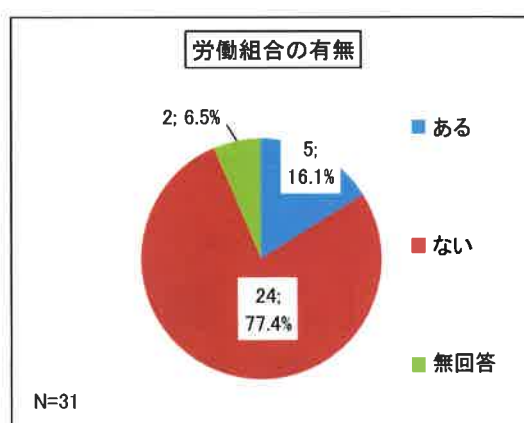
【管理職数】

管理職の数は、「男性管理職」が 64.7%、「女性管理職」が 35.3%となっており、男性管理職の割合が約 2 倍となっています。



【労働組合の有無】

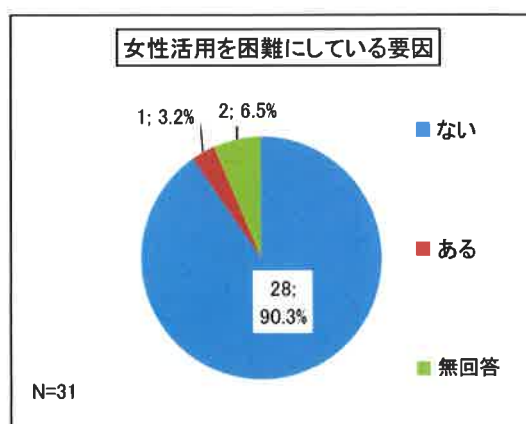
労働組合の有無については、「ある」が 16.1%、「ない」が 77.4%となっています。



女性従業員の活用について

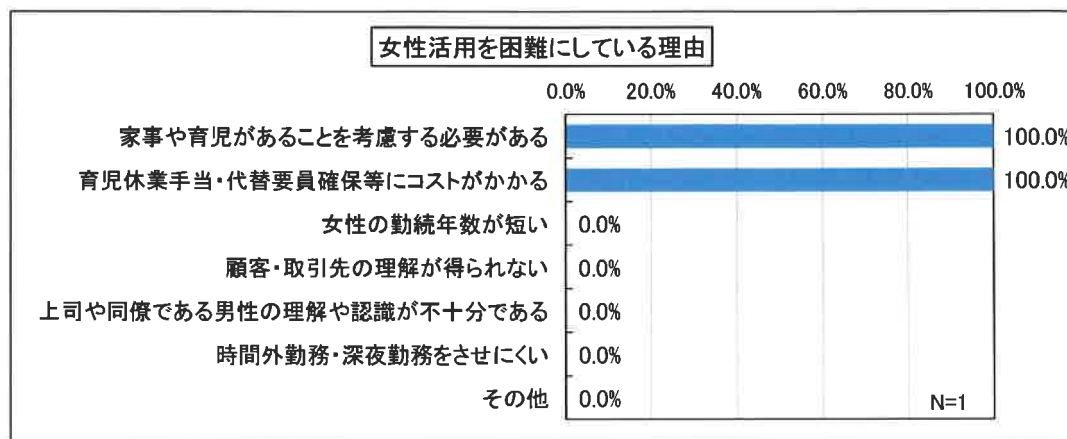
問2 女性活用を困難にしている要因の有無

女性活用を困難にしている要因があるかという質問に対しては、「ない」が 90.3%、「ある」が 3.2%となっています。



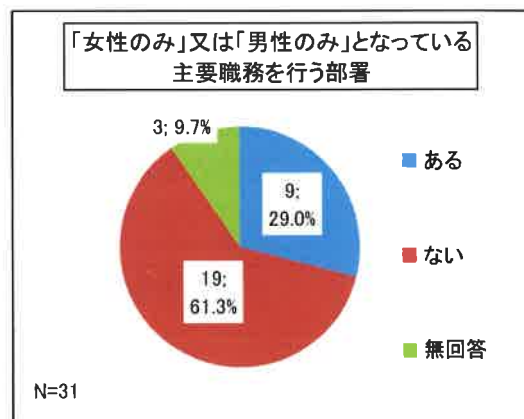
問3 女性活用を困難にしている主な要因

女性活用を困難にしていると思う主な要因は、「家事や育児があることを考慮する必要がある」及び「育児休業手当・代替要員確保等にコストがかかる」となっています。



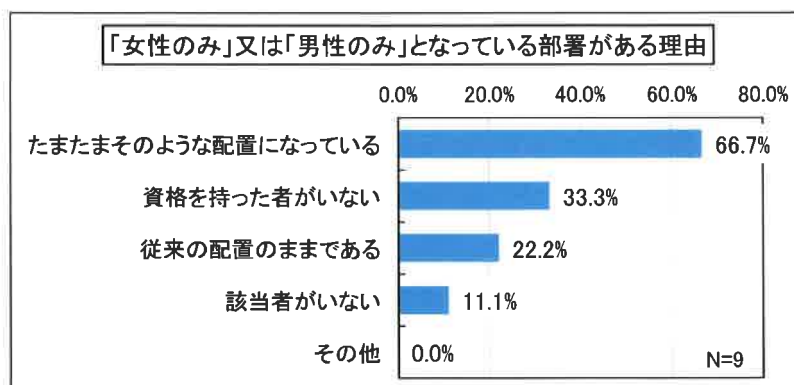
問4 「女性のみ」又は「男性のみ」となっている主要職務を行う部署

「女性のみ」又は「男性のみ」となっている主要職務を行う部署はあるかについて、「ある」が29.0%、「ない」が61.3%となっています。



問5 「女性のみ」又は「男性のみ」となっている部署がある理由

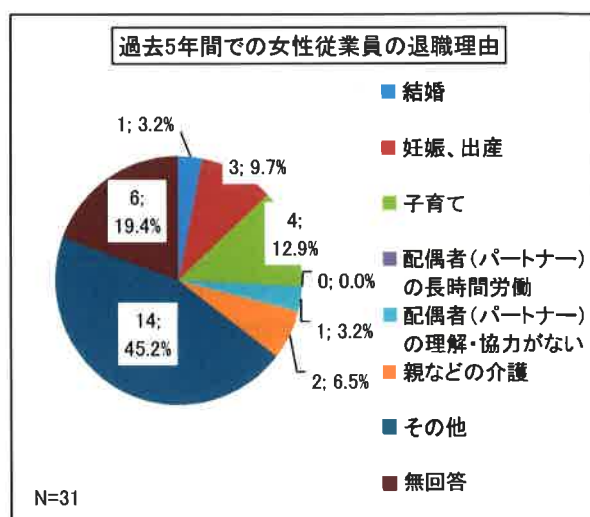
「ある」と回答した理由の第1位は、「たまたまそのような配置になっている」で66.7%、第2位は「資格を持った者がいない」で33.3%、第3位は「従来の配置のままである」で22.2%、第4位は「該当者がいない」で11.1%となっています。



問6 過去5年間で的女性従業員の退職理由

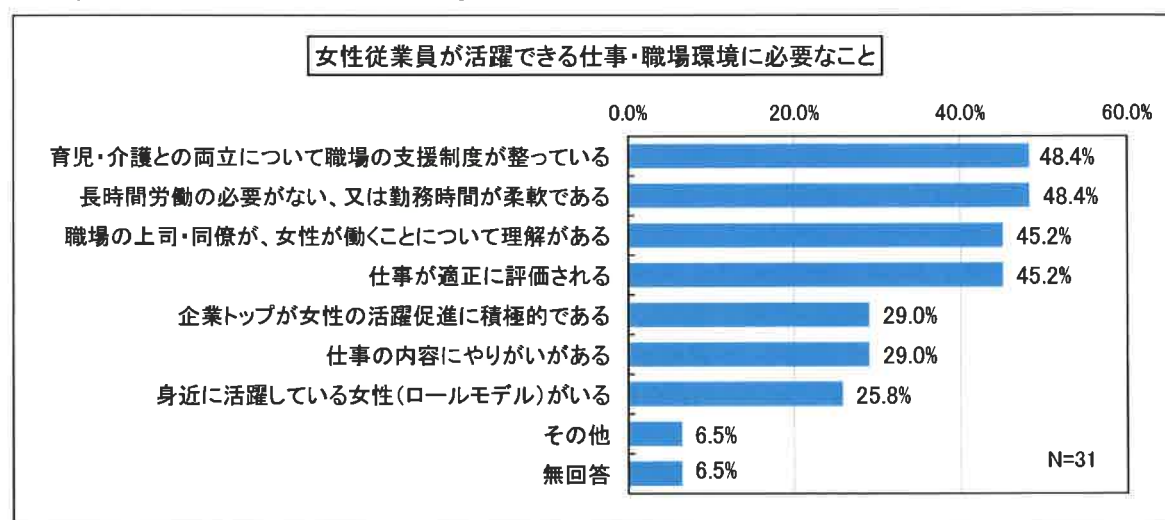
過去5年間で的女性従業員の退職理由で最も多いと思う理由について、「その他」の割合が最も高く45.2%、次いで「子育て」が12.9%、「妊娠、出産」が9.7%、「親などの介護」が6.5%、「結婚」及び「配偶者（パートナー）の理解・協力が無い」が3.2%となっています。

「配偶者（パートナー）の長時間労働」と回答した方はいません。



問7 女性従業員が活躍できる仕事・職場環境に必要なこと

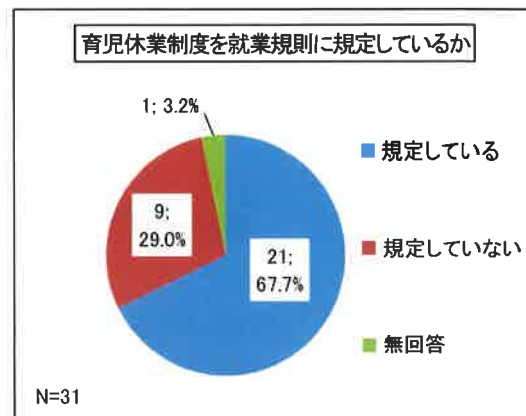
女性従業員が活躍できる仕事・職場環境にするために必要だと思う第1位は、「育児・介護との両立について職場の支援制度が整っている」及び「長時間労働の必要がない、又は勤務時間が柔軟である」で48.4%、第3位は「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解がある」及び「仕事が適正に評価される」で45.2%、第5位は「企業トップが女性の活躍促進に積極的である」及び「仕事の内容にやりがいがある」で29.0%となっています。



育児休業制度・介護休業制度の取組について

問8 育児休業の規定

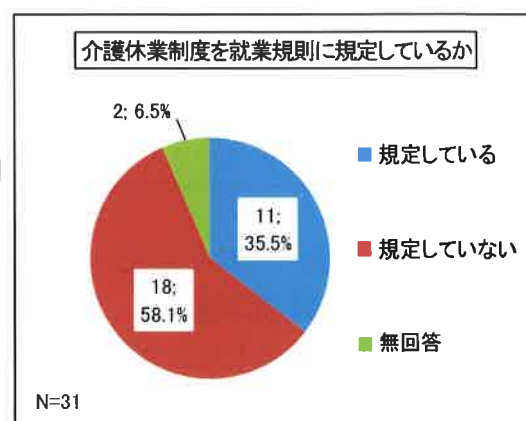
育児休業制度を就業規則などで規定しているかについて、「規定している」が67.7%、「規定していない」が29.0%となっています。



問9 介護休業の規定

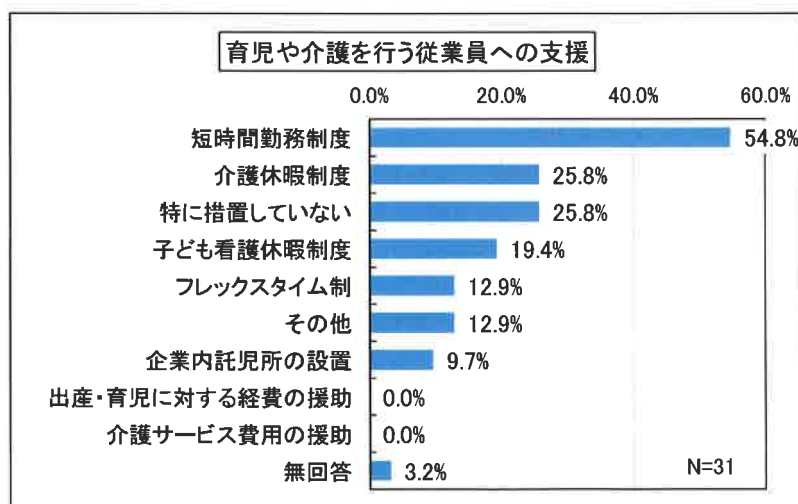
介護休業制度を就業規則などで規定しているかについて、「規定している」が35.5%、「規定しない」が58.1%となっています。

育児休業制度と比較すると「規定している」という割合は、32.2ポイント低くなっています。



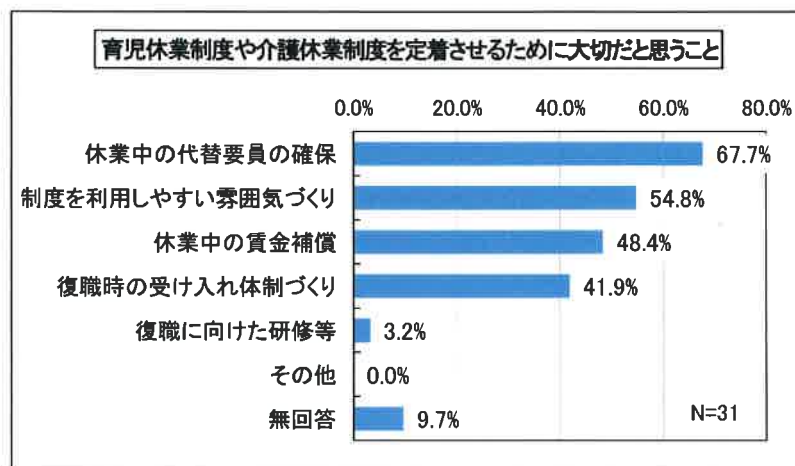
問10 育児や介護を行う従業員への支援

育児や介護を行う従業員への支援措置の第1位は、「短時間勤務制度」で54.8%、第2位は「介護休暇制度」で25.8%、第3位は「特に措置していない」で25.8%、第4位は「子ども看護休暇制度」で19.4%、第5位は「フレックスタイム制」と「その他」で12.9%となっています。



問 11 今後育児休業等を定着させるために大切なこと

今後、育児休業制度や介護休業制度を定着させるために大切だと思うことの第1位は、「休業中の代替要員の確保」で67.7%、第2位は「制度を利用しやすい雰囲気づくり」で54.8%、第3位は「休業中の賃金補償」で48.4%、第4位は「復職時の受け入れ体制づくり」で41.9%、第5位は「復職に向けた研修等」で3.2%となっています。

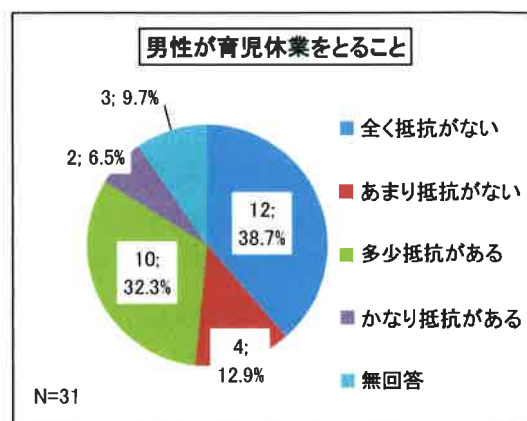


問 12 育児休業の利用について

【男性の育児休業の取得】

男性が育児休業をとることについては、「全く抵抗がない」という割合が最も高く38.7%、次いで「多少抵抗がある」が32.3%、「あまり抵抗がない」が12.9%、「かなり抵抗がある」が6.5%となっています。

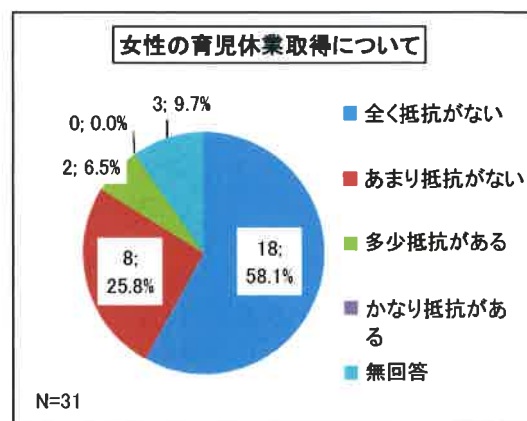
「多少抵抗がある」と「かなり抵抗がある」を加えた割合は38.8%で、市民アンケートの結果（27.3%）より高くなっています。



【女性の育児休業の取得】

女性が育児休業をとることについては、「全く抵抗がない」という割合が最も高く58.1%、次いで「あまり抵抗がない」が25.8%、「多少抵抗がある」が6.5%となっています。

「かなり抵抗がある」と回答した方はいません。



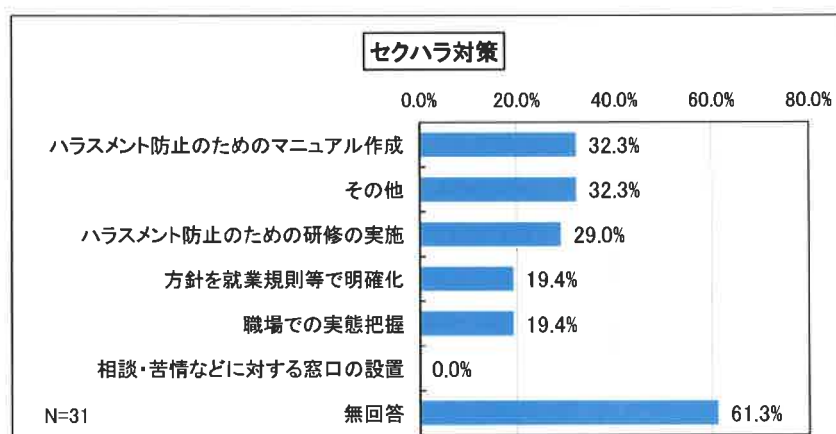
セクシュアル・ハラスメント等の防止について

問 13 職場でのセクハラ及びマタハラ・パタハラ等の防止の取り組みの実施について

【セクラハラ対策】

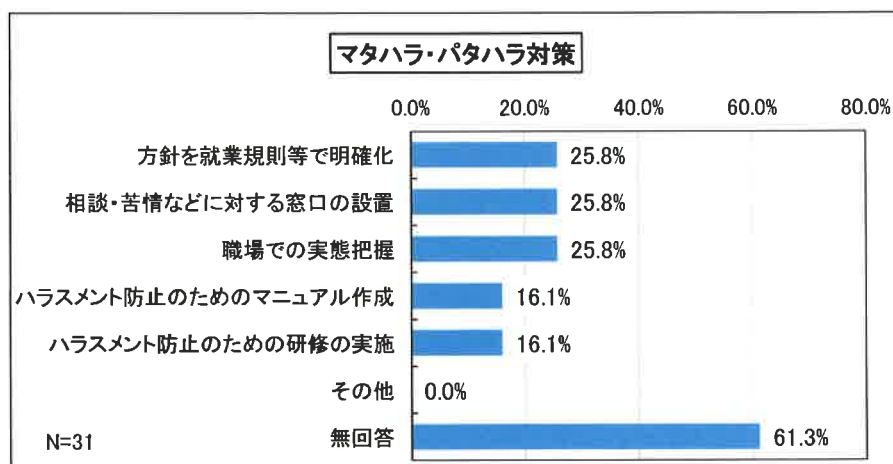
職場においてのセクシュアル・ハラスメント防止のため実施している取り組みの第1位は「ハラスメント防止のためのマニュアル作成」及び「その他」で32.3%、第3位は「ハラスメント防止のための研修の実施」で29.0%、第4位は「方針を就業規則等で明確化」及び「職場での実態把握」で19.4%となっています。

「相談・苦情などに対する窓口の設置」と回答した方はいません。



【マタハラ・パタハラ対策】

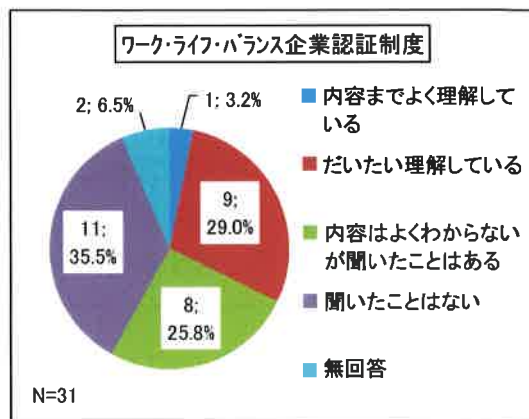
職場においてのマタニティー・パタニティハラスメント防止のため実施している取り組みの第1位は「方針を就業規則等で明確化」及び「相談・苦情などに対する窓口の設置」及び「職場での実態把握」がともに25.8%、第4位は「ハラスメント防止のためのマニュアル作成」及び「ハラスメント防止のための研修の実施」で16.1%となっています。



ワーク・ライフ・バランスについて

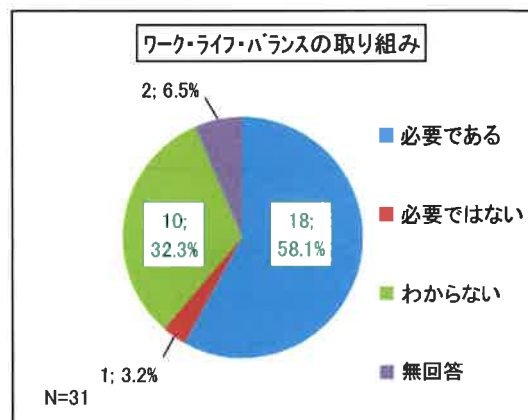
問 14 ワーク・ライフ・バランス企業認証制度について

沖縄県ワーク・ライフ・バランス企業認証制度について、「聞いたことはない」という割合が最も高く 35.5%、次いで「だいたい理解している」が 29.0%、「内容はよくわからないが聞いたことはある」が 25.8%、「内容までよく理解している」が 3.2%となっています。



問 15 ワーク・ライフ・バランスの取り組み

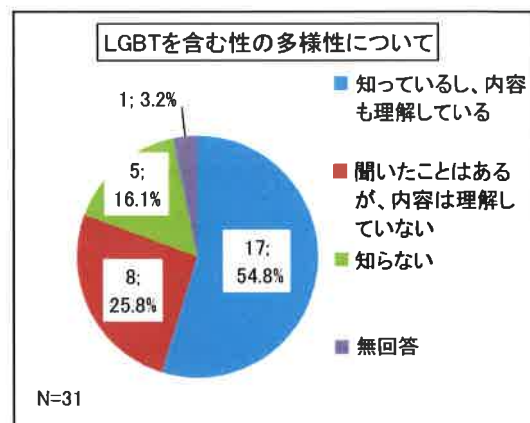
ワーク・ライフ・バランスの取り組みは必要だと思うかについて、「必要である」という割合が最も高く 58.1%、「わからない」が 32.3%、「必要ではない」が 3.2%となっています。



LGBTを含む性の多様性への理解について

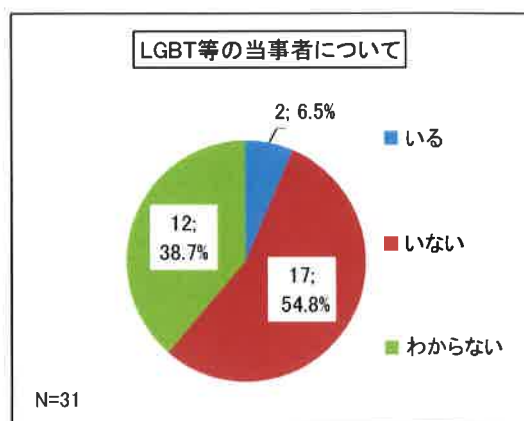
問 16 性の多様性への理解について

LGBTを含む性の多様性について知っていたかについて、「知っているし、内容も理解している」という割合が最も高く 54.8%、次いで「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が 25.8%、「知らない」が 16.1%となっています。



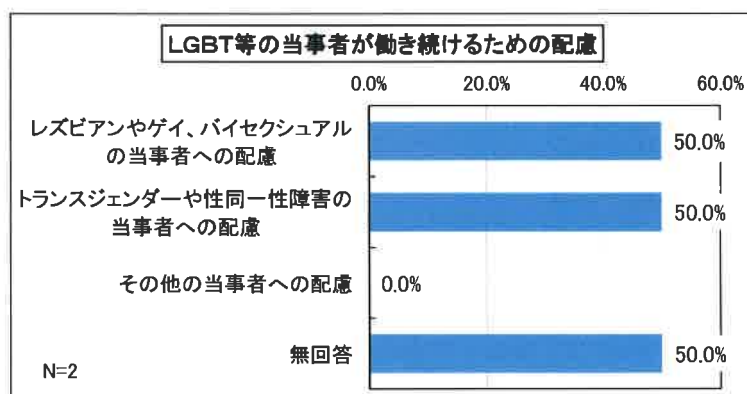
問 17 L G B T 等の当事者について

貴事業所に L G B T 等の当事者がいるかについて、「いない」という割合が最も高く 54.8%、次いで「わからない」が 38.7%、「いる」が 6.5%となっています。



問 18 当事者が働き続けるための配慮

L G B T 等の当事者が働き続けるための配慮について、「レズビアンやゲイ、バイセクシュアルの当事者への配慮」及び「トランスジェンダーや性同一性障害の当事者への配慮」をしていると回答しています。



【レズビアンやゲイ、バイセクシュアルの当事者への配慮】

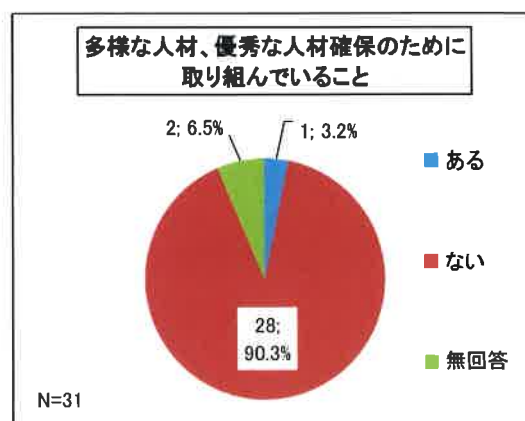
回答のあった 1 事業所は、レズビアンやゲイ、バイセクシュアルの当事者への配慮について、「従業員に対して理解を促進するための研修等の実施」をしていると回答があります。

【トランスジェンダーや性同一性障害の当事者への配慮】

回答のあった 1 事業所は、トランスジェンダーや性同一性障害の当事者への配慮について、「トイレ面での配慮」及び「従業員に対して理解を促進するための研修等の実施」をしていると回答があります。

問 19 多様な人材、優秀な人材確保のための取り組み

事業所においてLGBT等の多様な人材の活躍並びに優秀な人材の確保のため取り組んでいることがあるかについて、「ある」が3.2%、「ない」が90.3%となっています。



問 19 具体的な記述は（「ある」と回答した方）

具体的な記述として、「平等・対等の対応」という意見がありました。

自由意見

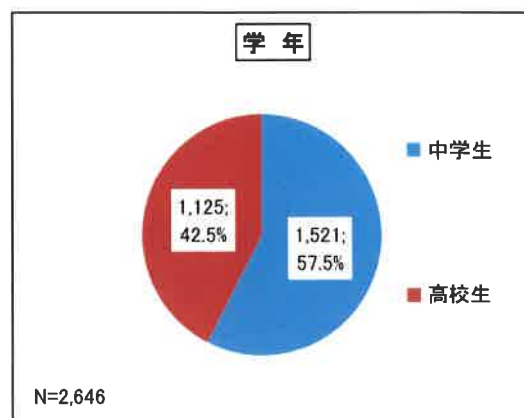
- ・当社の場合、男女とも同一賃金である
- ・60 歳以上高齢者も採用している
- ・地域の人も率先して採用している

女性従業員の活用に関して管理職女性登用や育児介護、LGBT 等、現時点で性別における区別は弊社ではほとんど問題ない状況ですが、例えば荷卸しや重いものを運ぶといった力仕事を伴う業務においては男性の方が望ましいといった場合があるのは事実です。そのような場合にどう対応すべきなのか、いつも壁となります。

(3) 中高生アンケート

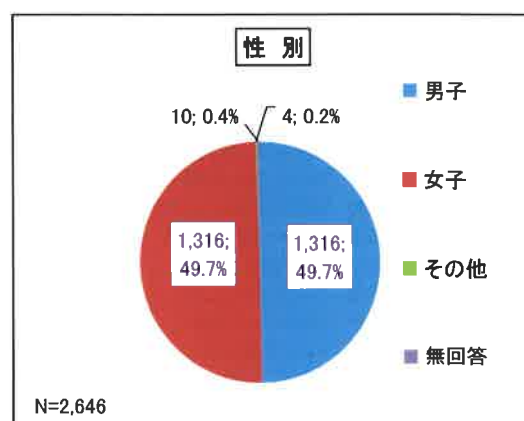
問1 学年

アンケート回答者の学年は、「中学生」が57.5%、「高校生」が42.5%となっています。



問2 性別

アンケート回答者の性別は、「男子」と「女子」がともに49.7%、「その他」が0.4%となっています。



問3 「男（または女）だから〇〇しなさい」

「男（女）だから〇〇しなさい」、または「男のくせに、女のくせに」と言われたことがあるかについて、ジェンダーを外部から求められる割合は、男子よりも女子が高くなっています。

平成24年意識調査結果と比較すると、中学生、高校生の男女ともに「言われる」割合が減少しており、特に男子の割合が減少しています。

「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」、または「男のくせに、女のくせに」と言われるか

			a	b	c	d	e		
			よく言われる	ときどき言われる	あまり言われない	全く言われない	無回答	言われる(a+b)	言われなし(c+d)
平成29年	中学生	男子(N=735)	7.1%	19.0%	40.5%	32.8%	0.5%	26.1%	73.3%
		女子(N=778)	13.1%	36.8%	31.6%	18.3%	0.3%	49.9%	49.9%
	高校生	男子(N=1,542)	5.9%	16.5%	48.7%	28.2%	0.7%	22.4%	76.9%
		女子(N=1,371)	11.3%	38.5%	34.2%	16.0%	0.0%	49.8%	50.2%
平成24年	中学生	男子(N=796)	30.2%	28.2%	33.5%	5.2%	2.8%	58.5%	38.7%
		女子(N=788)	35.9%	24.9%	30.1%	8.9%	0.2%	60.8%	39.0%
	高校生	男子(N=743)	28.2%	20.2%	42.6%	6.4%	2.7%	48.4%	48.9%
		女子(N=582)	35.4%	28.0%	29.9%	5.5%	1.2%	63.4%	35.4%

問 4-1 どんな時に言われるか

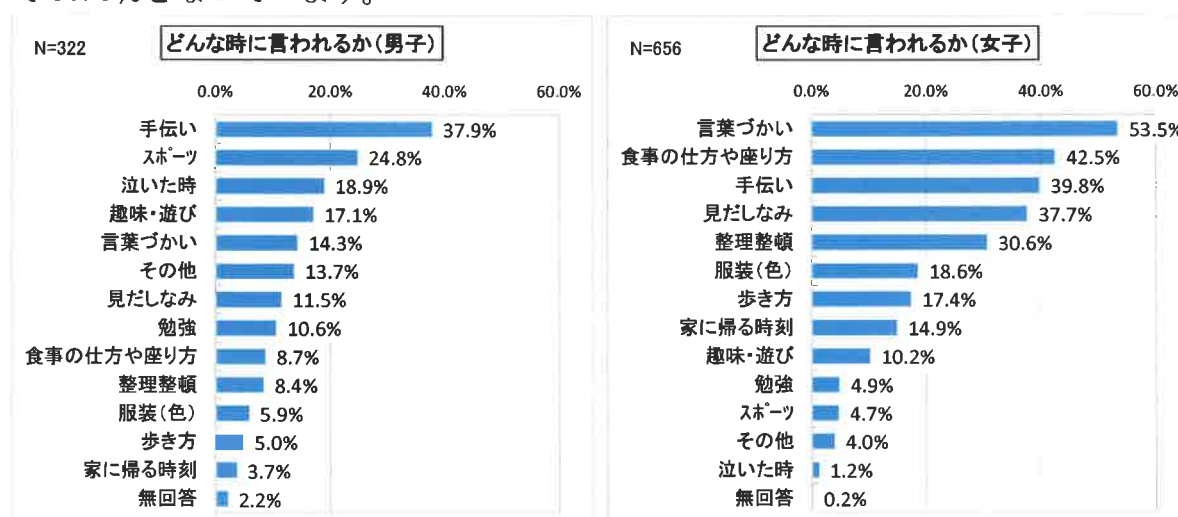
どんな時に「男（女）だから〇〇しなさい」、または「男のくせに、女のくせに」と言われるかについて、女子の割合の方が男子より高くなっています。複数回答の選択肢を選んだ個数は平均で、男子が 1.8 個、女子が 2.8 個となり、女子の方が多く言われています。

【男子】

第 1 位は「手伝い」で 37.9%、第 2 位は「スポーツ」で 24.8%、第 3 位は「泣いた時」で 18.9%、第 4 は「趣味・遊び」で 17.1%、第 5 位は「言葉づかい」14.3% となっています。

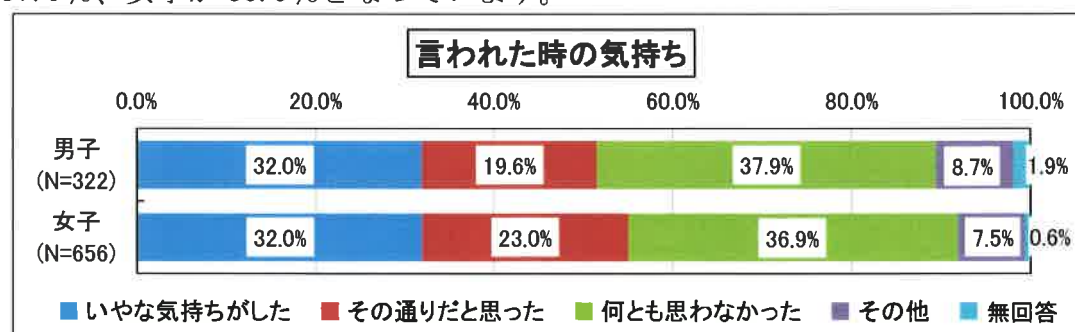
【女子】

第 1 位は「言葉づかい」で 53.5%、第 2 位は「食事の仕方や座り方」で 42.5%、第 3 位は「手伝い」39.8%、第 4 位は「見だしなみ」で 37.7%、第 5 位は「整理整頓」で 30.6% となっています。



問 4-2 言われた時の気持ち

「男（女）だから〇〇しなさい」、または「男のくせに、女のくせに」と言われた時の気持ちとして、最も割合が高いのは男女ともに「何とも思わなかった」で、男子が 37.9%、女子が 36.9% となっています。



問4-3 言うのは誰か

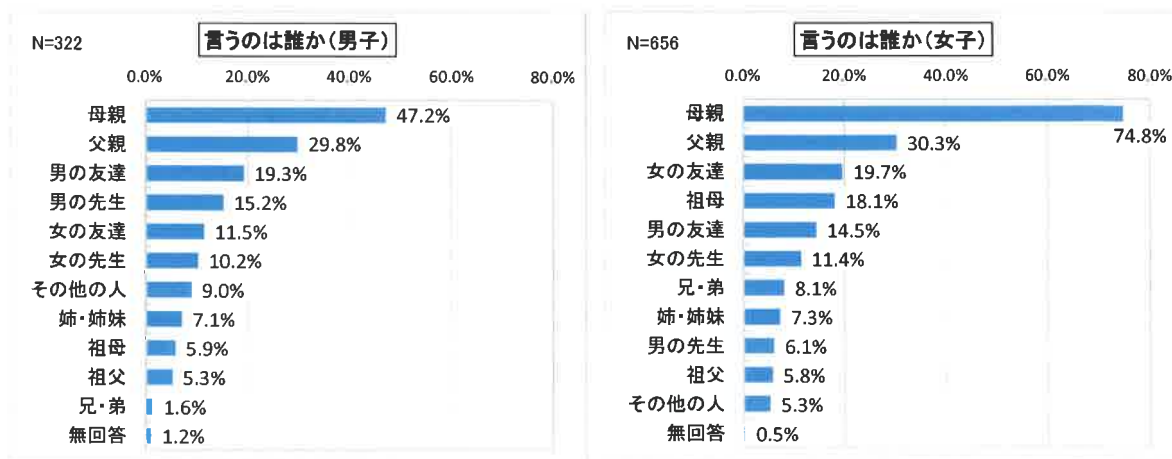
「男（女）だから〇〇しなさい」、または「男のくせに、女のくせに」と言うのは誰かについては、男女ともに第1位は「母親」、第2位は「父親」となっています。

【男子】

第1位は「母親」で47.2%、第2位は「父親」で29.8%、第3位は「男の友達」で19.3%、第4位は「男の先生」で15.2%、第5位は「女の友達」で11.5%となっています。

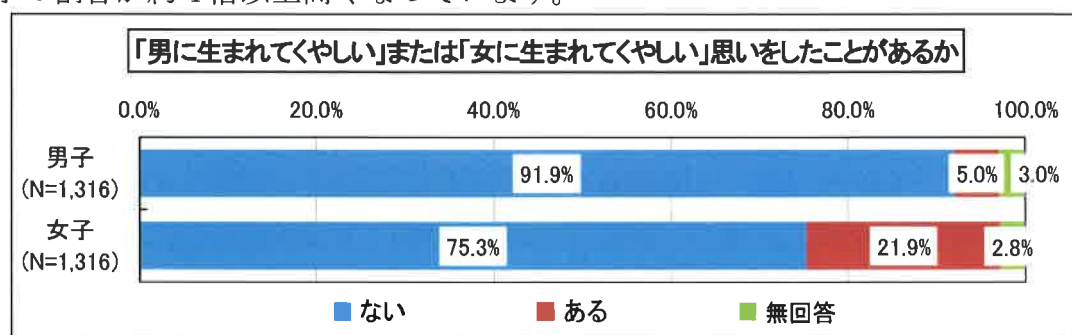
【女子】

第1位は「母親」で74.8%、第2位は「父親」で30.3%、第3位は「女の友達」で19.7%、第4位は「祖母」で18.1%、第5位は「男の友達」で14.5%となっています。



問5 「男に生まれてくやしい」または「女に生まれてくやしい」思いをしたことがあるか

「男に生まれてくやしい」または「女に生まれてくやしい」思いをしたことがあるかについて、「ある」という回答割合は、男子で5.0%、女子で21.9%と、男子より女子の割合が約4倍以上高くなっています。



問5 具体的な記述は（「ある」と回答した方）

男女で傾向が異なります。男性では、「男だから泣くなと言われた」、「先生の接し方が違う（女性には優しい）」、「殴られるなど、乱暴な扱いを受ける」などの意見がありました。

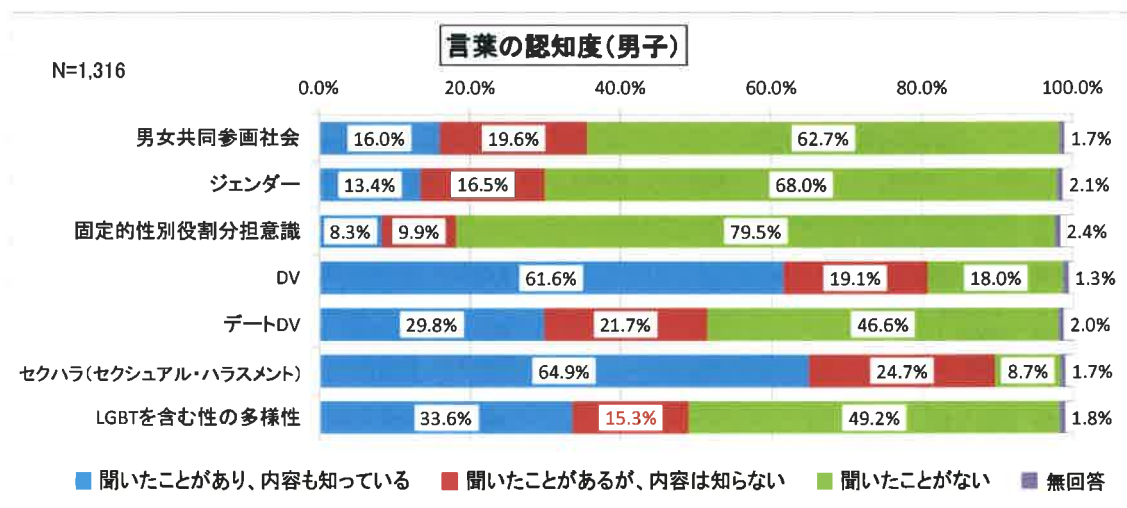
女性では、「家の手伝いを強制される（女性だけ）」、「言葉づかい、服装、身だしなみについて言われる」、「男性に比べ体力、身体能力に差がある」、「生物学的性差によるもの（生理、妊娠、出産等）」、「進路について反対される」などの意見がありました。

男女共同参画に関する言葉について

問6 言葉の認知度

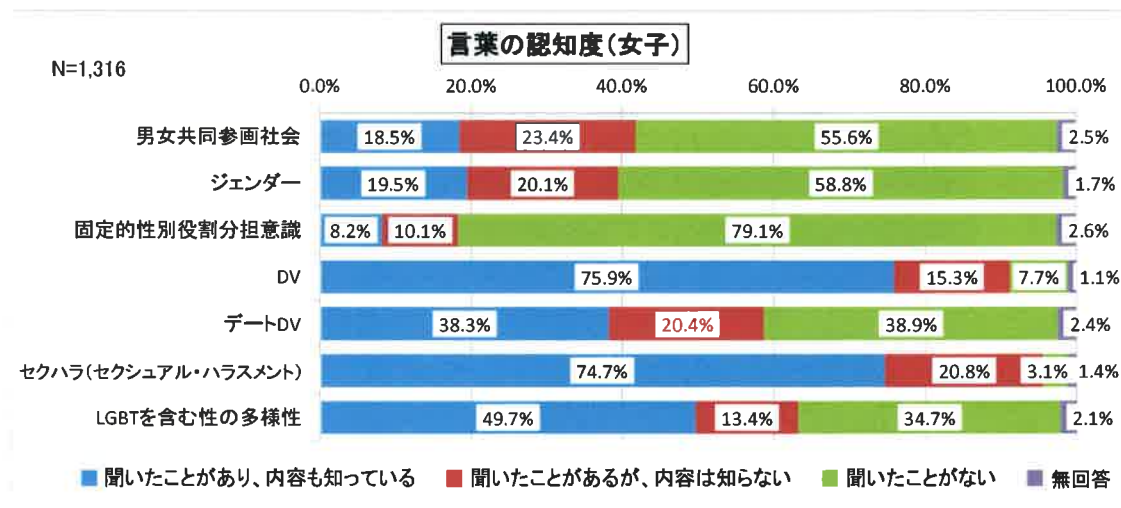
【男子】

言葉の認知度について、「聞いたことがあり、内容も知っている」という割合が最も高いのは「セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）」で64.9%、次いで「DV（ドメスティック・バイオレンス）」で61.6%、「LGBTを含む性の多様性」で33.6%、「デートDV」が29.8%、「男女共同参画社会」が16.0%となっています。



【女子】

言葉の認知度について、「聞いたことがあり、内容も知っている」という割合が最も高いのは「DV」で75.9%、次いで「セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）」で74.7%、「LGBTを含む性の多様性」で49.7%、「デートDV」で38.3%、「ジェンダー」で19.5%となっています。



家庭生活について

問7 担当している役割

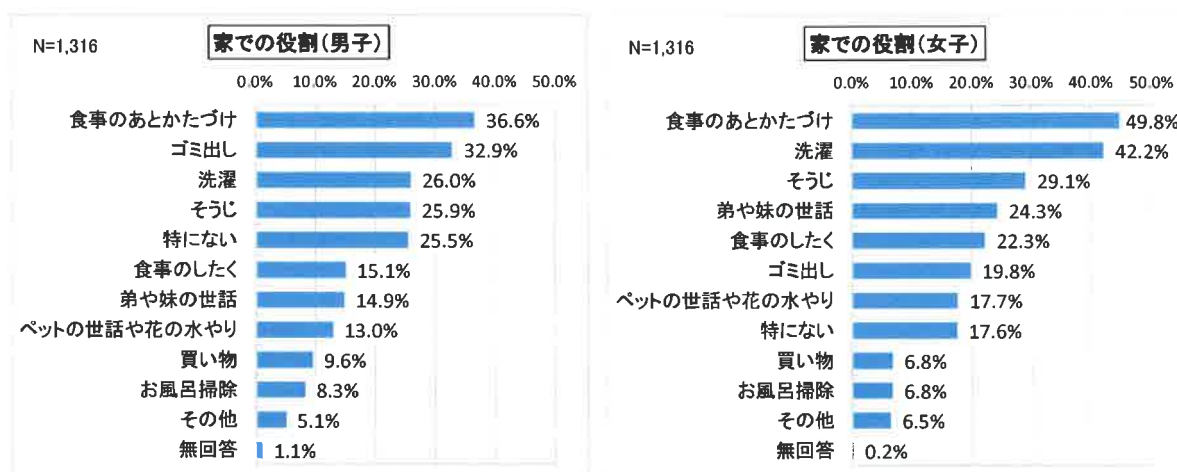
家庭内で担当している役割は、男女ともに第1位は「食事のあとかたづけ」となっています。

【男子】

第1位は「食事のあとかたづけ」で36.6%、第2位は「ゴミ出し」で32.9%、第3位は「洗濯」で26.0%、第4は「そうじ」で25.9%、第5位は「特にない」で25.5%となっています。

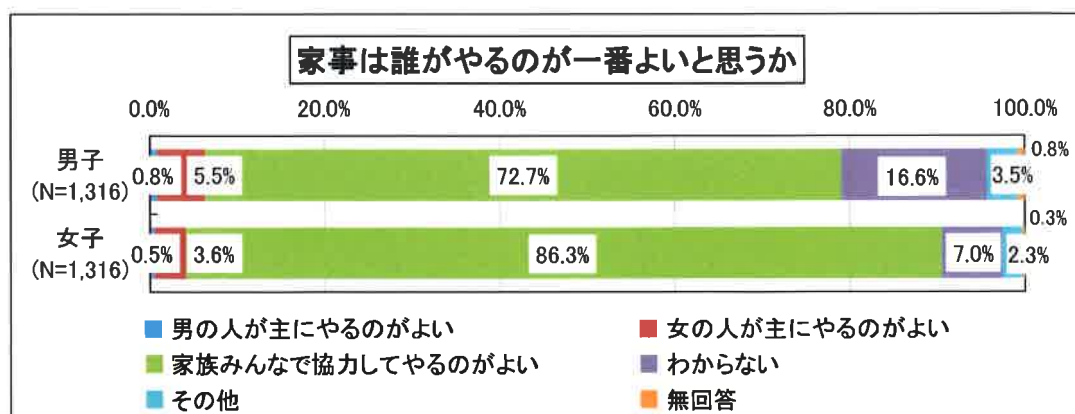
【女子】

第1位は「食事のあとかたづけ」で49.8%、第2位は「洗濯」で42.2%、第3位は「そうじ」で29.1%、第4は「弟や妹の世話」で24.3%、第5位は「食事のしたく」で22.3%となっています。



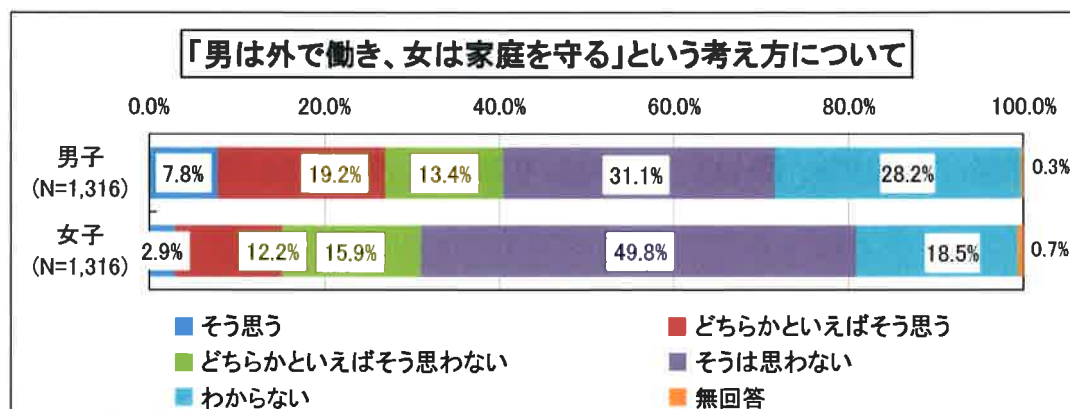
問8 家事は誰がやるのが一番よいと思うか

家事は誰がやるのが一番よいと思うかについて、最も割合が高いのは男女ともに「家族みんなで協力してやるのがよい」で、男子が72.7%、女子が86.3%となっており、女子が男子より13.6%ポイント高くなっています。



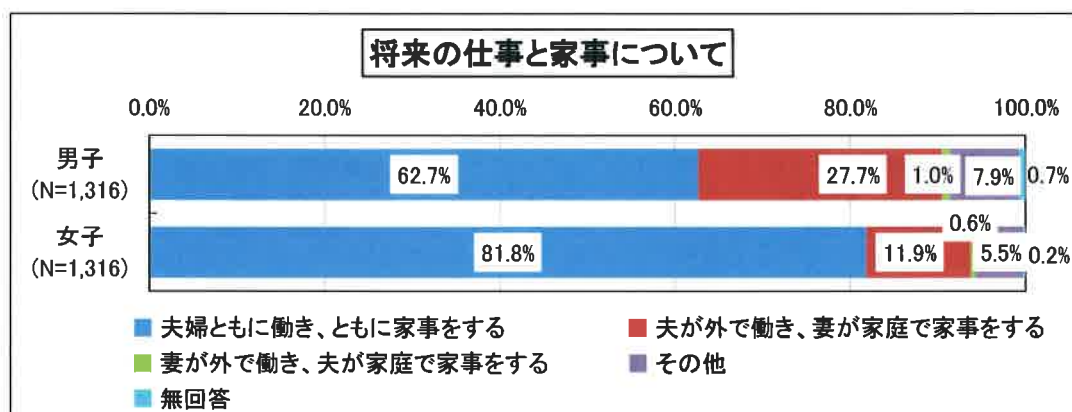
問9 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方について

「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方について、最も割合が高いのは男女ともに「そうは思わない」で、男子が 31.1%、女子が 49.8%となっており、女子が男子より 18.7 ポイント高くなっています。



問10 将来の仕事と家事について

将来の仕事と家事について、最も割合が高いのは男女ともに「夫婦ともに働き、ともに家事をする」で、男子が 62.7%、女子が 81.8%となっており、女子が男子より 19.1 ポイント高くなっています。



問 11 女性が仕事をもつことについて

女性が仕事をもつことについて、最も割合が高いのは男女とも「結婚、出産にこだわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい（産休、育休等を活用）」で男子が 39.2%、女子が 64.8%となっており、男女間の意識の差がみられます。

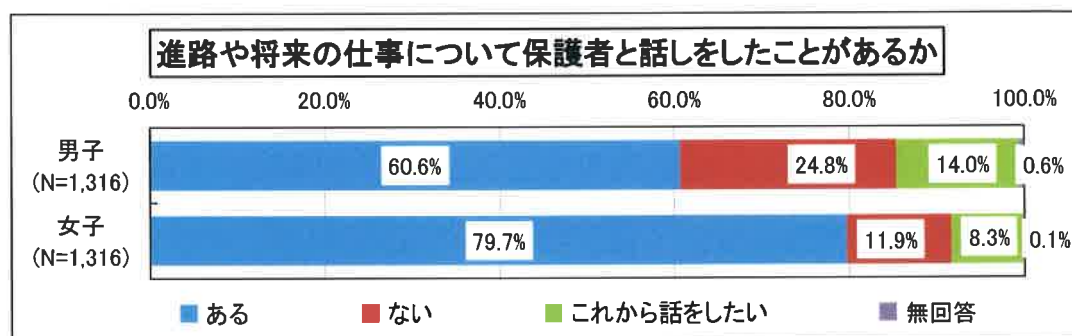
平成 24 年意識調査結果と比較すると、「結婚、出産にこだわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい（産休、育休等を活用）」の項目について、男女ともに割合が上昇しています。

女性が仕事をもつことについて

	平成29年		平成24年		H29－H24	
	男子 (N=1,316)	女子 (N=1,316)	男子 (N=1,542)	女子 (N=1,371)	男子	女子
結婚、出産にこだわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい(産休、育休等を活用)	39.2%	64.8%	32.6%	56.6%	6.6%	8.2%
子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	32.0%	23.9%	23.9%	21.3%	8.1%	2.6%
結婚して子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	15.6%	7.7%	18.4%	10.9%	-2.8%	-3.2%
結婚するまでは、職業をもつ方がよい	7.6%	1.6%	13.3%	8.5%	-5.7%	-6.9%
女性は職業をもたない方がよい	2.3%	0.3%	7.2%	0.9%	-4.9%	-0.6%
無回答	3.3%	1.7%	4.6%	1.8%	-1.3%	-0.1%

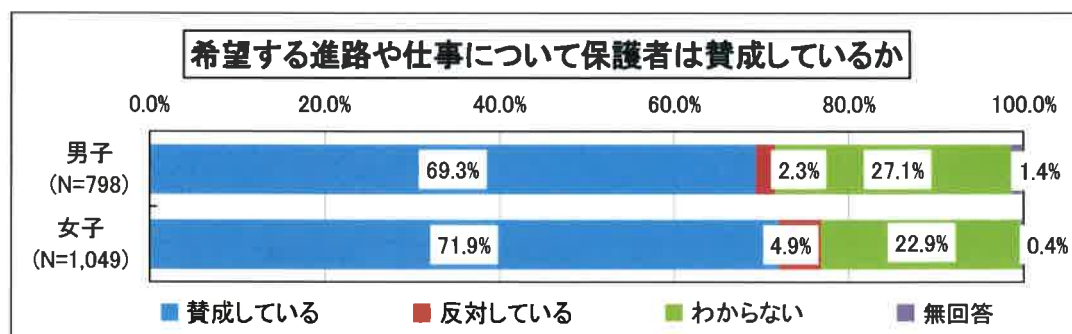
問 12 進路や将来の仕事について保護者と話しをしたことがあるか

進路や将来の仕事について保護者と話しをしたことがあるかについて、最も割合が高いのは男女ともに「ある」で、男子が 60.6%、女子が 79.7%となっています。



問 13 希望する進路や仕事について保護者は賛成しているか

希望する進路や仕事について保護者は賛成しているかについて、最も割合が高いのは男女ともに「賛成している」で、男子が69.3%、女子が71.9%となっています。



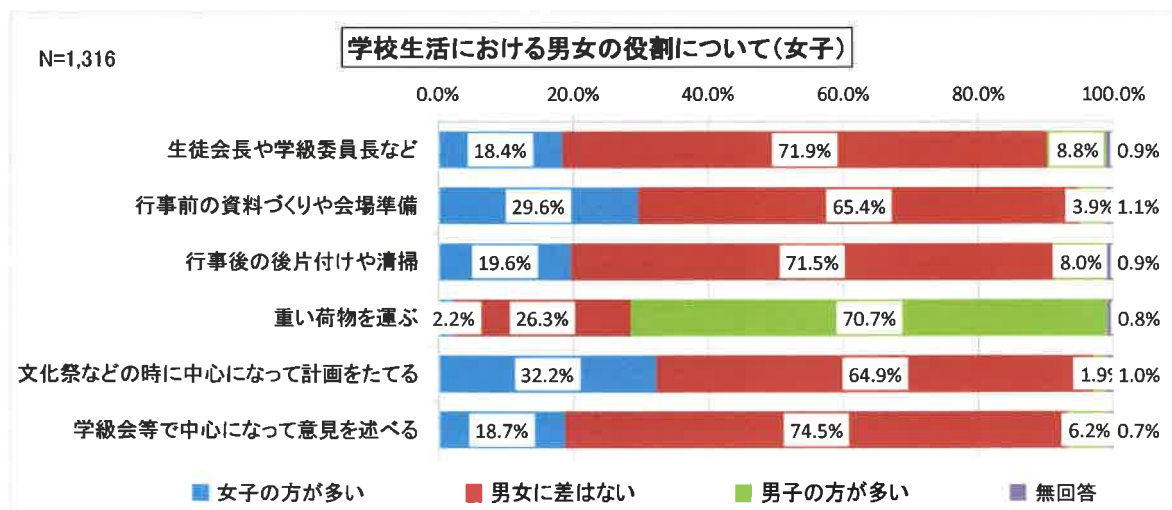
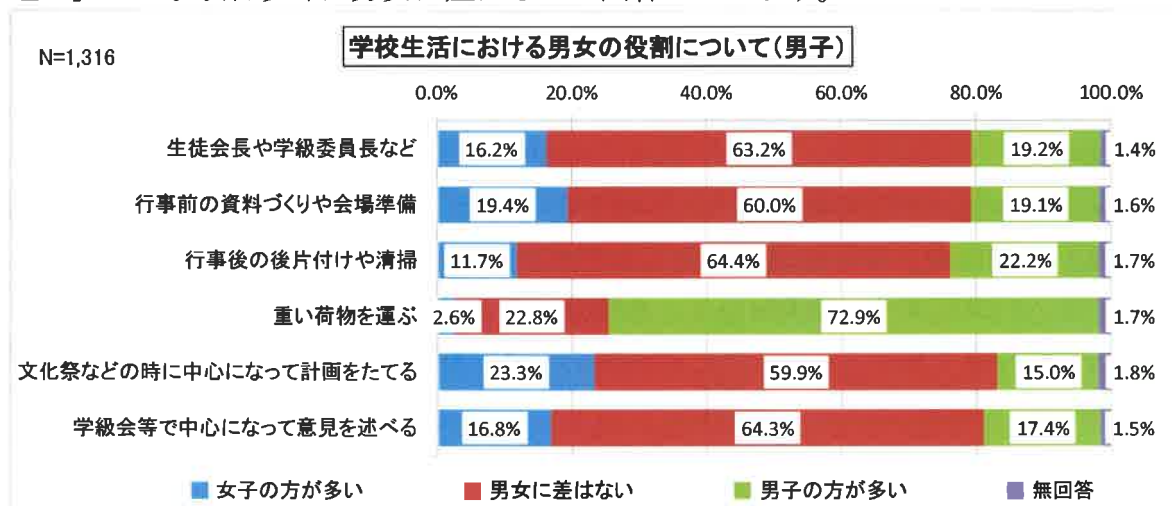
問 13 反対している理由

反対している理由は、進学では「進学先の学力が低い」、「距離が遠い」、「学費や生活費等の経済的な理由」などの意見がありました。将来の仕事については「仕事の給料等が不安定だという指摘」、「達成が難しい（無理）と言われる」などの意見がありました。

学校生活について

問 14 学校生活における男女の役割

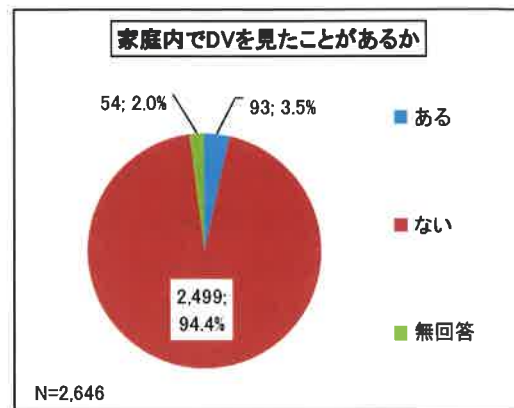
学校生活における男女の役割について、「女子の方が多い」という割合が最も高いのは、男女ともに「文化祭などの時に中心になって計画をたてる」で、男子が 23.3%、女子が 32.2%、「男子の方が多い」という割合が最も高いのは、男女ともに「重い荷物を運ぶ」で男子が 72.9%、女子が 70.7%となっており、「男女に差はない」という割合が最も高いのは、男子が「行事後の後片付けや清掃」で 64.4%、女子が「学級会等で中心になって意見を述べる」で 74.5%となっています。男女ともに「思い荷物を運ぶ」という項目以外は男女に差はないと回答しています。



DV、デートDVについて

問 15 家庭内でDVを見たことがあるか

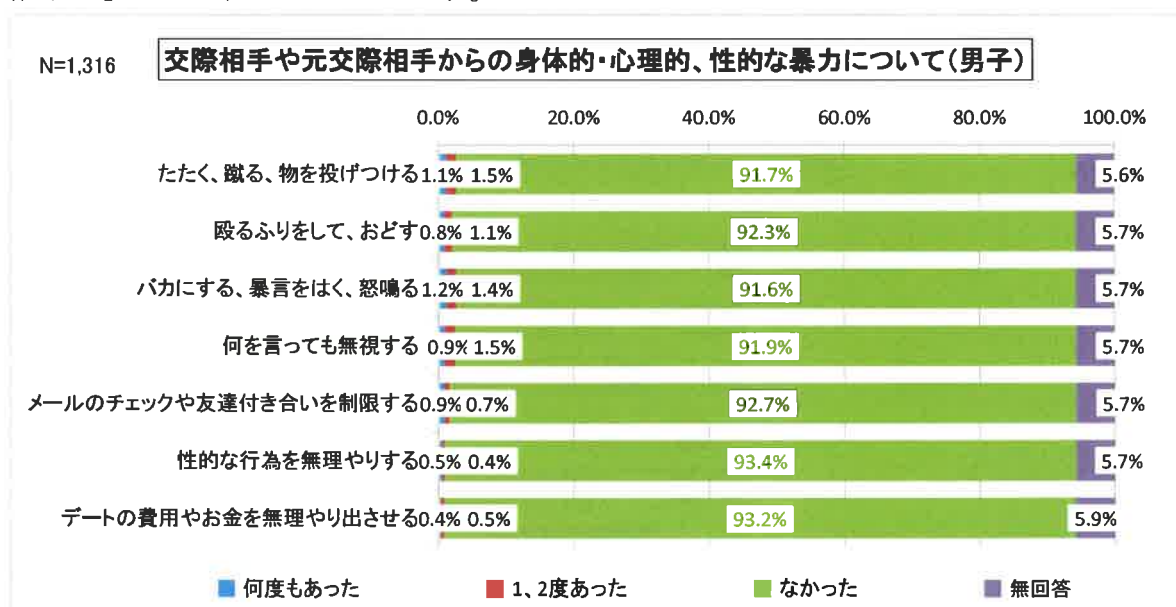
家庭内でDVを見たことがあるかについては、「ない」が94.4%、「ある」が3.5%となっています。



問 16 DVの経験の有無

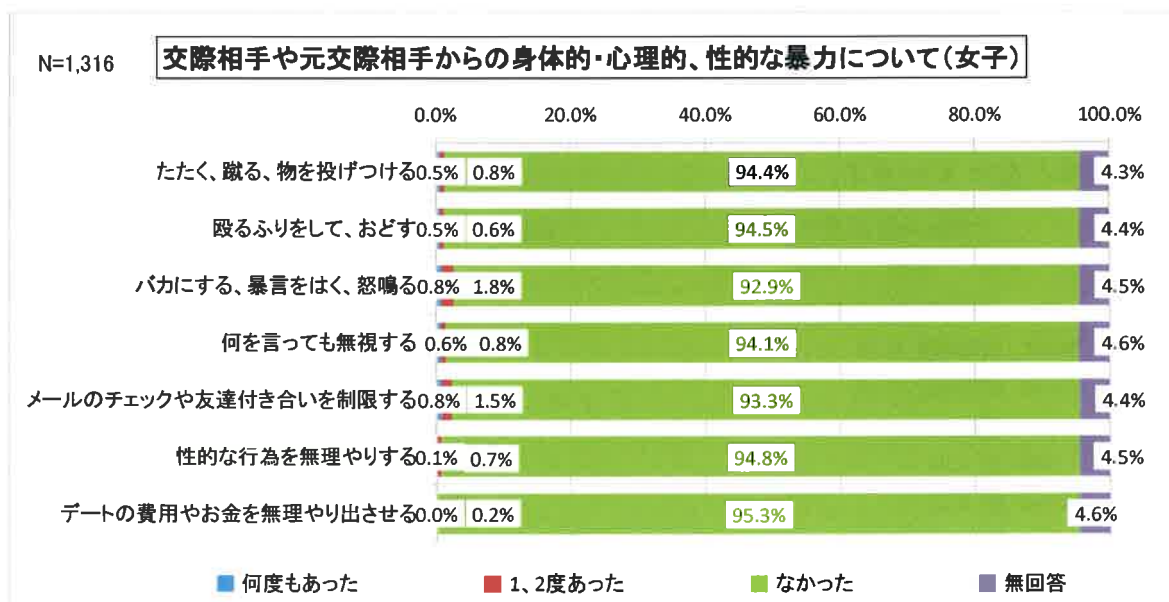
【男子】

自身の交際相手や元交際相手からのDVについて、「何度もあった」と「1、2度あった」を加えた、DVを経験したことのある割合は、「たたく、蹴る、物を投げつける」と「バカにする、暴言をはく、怒鳴る」が2.6%、「何を言っても無視する」が2.4%、「殴るふりをして、おどす」が1.9%、「メールのチェックや友達付き合いを制限する」が1.6%となっています。



【女子】

自身の交際相手や元交際相手からのDVについて、「何度もあった」と「1、2度あった」を加えた、DVを経験したことのある割合は、「バカにする、暴言をはく、怒鳴る」が2.6%、「メールのチェックや友達付き合いを制限する」が2.3%、「何を言っても無視する」が1.4%、「たたく、蹴る、物を投げつける」が1.3%、「殴るふりをして、おどす」が1.1%となっています。



問17DVの事を誰に相談したか

(「何度もあった」または「1、2度あった」が対象)

DVを経験したことがある回答者のうち、その事を誰かに相談したかに関して、最も割合が高いのは、男子で「相談したいと思わなかった」で38.3%、女子は「相談した」で39.1%となっています。

平成24年意識調査結果と比較すると、男女ともに「無回答」が増え、その他の項目が減少しています。

DVの事を誰に相談したか

		相談した	相談したかったが、できなかった	相談したいと思わなかった	無回答
平成29年	男子(N=60)	36.7%	6.7%	38.3%	18.3%
	女子(N=64)	39.1%	9.4%	26.6%	25.0%
平成24年	男子(N=38)	39.5%	10.5%	47.4%	2.6%
	女子(N=44)	45.5%	11.4%	40.9%	2.3%

相談相手（問 16 で「何度もあった」、「1、2度あった」と回答）

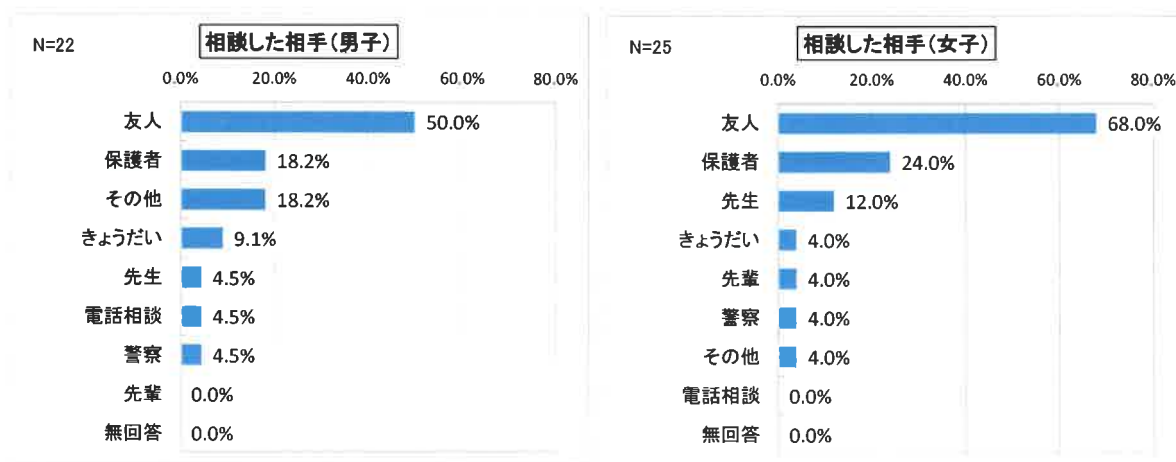
相談相手の第1位は、男女ともに「友人」で、第2位に「保護者」となっています。

【男子】

相談相手の第1位は「友人」で50.0%、第2位は「保護者」で18.2%、第3位は「その他」で18.2%、第4位は「きょうだい」で9.1%、第5位は「先生」及び「電話相談」及び「警察」で4.5%となっています。

【女子】

相談相手の第1位は「友人」で68.0%、第2位は「保護者」で24.0%、第3位は「先生」で12.0%、第4位は「きょうだい」及び「先輩」及び「警察」及び「その他」で4.0%となっています。

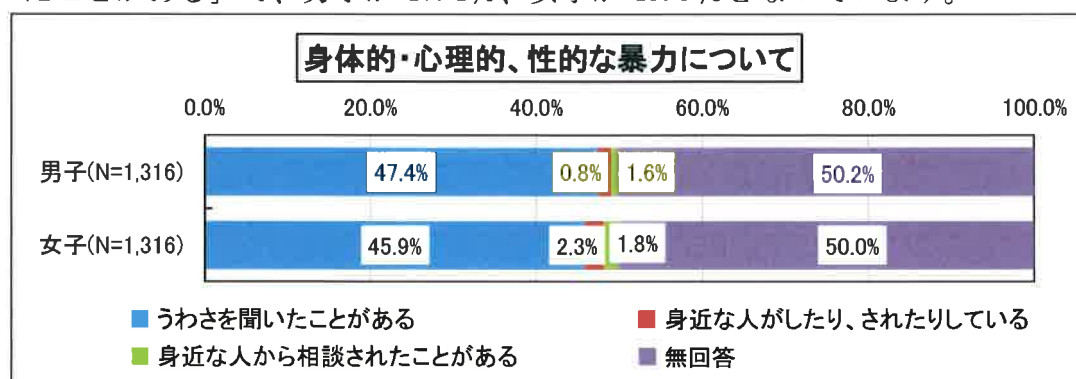


問 17 相談しなかった理由

相談しなかった（できなかった）理由は、「こわかった」、「冗談でやっていたから」、「相談するほどの事でもないと思った」などの意見がありました。

問 18 身体的・心理的、性的な暴力について

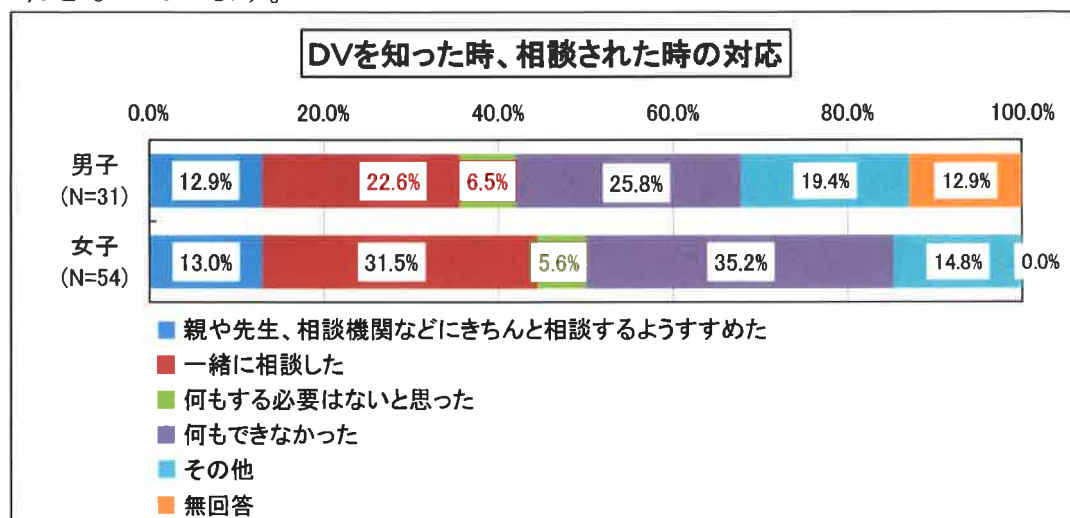
身体的・心理的、性的な暴力について、最も割合が高いのは男女ともに「うわさを聞いたことがある」で、男子が47.4%、女子が45.9%となっています。



問 19 DVを知った時、相談された時の対応

（「身近な人がしたり、されたりしている」または「身近な人から相談されたことがある」が対象）

身近にDVを経験したことがある回答者のうち、その事を誰かに相談したかに関して、最も割合が高いのは男女ともに「何もできなかった」で、男子が25.8%、女子が35.2%となっています。



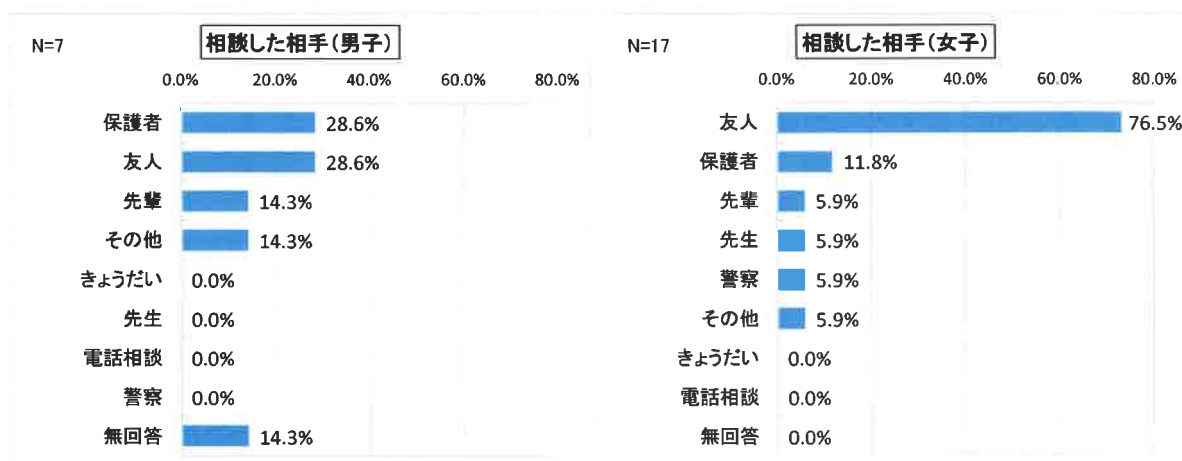
一緒に相談した時の相談相手（問 19 で「一緒に相談した」と回答）

【男子】

相談相手の第1位は「保護者」及び「友人」で28.6%、第3位は「先輩」及び「その他」で14.3%となっています。

【女子】

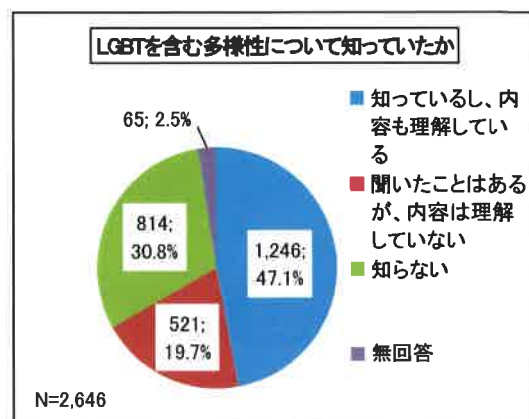
相談相手の第1位は「友人」で76.5%、第2位は「保護者」で11.8%、第3位は「先輩」及び「先生」及び「警察」及び「その他」で5.9%となっています。



LGBTを含む性の多様性への理解について

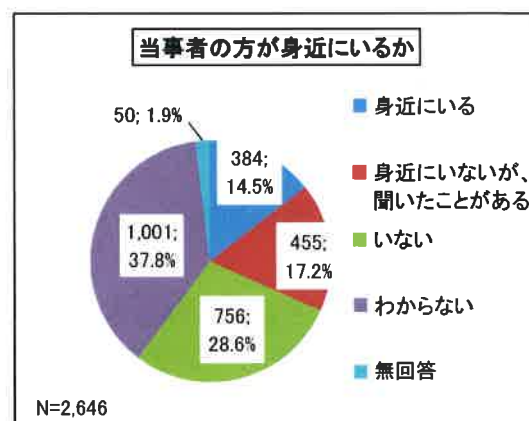
問 20 LGBTを含む多様性について知っていたか

LGBTを含む多様性について知っていたかについて、「知っているし、内容も理解している」という割合が最も高く 47.1%、「知らない」30.8%、「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が 19.7%となっています。



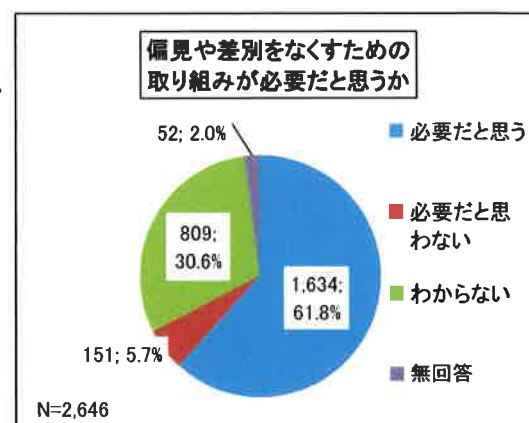
問 21 当事者の方が身近にいるか

LGBT等の当事者の方が身近にいるかについて、「わからない」という割合が最も高く 37.8%、「いない」が 28.6%、「身近にいないが、聞いたことがある」が 17.2%、「身近にいる」が 14.5%となっています。



問 22 偏見や差別をなくすための取り組みが必要だと思うか

LGBT等の当事者への偏見や差別をなくすための取り組みが必要だと思うかについて、「必要だと思う」という割合が最も高く 61.8%、「わからない」が 30.6%、「必要だと思わない」が 5.7%となっています。



自由意見

LGBT Q
男女共同参画について知ることができたのでいいと思う。
男女差別をなくしてほしい
なぜアンケートをとったのかな？
なんのためにするのか気になる。
LGBT のことをよく知れた！
アンケートいらない
アンケートしないでもいいと思った。
LGBT Q←入れるべき
あと問16は交際した相手がいないという欄ももうけてほしい。みんな一度はカレカノつくったことあると思うなよ！！
選択肢を最初から決めている質問がある(例:問11)のが不快感を覚えた。人の数だけ考え方があって範囲を決めてしまうのは、よくないと思う。
いろんな人が自分らしく生きていける世の中がいいと思う。
人それぞれ。
このようなアンケートは放課後にやらせないでほしい。
こういうアンケートは、帰りの会にするものではないと思う。授業でやったほうがいい。
ほぼ意味が分かりませんでした。なのでほぼてきとうですがおゆるしてください。
なんでこういう事をするの、帰りの会がおそくなるから、すんな
この世の中は差別や偏見ばかりでくさっているなと思いました。
性行為って何ですか？
意味わかることがたくさんあった。
LGBT はぜんぜん大丈夫だと思うよ！
少し難しかったです
他の人に見られないならアンケートする意味ないと思います
意味が分からない言葉がたくさんあった
良いと思います
もう差別ー
なぜこのようなことを聞く理由があるのでしょうか？
何になるのかわかんないよ。よって不要であり
DV とか LGBT を中学生に説明しない方がいいと思う
自分の知らないことがたくさんあった
自由が大事
もう少しわかりやすくしてほしい
DV ではなく虐待を受けたことがあります。父母に何度も殴られたり、一日ずーっと外に出されたり、ご飯などを食べさせてくれなかったりし、自分は児童園に入りました。この怖さを皆にも知ってほしいし、無く

なってほしいです。
生の勉強楽しいな
子どもが大人を好きになることをなんという？
変なのでよくわからない
男女の差別をなくしてほしい
人が誰を好きになってもいいと思う
よくわからないなりに、少しでも協力できたらいいなと思った
何のためにやるんですか？沖縄市はもっとほかにやるべきことがあるのではないですか？くわえ市長は何をしているのですか？町のために動いてください。
失礼だと思います
意味が分からなかった！
なぜこのようなアンケートを取るのか、それが知りたいです。LGBT では、なぜなのか気になるので公表されることを願います。沖縄では最近、このようなアンケートをとりすぎです。
世の中の差別をなくすために、アンケートとかしたりしてすごいと思った。レズのカップルは SNS で知ってて、その人たちはたまに批判されるけど、なんもうけとめんで自分らしくいてすばらしい！
男も女も関係なしにこの社会をきづいていくのが大事
今は比較的 LGBT に対する差別が減ってるが、まだあるから今以上に LGBT に対する差別を減らしたら、よい世の中になると思う
LGBT の人たちへの差別をなくしてほしい
問 18 の回答欄に知らないやわからないという選択肢を入れてほしい
こんなアンケートはこれからやってください。大切だと思いますから
LGBT を差別するのはとてもかわいそうだからなくしてほしい
LGBT のことをみんなに教えた方がいいと思います
どうしてこのアンケートをやるのかよくわかりませんが、協力できてよかったです
なんでこんなアンケートするの？
いじめをほうりつでなくしてほしい
今後もこのアンケートを続けて、それを見て改善策を立ててほしい
男女平等な社会を作りたい
男女かんけいなしにいきいこうとおもいました
世界にはいろいろな悩みを持っている人がいるのでそこを理解していきたいです
難しすぎて、意味が分からない
男も女も同じ立場に立って考える力とかはほとんど一緒だと思うから、女が働くのもいいと思う
LGBT 等の偏見、差別がなくなってほしい
がんばってください
LGBT の人たちが特別ではないので、普通の人が取り組む必要無いと思う
初めてされたアンケートだったけど、こういうのはある人にとっては大切だと思う
性差別とか性同一性障害をばかにするとか、本当にやめてほしい

私はレズとか芸とか少し偏見をもっていますが、それらのことを理解して、自分の中で偏見をなくします
このアンケートが必要だと思った
偏見とかがなくなればいいなって思いました
特にありません
こういうアンケート必要だと思いました
簡単なことではないけど、差別がなくなる世界を目指した来
男性が怖い場合はどうしたらいいですか？
いみがわかりません
男女差別の考え方は古い
わからないことがおあった。
子供はまだ性にくわしくない。それなのに性行為を行おうとしている人たちがいるような時代ですので、そのようなことの説明書きや注意書き、コンドームの正しい使用方法を書いてもいいと思う。
援業化しても良いと思う。
間16みたいに元や今の交際相手がいないから困る
選択肢をふやす
ゴミ
こういう性的問題を聞く必要はないと思う。言いたくない人もいるし思い出してまた心にきづができてしまう可能性もあると思う。中学生だからっていうのもあるけど、きく意味が理解できないです。
もうちょっと詳しく書いてほしい。全く内容がないです。
偏見をなくすことが一番大切だと思います。
LGBT に関することでは、これについて悩んで苦しんでいる人も多くいると思うので、偏見、差別をなくす取り組みを行い、LGBT の人も自由に暮らし、幸せでいられる環境を作った方が良くと思いました。
説明をもう少しわかりやすくした方がいいと思います。
性も男女がするものっていうのだけじゃないから、同性愛者だからといって差別するのはなくしたほうがいいなと思いました。
担任がいや
NO！
LGBT の間21で、もしかしたら隠しているかもしれないのに、はっきり言えない。
特にありません。
専業主夫になりたい
暴力については、皆で考えるべきだと思う。親同士でよく喧嘩をするときに、暴力や暴言が私達にもくる。暴言は聞いているだけで自分も傷ついて泣いてしまう。もう家にはいたくないです。助けてください。暴力は危険なことで、うちの学校では命を落としそうになっている人もいた。かなり話し合いや取り組みが必要になると思う。
いいと思う
アンケートする相手が間違っている
社会における性別のあり方の現状を調べて沖縄市はどうするつもり？

男女共同参画社会ってなんですか？
誰が好きでもそれは自分自身が決めるべきだと思う
問 18 に当てはまる答えがない。仕方なく 1 につけたがない人のための選択肢をつけてほしい。
5 DV、デート DV の意味がわからなかった
わからないのが多かった
クーラーが壊れていてとても暑いです
LGBT の質問は関係ないと思う
LGBT は以前から知っていて偏見がなくなしてほしいと思う。なので、こういうことをしていくことはとても大切だと思う。アセクシャルはいらないんですかね？（やはり 18 才以下はまだ出会いがない場合が多いから思い込まないようにですか？）
アンケートに関係ないけどトラウマかわからないけどそれで悩んでいる
問 16 って交際相手がいない場合、鬼畜じゃないですか？
こういう問題は公的に解決するのではなく、当事者とその周りの人が自主的に終着させるものだと思います
別にレズとかゲイとかいてもいいんだと思う。お互いが好きで楽しいんだったらそれでいいと思う。差別をなくす取り組みって言っていることが差別みたい。普通って感じでいいと思う。
こういうアンケートを受けるのはあまり気が進まない。
人を好きになることに理由はいらない
差別は何があっても絶対してはならない
前にニュースで、女性が車を運転するのはダメだったけれど、最近やっとできるようになったのを見て、男女の偏見はまだあるんだなと思った
アンケートがすごいいいと思う
これからもっと良い世界にしていってほしい
セクハラ事件とか性的暴力を振るう人は最低だと思う。最近では軽々しくそういうことを自分の欲求を満たすためだけにやっている人がいて、同じ人間として許せないです。LGBT については最近そういう人の Youtube とチャンネルを見ました。
別にゲイでもレズでも結婚させた方が彼達にとっていいと自分は思います
女性は家事といった価値観は子供を産むのは女性であり、また子供への関心が高いのも女性であるからこの価値観はある意味当然の帰結だと思いますが、21 世紀にもなってことさら重要視するものであるとも思えない。男性の方が力があるのだから、力仕事は男性という意見には、それなら現時点で女性差別だと当然思われている女性の旧社会的役割傾向からいえば女性の方が向いていると言いだるものが多いのだから、当然女性はその仕事に義務を持つべきだと反論したい。
どちらともいえないという選択肢があるといいなと思った
このようなことを考えるのはあまりないので良いと思う。差別をなくしたい。
知らないという内容は無いのか
何故こんなアンケートを取るのですか？
ジェンダーの意味を初めて知った。DV や性的行為をやられている人がいるのかなあと思った。
なんでこんなことやるのか謎

アンケート自体がめんどくさい。人から時間をとるな
差別はいけない
暴力や差別はいけないと思う
差別はいけない！！
中高生向けではないと思う
LGBTQ のことをみんなに伝えられるいい機会だったと思いました。みんなもっと知識を持つべきです
すごく勉強になった
意味が分からない
ホモ最高！
あまりわからないアンケートがたくさんあった
男女の差別がなくなって、平等な世の中になってほしいです
問 11 のよいとか、上から目線だからだめ
自分の身近に LGBT 等の人はいないけれど、もし LGBT を隠している人がいたら優しく接していきたい
いいと思った
自分はレズと言われるが嫌だと思わない。逆に言われてうれしいくらい
ちょっと意味わからん
男女の差を本当になくしてほしいです
問 18 に聞いたことがない も付けた方がいいと思います。
漢字に送りがなをつけましょう。
一応ボク「G」のほうで、クラスメイトがくだいので、このアンケートやめてもらっていいですか
特になし、しかし差別が減って皆が住みやすい世界になってほしいと思う
興味がないという回答もあつてほしかった
このアンケートの中で自分が分からない言葉が多く、答えられなかったので申し訳ないと思っています
男女平等に生きていくのは難しい。だから、できる人ができない人を支えていながら協力しながら生きていく世界が良いと思います
もう少し選択肢が増えると良いなと思った
男女格差の意見をかく欄があった方が良いと思います
いいアンケートだなと思った
回答の仕方が難しい、選択肢の意図が分かりにくいなと、男女共同参画を進めるのはすごくいいと思います
このアンケートをする前は「男女共同参画社会」や「固定的性別役割分担意識」というものをあまり知りませんでしたでしたが考えるいいきっかけになりました
世界をよりよくしましょ！
男女平等を信じない
楽しかった
LGBT 等の当事者への偏見、差別がなくなればいいと思います。
偏見とか差別はなくしたほうがいい。

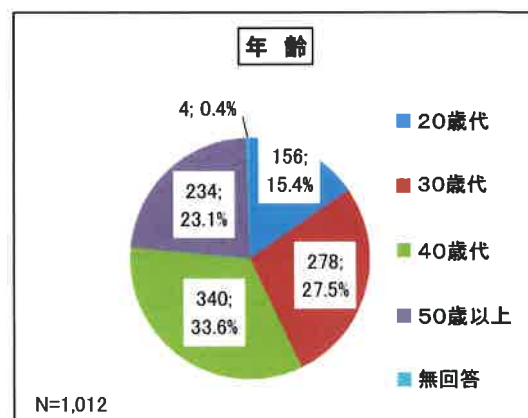
もっとLGBTの理解をもつべきだと思う。
色々と答えにくい
ノーコメント
この世の人々全てが差別や偏見のない、平等な世の中になってほしい。
偏見がなくなるような取り組みをした方がいいと思います。
世の中平和であることを望みます。
交際した事があるかないかの項目をつけてほしい。
(問16)に入る前に、交際経験の有無を確認する項目が必要だと思った。気にしている人は多分いると思うから。まあ、俺は彼女いるから関係ないけどね！！
LGBTは病気でも、障がいでもないもので、差別する意味がわかりません。なので、差別をなくしたいです。
こういうアンケートは今の若者に必要だと思うので、やってくれてありがとうございます。
LGBTでも良いと思う。
偏見とかってなくならないからあんまり意味ないと思います。このアンケート。
私はバイセクシャルなので、このような取り組みが増えてうれしいが、まだまだ、取り組みがたりない所もあると思う。
自分らしく生きていていいと思う。
このアンケートをする理由がわからない
めんどくさい
LGBTの人たちに偏見をもたず、身近にいても普通に接したりしていきたいと思ったし、受入れる環境を社会全体でつくった方がいい。トランスジェンダーの人でも入りやすい公衆のトイレなどを作ればいいと思う。
今は、思春期という多感な時期で、間違った情報をうのみにして、カップル間での性のトラブル等につながるので、正しい情報を正しく伝えるのが良いと思うので、このようなアンケートは大切だと思います。
こういった人に相談しにくい内容のアンケートがあるのはいいと思う。名前も書かずにすむので、自分の意見を素直に書きやすいです。
特になし
回収用の袋まであってしっかりしている
沖縄じゃあ、女も男も協力していかなくちゃ、一般家庭はつぶれるだけだと思うんですが・・・
問22がどういことなのかよく分かっていない人がまだ多いと思うから小学校から高校くらいでもっと説明会？みたいなものをする他、一般向けにもやったらいいのかなと思う
男尊女卑の考え方が嫌で悩んでいたんで、このようなアンケートがあつて良かった、もっと平等になるべきだと思う
いろいろきっかけになった
同姓でも好きになっていいと思う、そうなれる社会を作るべきだと思う
差別やいじめはなくていった方が良くのになと思いました
袋に入れる必要性がよく分からない。

がんばってください
皆が平等で楽しい人生を過ごせたらいいなと思います
LGBT に偏見は無い
沖縄県は特にシングルマザーも多いから女性の社会進出がもっと必要だと思う
LGBT の差別や偏見をなくす対策をしてほしい
誰もが堂々とできる社会にしたい
問 16 は保護者からのもの入りますか？
目的は何
LGBT が悪い事とは思わない
LGBT だけでなく、日本にはまだなじみないけど、マイノリティのもの(ポリアモリーとか)も、入れていくと良いと思った
問 11→持った方が良いかはその人の好きで決めた方が一番いい、もちたくなければ持たなくていいし、とりあえずどっちも選べる自由があればいい
同性愛者とトランスジェンダーの違いの解説も挿入した方が良いと思われる
このアンケートをする意味あるのかわからない
好きになるのは自由だと思う。それに値しての差別は普通の人ならしない。
LGBT は、否定しない市逆にいてもいいと思う。だけど時と場所は考えてほしい
専門内容の意見が偏っている。どの様な意味を持ってこのようなアンケートを取っているのか事前に知らせる必要を感じました、少し不愉快である
性別の差を埋められるよう頑張ってください
このような有意義なアンケートはこれからも繰り返して、生き悩んでいる人たちを早く助けてあげて欲しいです
何をするのも決めるのも個人の問題
差別がない社会にしてほしい
お金の無駄遣いです
差別や偏見はなくすことができないけど人間は皆家族
問 16 に交際相手がいないの枠を作るべきだと思う、いる又はいたと取れる選択は悪意があると思う
「どちらでもない」を選択できる問題を増やしてほしい
女性と男性の国じゃなくて女性を持ち上げる国はクソ
差別的な考えを無くすためいいアンケートだと思った、つらい
交際したことがある前提なのはどうかと
このアンケートで性別に対する昔の考えを無くしてほしい
恋愛経験がある前提で書かれていることに困りました「恋愛感情を抱かない」せいもあります。考慮して下さい
彼女いたことない

（４）学校教員アンケート

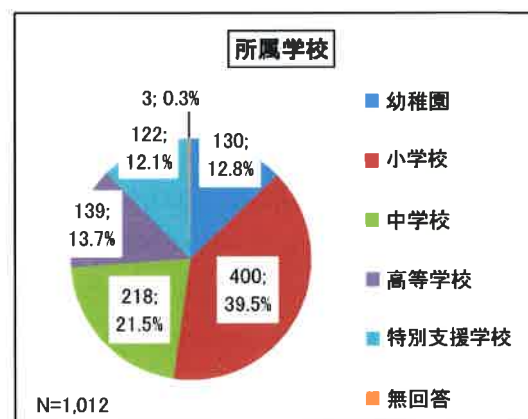
問１年齢

回答者の年齢は、「40 歳代」の割合が最も高く 33.6%、次いで「30 歳代」が 27.5%、「50 歳以上」が 23.1%、「20 歳代」が 15.4%となっています。



問２所属学校

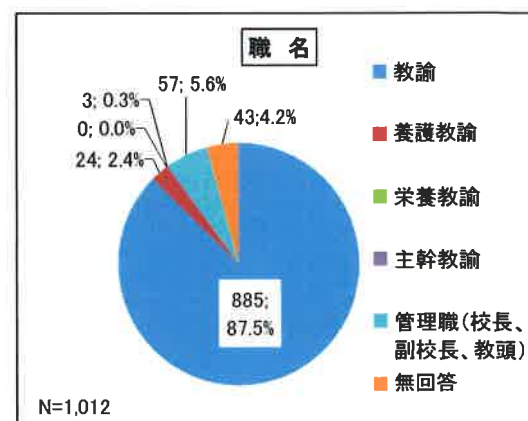
回答者の所属学校は、「小学校」の割合が最も高く 39.5%、次いで「中学校」が 21.5%、「高等学校」が 13.7%、「幼稚園」が 12.8%、「特別支援学校」が 12.1%となっています。



問３職名

回答者の職名は、「教諭」の割合が最も高く 87.5%、次いで「管理職（校長、副校長、教頭）」が 5.6%、「養護教諭」が 2.4%、「主幹教諭」が 0.3%となっています。

「栄養教諭」と回答した方はいません。

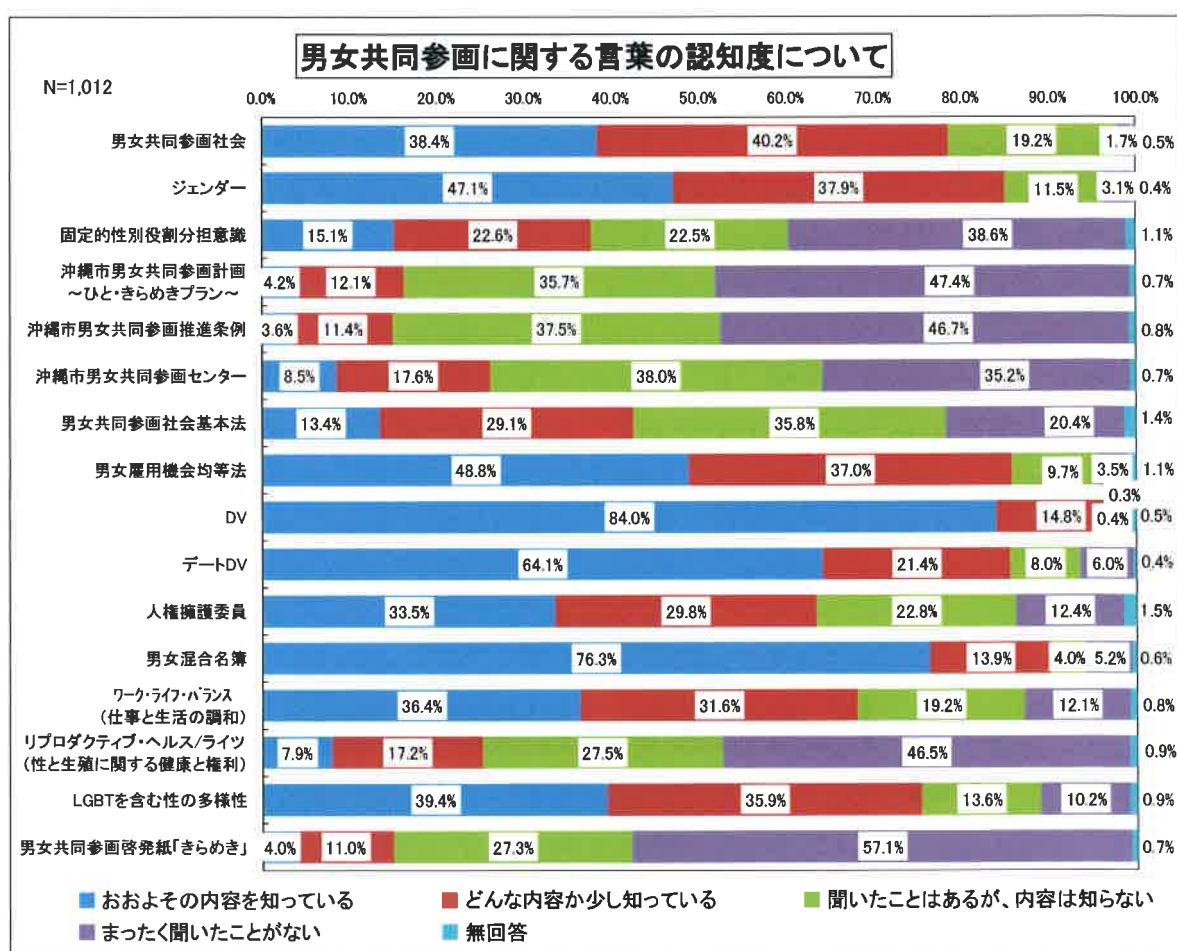


男女共同参画に関する言葉について

問4 言葉の認知度

次の言葉の認知度について、「おおよその内容を知っている」という回答割合が最も高いのは、「DV」で84.0%となっています。次いで「男女混合名簿」が76.3%、「デートDV」が64.1%、「男女雇用機会均等法」が48.8%、「ジェンダー」が47.1%となっています。

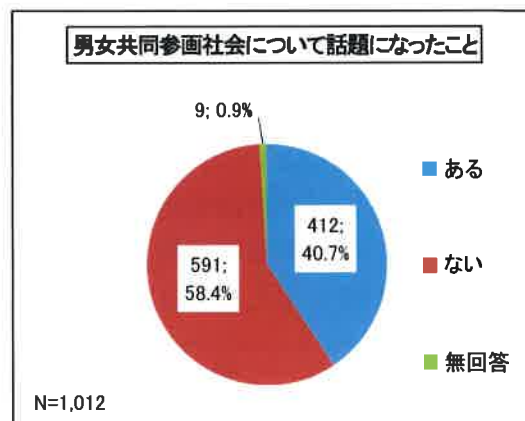
「沖縄市男女共同参画計画～ひと・きらめきプラン～」、「沖縄市男女共同参画推進条例」、「男女共同参画啓発紙「きらめき」」は5%以下と認知度が低く、計画の推進を図る上での課題と考えられます。



男女平等に関する意識について

問5 男女共同参画が話題になったことがあるか

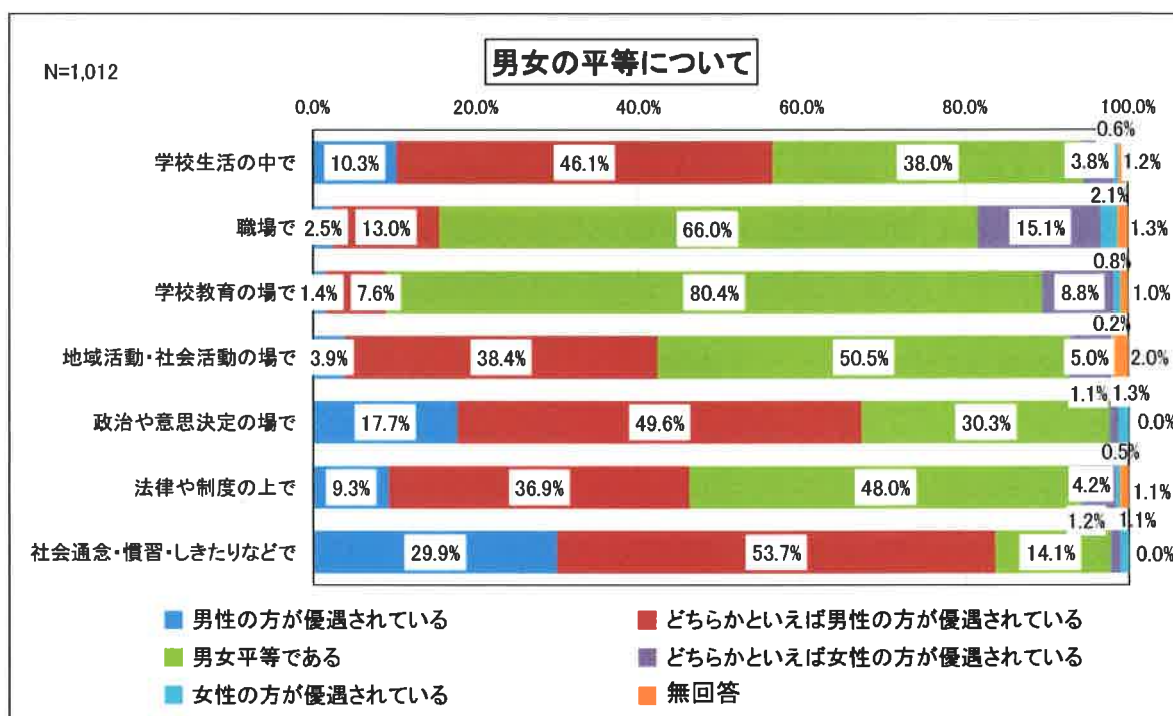
周りで男女共同参画（社会）が話題になったことがあるかについて、「ない」が58.4%、「ある」が40.7%となっています。



問6 男女の平等について

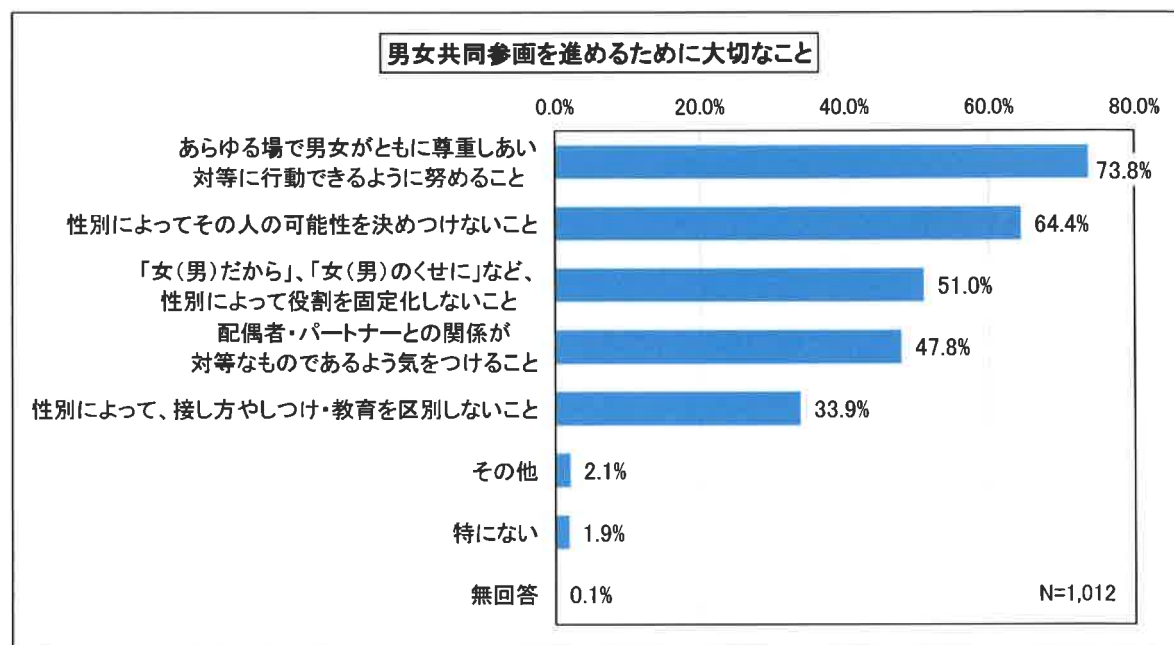
以下の項目について、「男女平等である」という割合が最も高いのは「学校教育の場で」で80.4%、次いで「職場で」の66.0%、「地域活動・社会活動の場で」の50.5%、「法律や制度の上で」の48.0%となっています。

男性が優遇されているという割合（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）と女性が優遇されているという割合（「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）を比較すると、女性が優遇されている割合が男性を上回るのは「職場で」及び「学校教育の場で」の2項目で、その他は男性が女性を大きく上回っています。



問7 男女共同参画を進めるために大切なこと

男女共同参画を進めるために大切なことの第1位は、「あらゆる場で男女がともに尊重しあい対等に行動できるように努めること」で73.8%、第2位は「性別によってその人の可能性を決めつけないこと」で64.4%、第3位は「女（男）だから」、「女（男）のくせに」など、性別によって役割を固定化しないこと」で51.0%、第4位は「配偶者・パートナーとの関係が対等なものであるよう気をつけること」で47.8%、第5位は「性別によって、接し方やしつけ・教育を区別しないこと」で33.9%となっています。



問8 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて

「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて、「どちらかといえば反対」が最も高く 38.9%、次いで「反対」が 33.8%、「その他」が 14.0%、「どちらかといえば賛成」が 11.6%、「賛成」が 1.1%となっています。

平成24年意識調査結果と比較すると、反対と賛成の割合の差が平成24年の約3倍から、平成29年は約6倍に増えています。

「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて

	a	b	c	d	e		
	賛成	どちらかといえば 賛成	どちらかといえば 反対	反対	その他	無回答	
平成29年 (N=1,012)	1.1%	11.6%	38.9%	33.8%	14.0%	0.6%	賛成 (a+b) 12.7% 反対 (c+d) 72.6%
平成24年 (N=1,042)	2.8%	18.9%	33.3%	25.3%	18.9%	0.8%	賛成 (a+b) 21.7% 反対 (c+d) 58.6%

職場・就労について

問 9 女性が職業をもつことについて

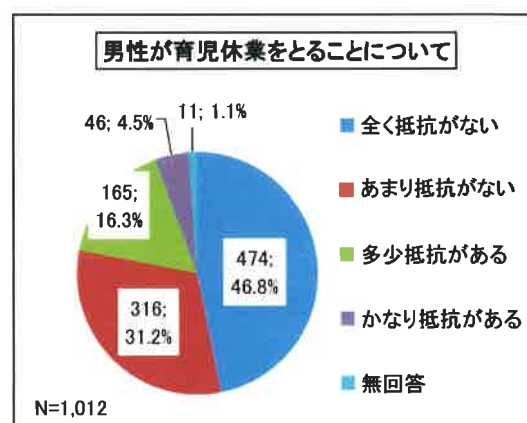
一般的に女性が職業をもつことについて、男女別の回答の割合を平成 24 年意識調査結果と比較すると、男女ともに「結婚、出産にこだわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい（産休、育休等を活用）」という割合が突出して高くなっています。男性（77.2%）よりも女性（83.1%）の割合が 5.9 ポイント高くなっています。

女性が職業をもつことについて

	平成29年		平成24年	
	女性 (N=628)	男性 (N=360)	女性 (N=659)	男性 (N=381)
結婚、出産にこだわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい (産休、育休等を活用)	83.1%	77.2%	79.7%	68.8%
子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	6.5%	10.3%	5.6%	8.9%
結婚して子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	1.3%	1.1%	1.7%	3.1%
結婚するまでは、職業をもつ方がよい	0.6%	0.3%	0.8%	1.3%
女性は職業をもたない方がよい	0.2%	10.3%	0.2%	1.0%
その他	7.6%	0.8%	10.9%	15.2%
無回答	0.6%	100.0%	1.2%	0.0%

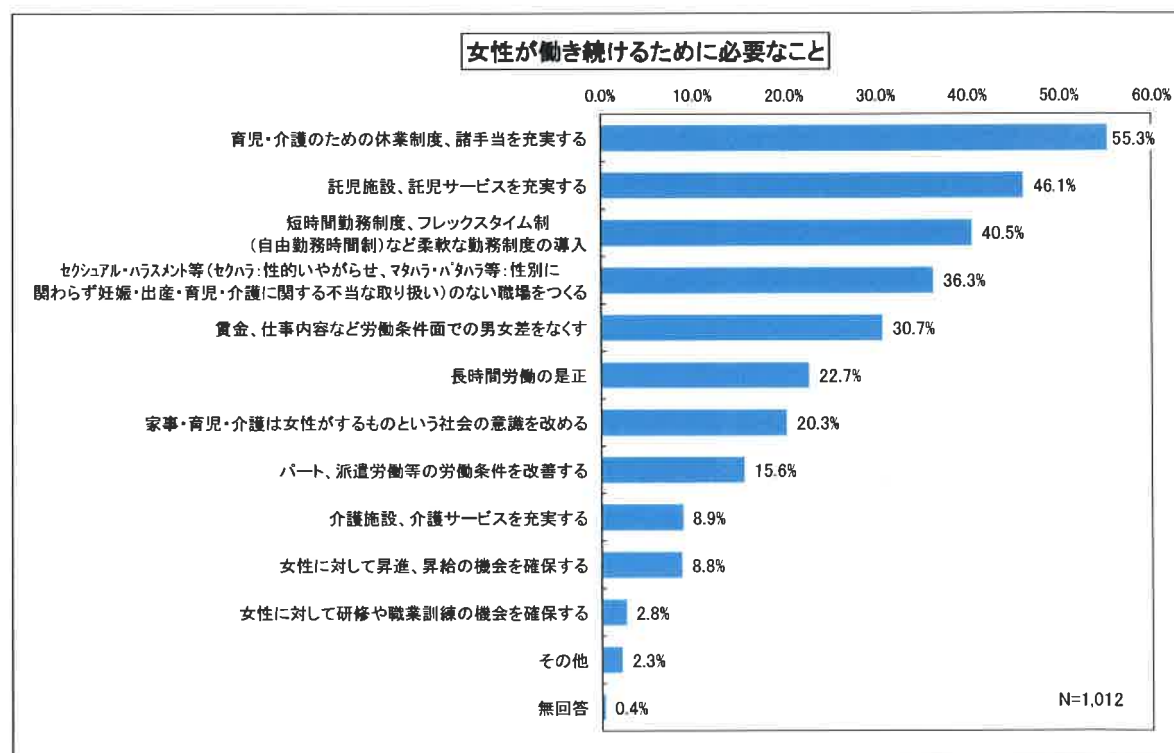
問 10 育児休業について

男性が育児休業を利用することについては、「全く抵抗がない」の割合が最も高く 46.8%、次いで「あまり抵抗がない」が 31.2%、「多少抵抗がある」が 16.3%、「かなり抵抗がある」が 4.5%となっています。



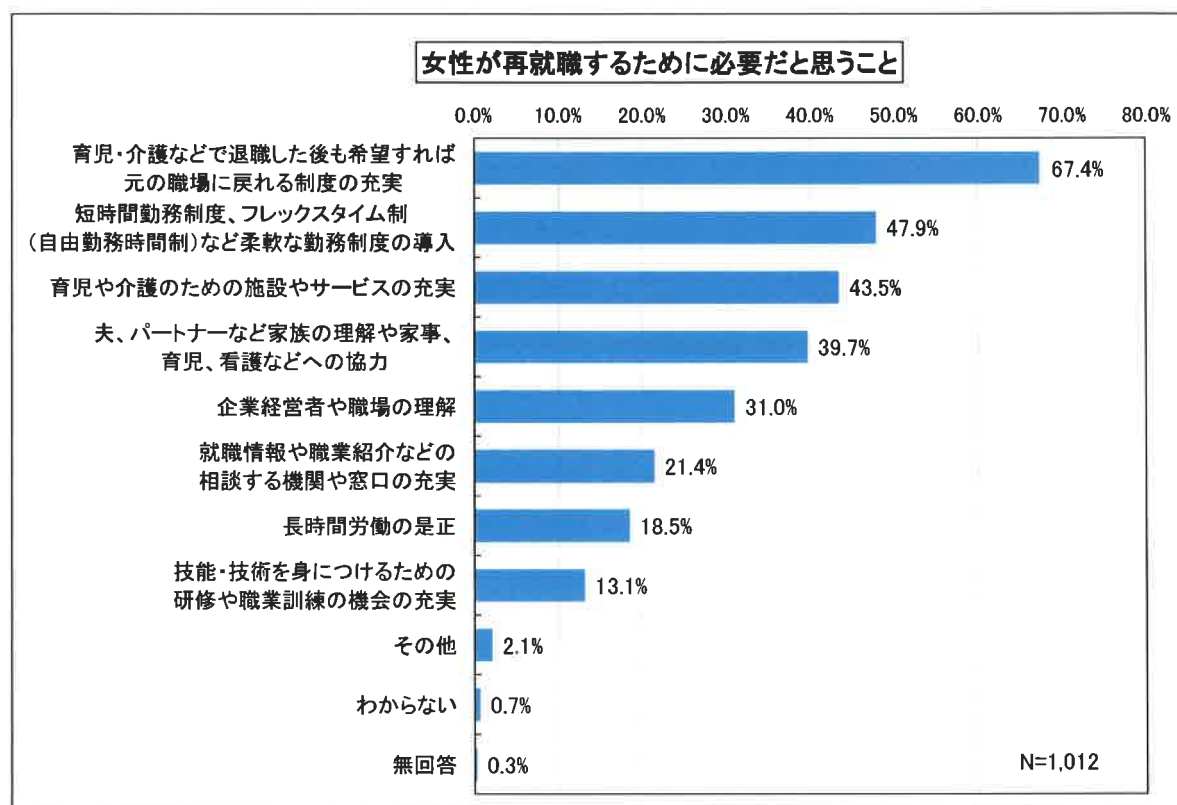
問 11 女性が働き続けるために必要なこと

男女共同参画を進めるために大切だと思うことの第1位は、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」で55.3%、第2位は「託児施設、託児サービスを充実する」で46.1%、第3位は「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で40.5%、第4位は「セクシュアル・ハラスメント等（セクハラ：性的いやがらせ、マタハラ・パタハラ等：性別に関わらず妊娠・出産・育児・介護に関する不当な取り扱い）のない職場をつくる」で36.3%、第5位は「賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす」で30.7%となっています。



問 12 女性が再就職するために必要なこと

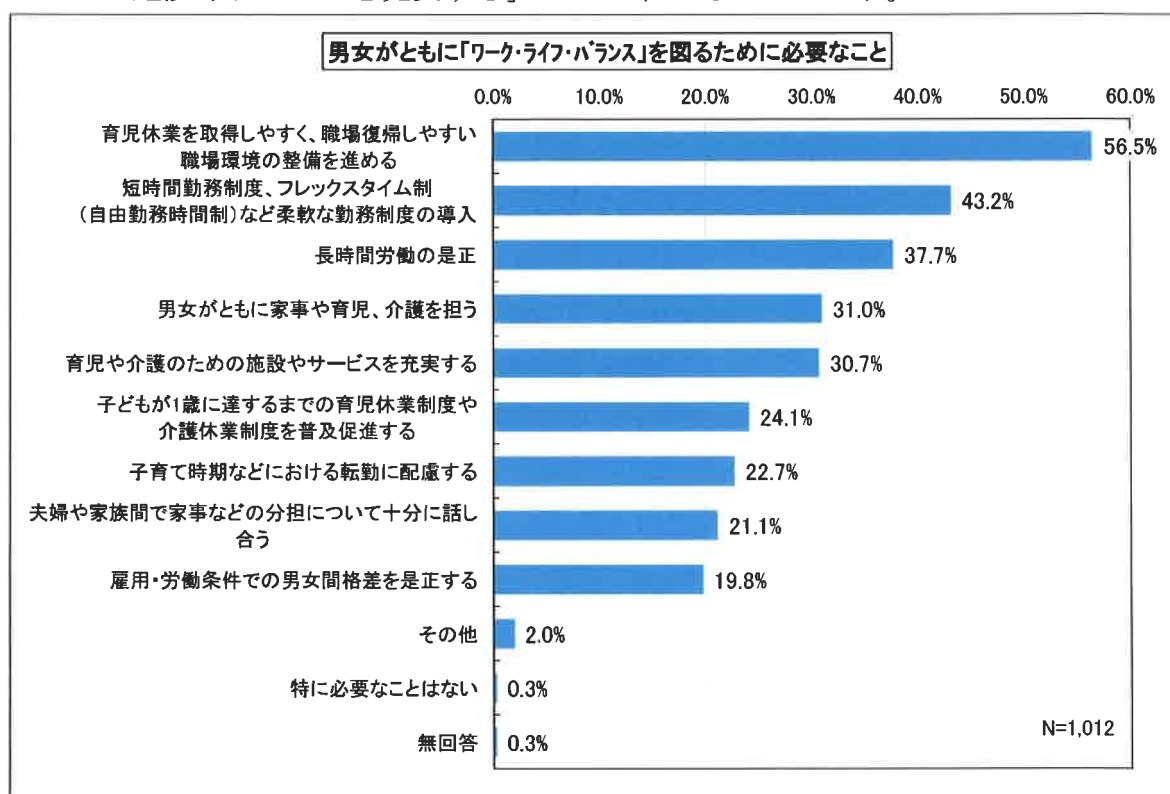
出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めた女性が再就職しやすくするために何が必要だと思うかの第1位は、「育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の充実」で67.4%、第2位は「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で47.9%、第3位は「育児や介護のための施設やサービスの充実」で43.5%、第4位は「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力」で39.7%、第5位は「企業経営者や職場の理解」で31.0%となっています。



ワーク・ライフ・バランスについて

問 13 男女がともにワーク・ライフ・バランスを図るために

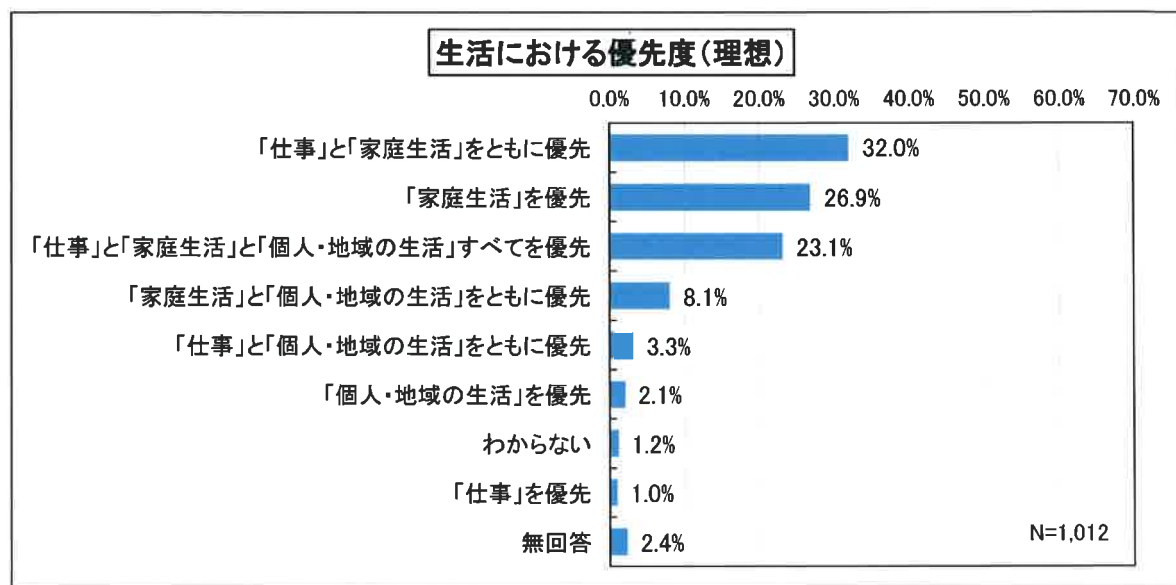
男女がともに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）」を図るために必要なことの第1位は、「育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい職場環境の整備を進める」で56.5%、第2位は「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で43.2%、第3位は「長時間労働の是正」で37.7%、第4位は「男女がともに家事や育児、介護を担う」で31.0%、第5位は「育児や介護のための施設やサービスを充実する」で30.7%となっています。



問 14 生活の中での優先度

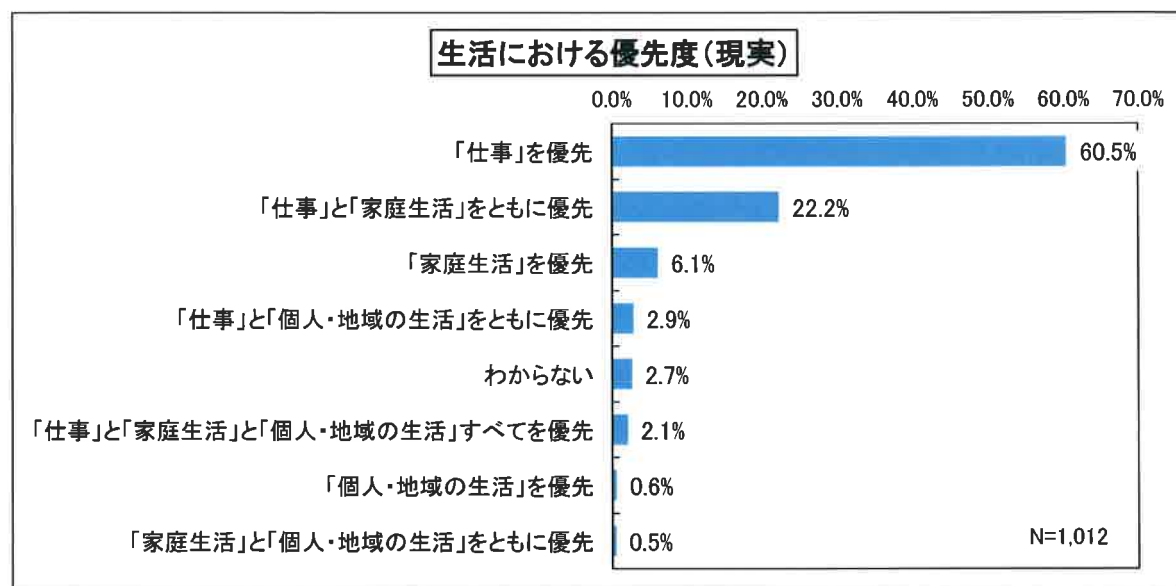
【理想】

生活における優先度の理想について、最も高いのは「仕事」と「家庭生活」をともに優先」で32.0%、次いで「家庭生活」を優先」で26.9%、「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」すべてを優先」で23.1%となっています。



【現実】

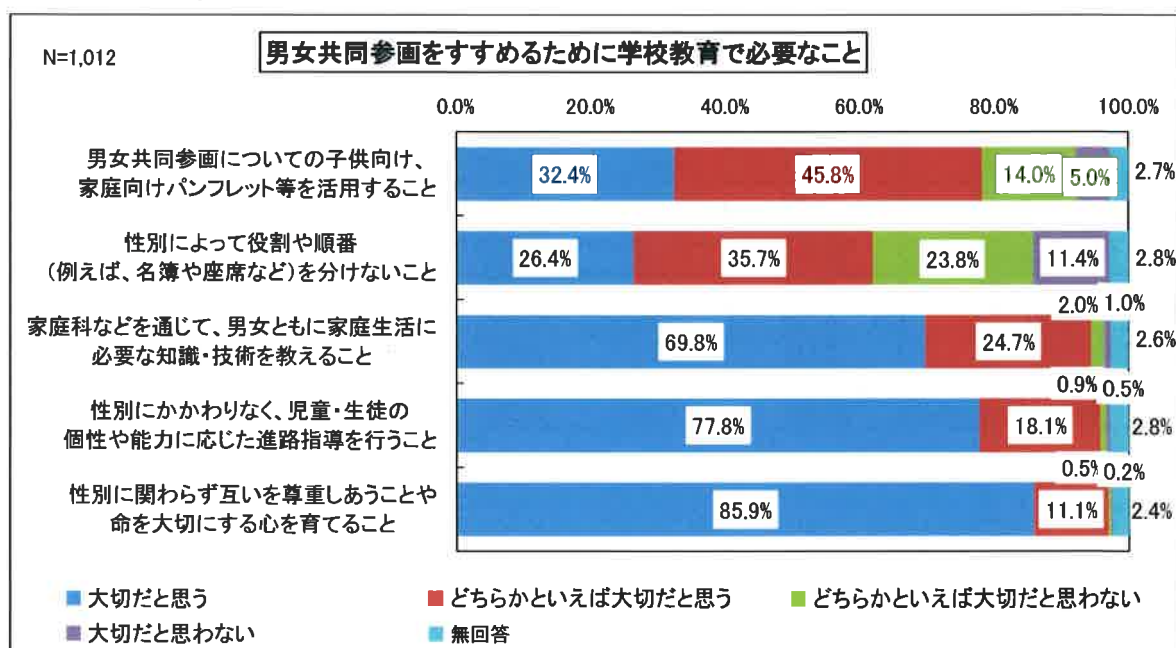
生活における現実の優先度で最も高いのは、「仕事」を優先」で60.5%となっており、他の項目より突出して高くなっています。次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」で22.2%、「家庭生活」を優先」で6.1%となっています。「仕事」と「家庭生活」をともに優先」したいという理想に対して、現実には仕事を優先している状況となっています。



学校教育について

問 15 学校教育で大切だと思うこと

男女共同参画をすすめるために学校教育で「大切だと思う」という割合が最も高いのは、「性別に関わらず互いを尊重しあうことや命を大切にする心を育てること」で 85.9%、次いで「性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた進路指導を行うこと」で 77.8%、「家庭科などを通じて、男女ともに家庭生活に必要な知識・技術を教えること」で 69.8%となっています。「男女共同参画についての子供向け、家庭向けパンフレット等を活用すること」(32.4%)、「性別によって役割や順番（例えば、名簿や座席など）を分けないこと」(26.4%)については、上位 3 項目より大きく低下します。



性別で区別しない名簿（男女混合名簿）について

問 16 性別で区別しない名簿（男女混合名簿）について

性別で区別しない名簿（男女混合名簿）は、男女平等や人権尊重の意識啓発に必要だと思うかについて、必要だと思う割合（「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計）と不要だと思う割合（「あまり必要ではないと思う」と「必要はないと思う」の合計）を比較すると、平成 24 年意識調査結果では高等学校でのみ必要だと思う割合（45.1%）が不要だと思う割合（38.8%）を上回っていましたが、平成 29 年では中学校以外の学校が、必要だと思う割合が不要だと思う割合を上回っています。

男女混合名簿は意識啓発に必要だと思うか

		a 必要 だと思う	b どちらかといえ ば必要だと思う	c あまり必要では ないと思う	d 必要はない と思う	e よくわから ない	無回答	必要 (a+b)	不要 (c+d)
平成 29年	幼稚園(N=130)	31.5%	27.7%	26.2%	6.2%	6.2%	2.3%	59.2%	32.3%
	小学校(N=400)	16.0%	30.0%	32.8%	11.5%	8.3%	1.5%	46.0%	44.3%
	中学校(N=218)	5.0%	17.0%	37.6%	29.4%	9.6%	1.4%	22.0%	67.0%
	高等学校(N=139)	28.8%	27.3%	22.3%	10.1%	10.8%	0.7%	56.1%	32.4%
	特別支援学校(N=130)	29.5%	26.2%	26.2%	8.2%	9.0%	0.8%	55.7%	34.4%
平成 24年	幼稚園(N=106)	3.8%	15.1%	41.5%	8.5%	30.2%	0.9%	18.9%	50.0%
	小学校(N=396)	6.3%	16.9%	42.7%	14.6%	18.2%	1.3%	23.2%	57.3%
	中学校(N=188)	3.2%	11.7%	46.8%	27.7%	10.1%	0.5%	14.9%	74.5%
	高等学校(N=206)	23.8%	21.4%	25.2%	13.6%	15.0%	1.0%	45.1%	38.8%
	特別支援学校(N=145)	21.4%	19.3%	30.3%	12.4%	13.8%	2.8%	40.7%	42.8%

DV、デート DV について

問 17 生徒のデート DV を見聞きしたことがあるか

生徒のデート DV を見聞きしたことがあるかについて、「まったくない」という割合が最も高く 78.0%、次いで「たまにある」が 17.8%、「よくある」が 2.8%となっています。

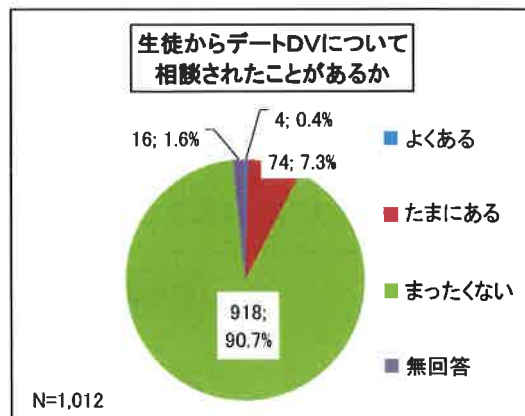
平成 24 年意識調査結果と比較すると、「よくある」の割合が 2 倍以上増えています。

生徒のデートDVを見聞きしたことがあるか

	よくある	たまにある	まったくない	無回答
平成29年 (N=1,012)	2.8%	17.8%	78.0%	1.5%
平成24年 (N=1,042)	1.2%	15.9%	81.8%	1.2%

問 18 生徒からデートDVについての相談

生徒からデートDVについて相談されたことがあるかについて、「まったくない」という割合が最も高く 90.7%、次いで「たまにある」が 7.3%、「よくある」が 0.4%となっています。



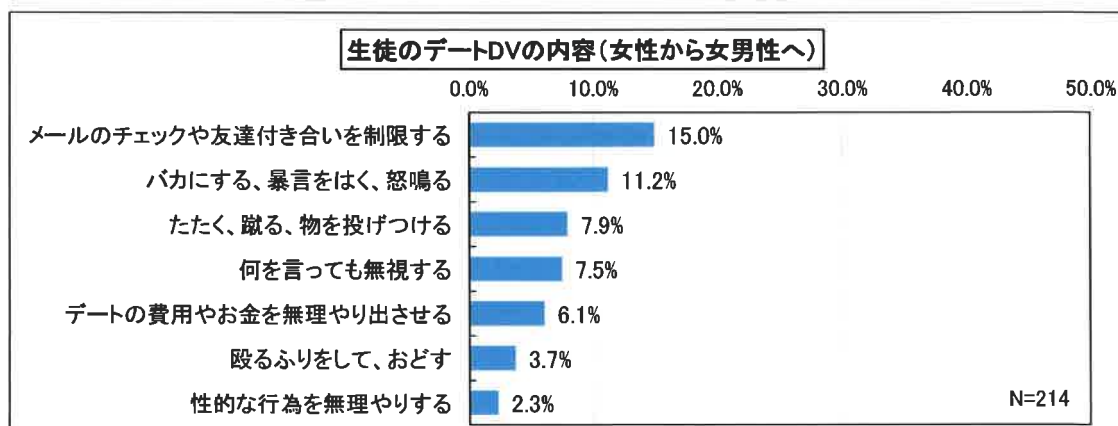
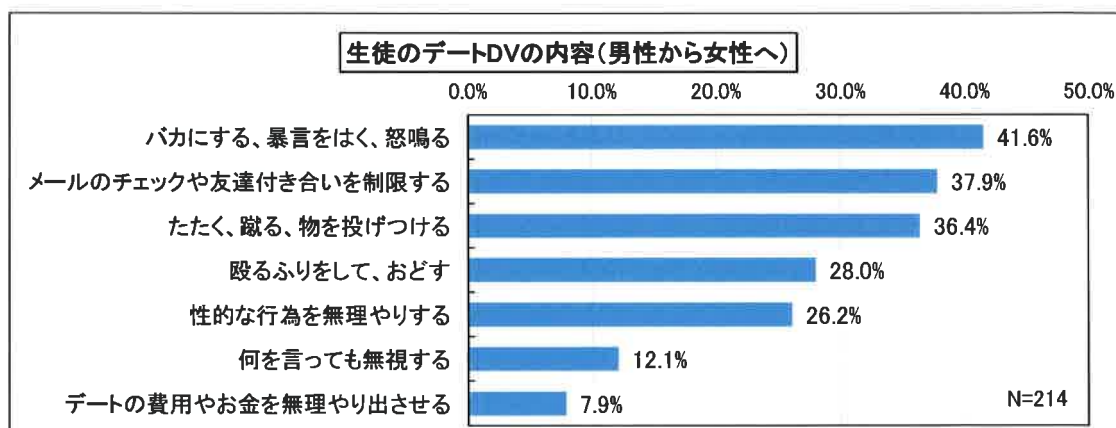
問 19 生徒のデートDVの内容

【男性から女性へ】

内容の第1位は「バカにする、暴言をはく、怒鳴る」で 41.6%、第2位は「メールのチェックや友達付き合いを制限する」で 37.9%、第3位は「たたく、蹴る、物を投げつける」で 36.4%、第4位は「殴るふりをして、おどす」で 28.0%、第5位は「性的な行為を無理やりする」で 26.2%となっています。

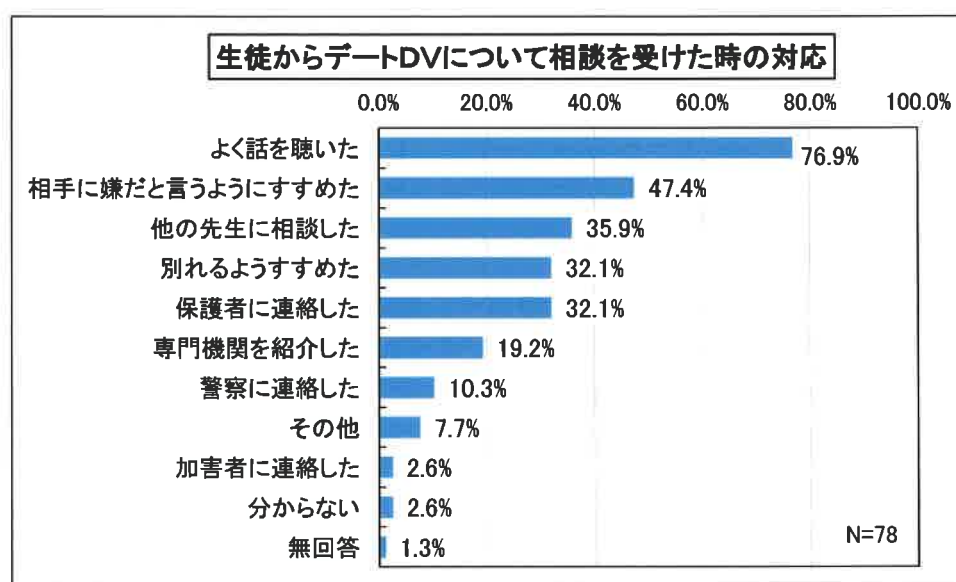
【女性から男性へ】

内容の第1位は「メールのチェックや友達付き合いを制限する」で 15.0%、第2位は「バカにする、暴言をはく、怒鳴る」で 11.2%、第3位は「たたく、蹴る、物を投げつける」で 7.9%、第4位は「何を言っても無視する」で 7.5%、第5位は「デートの費用やお金を無理やり出させる」で 6.1%となっています。



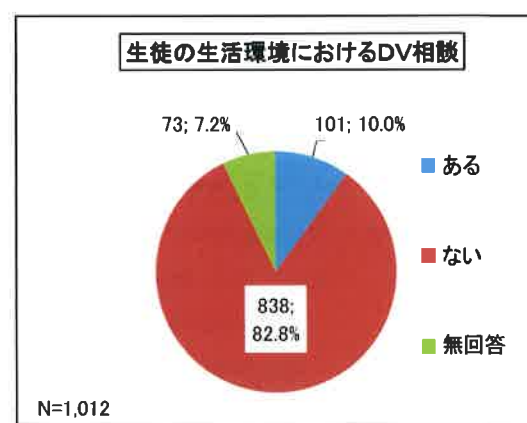
問 20 デートDVの相談を受けたときの対応

生徒からデートDVについて相談を受けた時の対応の第1位は、「よく話を聴いた」で76.9%、第2位は「相手に嫌だと言うようにすすめた」で47.4%、第3位は「他の先生に相談した」で35.9%、第4位は「別れるようすすめた」及び「保護者に連絡した」がともに32.1%となっています。



問 21 生徒の生活環境におけるDV相談

生徒の生活環境におけるDV（保護者間のDV、保護者とそのパートナーの間のDV）について相談を受けたことがあるかについて、「ない」が82.8%、「ある」が10.0%となっています。



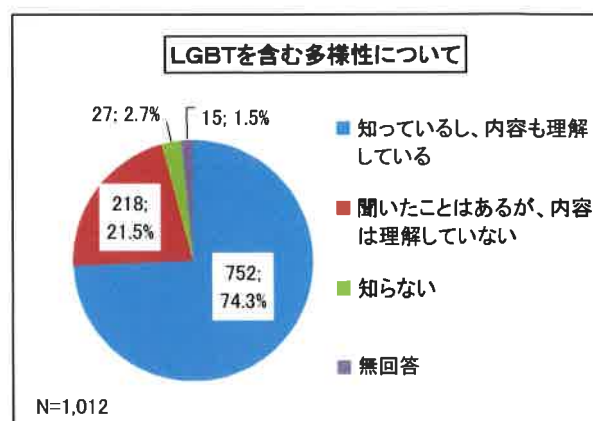
問 22 相談を受けた際の対応

相談を受けた際の対応の主な記述としては、「関係機関へ連絡を取り連携を図った」、「専門機関、相談員を紹介した」、「保護者へ連絡をとった」、「管理者（管理職）へ報告した」、「まず話を聞いた」などの意見がありました。

L G B Tを含む性の多様性への理解について

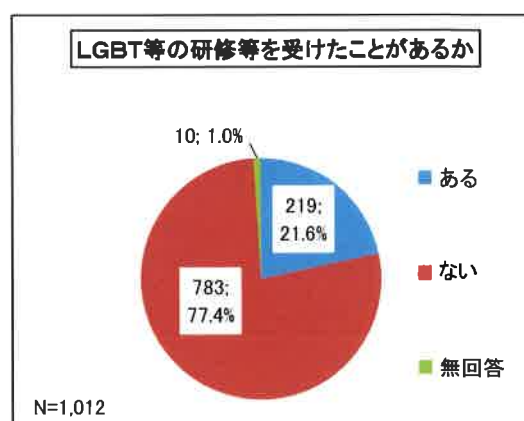
問 23 L G B Tを含む多様性

L G B Tを含む性の多様性について知っていたかについて、「知っているし、内容も理解している」という割合が最も高く74.3%、次いで「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が21.5%、「知らない」が2.7%となっています。



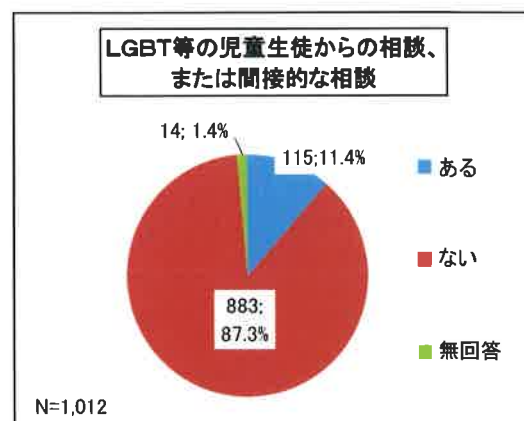
問 24 L G B T等の研修等を受けたことがあるか

L G B T等の児童生徒に対する支援のため研修等を受けたことがあるかについて、「ない」が77.4%、「ある」が21.6%となっています。



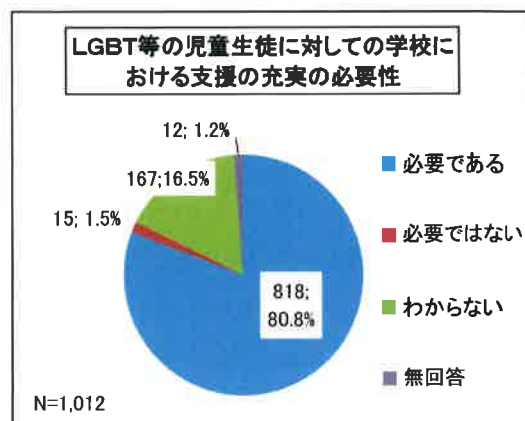
問 25 L G B T等の児童生徒からの相談、または間接的な相談

L G B T等の児童生徒から相談、または間接的な相談（当事者の友人等）を受けたことがあるかについて、「ない」が87.3%、「ある」が11.4%となっています。



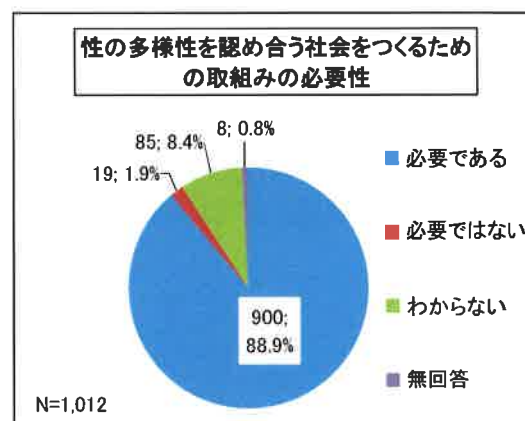
問 26 L G B T等の児童生徒に対しての学校における支援の充実の必要性

L G B T等の児童生徒に対して、学校における支援の充実が必要だと思うかについて、「必要である」という割合が最も高く 80.8%、次いで「わからない」が 16.5%、「必要ではない」が 1.5%となっています。



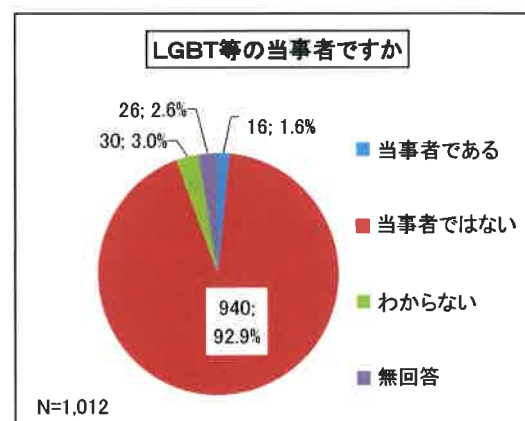
問 27 性の多様性を認め合う社会をつくるための取組みの必要性

L G B T等の当事者への偏見や差別をなくし、性の多様性を認め合う社会をつくるための取組みが必要だと思うかについて、「必要である」という割合が最も高く 88.9%、次いで「わからない」が 8.4%、「必要ではない」が 1.9%となっています。



問 28 L G B T等の当事者ですか

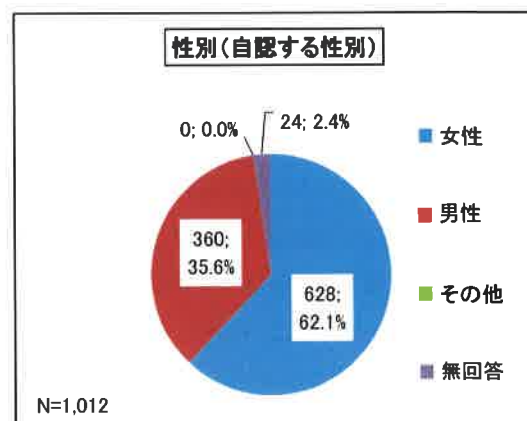
あなたはL G B T等の当事者ですかについて、「当事者ではない」という割合が最も高く 92.9%、次いで「わからない」が 3.0%、「当事者である」が 1.6%となっています。



問 29 性別（自認する性別）

性別（自認する性別）について、「女性」という割合が最も高く 62.1%、次いで「男性」が 35.6%となっています。

「その他」と回答した方はいません。



自由意見

DVの方は、自分がやっている事が、まちがっている意識がない。（自分が正しいと思っていて、）言葉がたくみでされている人は、つきあいがずっとある限り、その人がこわくて、「私がまちがっているんだ」と思いこんでしまうようになっているので、加害者の学ぶところをもっとふやしてほしい。

・アンケートは、体調や精神状態でかわるので、あてにならない。

・アンケートしたことで改善はされているのか、対策はよくきくが、良くはなっていない

・男性が早く帰宅できないと、女性が家庭のことをやらざるをえない。結果、男女平等で、女性も職場で働くとなると、家庭も仕事も重くのしかかってくるので、男の人の働き方、母親をサポートする制度の見直し等が必要だと感じる。

結果が出たら、各学校へフィードバックしてほしい。

・女性でも性別役割分担意識を根強く持つ人は多い。

・LGBTについては頭では理解していても、なんとなく違和感があります。

・理想と現実をしっかりとみすえた政策・条例などがあれば。

LGBTQのフォーラム等にも積極的に参加し、当事者との交流もしていますが、皆が差別されず、自分を隠さずに事由に生きられる、社会を作って欲しいです。LGBTQをつけた方が良いかな？と思います。

LGBT指導は小学校ではまだ自我が確立しておらず、指導が必要かどうか悩む。過去にある地域（他府県）で教師に「LGBTでは？」と親子への指導が勇み足になり（実際は違っていただけのこと。）、その子がトラウマとなり、訴えられたという事例を聞いたことがある。

どちらかというと若い世代の方がすすんでいると思う。大人から変わることの方が大事ではないか…

おさない頃両親がともばたらきで、さびしい思いをしたことがあります。大人になりもっとさびしい思いをしている子ども達がいることを知りました。働くことだけでなく、子どもとの関係も考えられる社会を望みます。

教師の男女比が、児童・生徒の男女比と比べて、女性の割合が多いが、この問題に対して、当センターは応じないのでしょうか？

育児ノイローゼにならない様に、仕事の過重負担を減らし、雇用を増やして欲しい。
とても大切な事だと思うが、「性別で区別しない名簿」は、環境整備上、必要ないと思う。また男女の体の特性上、役割には適性があることを理解しないといけない。
誰でも暮らしやすい社会に一日でも早くなるよう願ってます。一人一人の行動が大事ですね。
親せきのつき合いとか、家庭の中で男女平等を作っていきたい(ムツカシイ)
LGBT の生徒が実際にいるにも関わらず、なかなか授業で扱うことがなく、さらに職員の中にもあまり理解や正しい知識がないような方がいると思う。職員向けの研修を増やしてほしい。
教員ではありませんが、小さい子どものいる友人から、子どもが体調をくずして休みが続くと職場の人達が冷たくなり仕事をやめざるを得なくなるという話をきいたことがあります。そういう職場が多いと女性の仕事復帰がむずかしくなると思うので、休みをとりやすい環境づくりは大切だと思いました。
現在の社会が変わると、自然に子ども達もその社会に適応してくると思う。現在の社会で変えるべきだと感じます。
生活や雇用、あらゆる面において、男女平等社会を構築することが大切だと思います。
もう少し世間一般に広まるといいですね。
女性も昔よりは昇進もして、女性課長も多い。ある一部がそうなのかもしれません。今は、女性のみでなく男性という性も仕事・学生生活の中で何らかの性役割をしいられていることがあります。男女枠ではなく人としての尊重も理解もされる生き方に対しての発進元になり伝えてほしい。性に着目してではなくて、人が生きるための課題をみつけてどの人もよりよい生活になるようお願いしたいです。
特に女性の地位向上についてのさらなる支援をよろしくお願いします！
世の中はまだまだ男性優位の社会である。もっと女性の地位を上げる必要がある。
このような社会にしていける事は大事だと思うが、じゃあ何をする？と言われると難しい。理解者を増やす事をすればよい。
男女混合名簿の導入等もあるが、学校現場での取り組みには限界があると思う。(身体測定等)
一人の人間としての存在を互いに認め合う社会が出来れば、あまり性について悩むこともないのでは…と思ったりします。男でも女でもそうでなくてもそれぞれの役割ってあるのではないのでしょうか。どんな人にも愛情を注ぐことができればみんな幸せです。
差別がない世界になってほしいですね
ジェンダー以前の人権全般について学ぶ機会が少ない。
男女、お互いにできることをし、協力しあえることが大切なのかなと思う
男女共同とか男女平等など特別に力を入れること自体、不自然に思います。男性と女性は、全く同じ生きものではないので、区別が生じますが、それはイコール差別ですか？
LGBT への取り組みを進めるのは良いですが、
LGBT などの研修をみんなで受けても良いと思う。
・アンケート結果を公開してほしい
・沖縄の長男家、各行事等の負担の偏りなどのアンケートもとってほしい
夏の研修ありがとうございました。

男性は男性(にしか出来ない)の役割、又、女性は女性(にしかできない)役割もあると思うので、そこは互いに尊重し合いながら、個々人が大切にされる、輝ける社会へとつながっていくといい、と思います。
男女別名簿で「男が先」「女は後」という序列を作っているというなら逆にしたらいいと思う。
考えるきっかけになりました。ありがとうございました。
地球上の人間は、男と女しかいない。その生まれつきの特質は認めた上で理解しあい平等に、平和に生きていきたい。
中・高の制服のあり方、等…考えさせられます。
学校は、50音にしたが、そのために地域順の名簿がくずれ、子どもの放課後のつながりは、減ったと感じる。
学校の名簿並びを男女混合にしたのに保健関係は男女別…？書類上の意味のない多様性認知だけでなく、オープンにしている人の話を聞く機会を作るなど、偏見をなくしていく方が大切だと思います。
強制力のある法律をつくることが一番ではないかと思います。
最近では、ランドセルの色も多く、男女関係なく、色が選べるのでとても良いと思う。
女は女に厳しいので、職場には男の人をいってほしい時がある。
男女共同参画のことは、もう少し勉強しないといけないなあ〜と思いますが学校の中で、周りのことを気にしないで、年休をとったり、続けて休んだりしている先生がいて、管理職が何も言わない。おかしいと思う。マタハラとか気にしすぎて何も言わないとかありえない。
応援しています。どんどん進めて下さい。
私の知りあいにもいるので、どんどんみんなの意識が変わることを願います。(知識がつくことで、見方が変わると思う)
表面的な感じがする。知識として理解しているか、本質的な部分ではかわっていない。男性優位の社会ですよね。今も。
性の多様性について、何の相談もないのに、こちらから、それらしい子への声かけなど、不要と思う。過剰に大人が反応しすぎて、当事者の悩みを深くしてしまう時も多分にあると思う。
平等であれば幸せになれる、わけではない。けど…けど…
このアンケートが男性優位目線 特に就労
男性も育児休暇がとりやすい環境になってほしい。やはり、取得しようとする、女性側に何かあるか不安視されました。
有給休暇がとりやすい職場、働きやすい職場作りが先ず最初にするべきだと思います。
・上司、管理職の認識に差があると思う。 ・理想が先走ってしまい、現実が追いついていない。
何でもかんでも差別ではなく違いを認める区別もあると思う。男しかできないこと、女しかできないこと、それぞれの役割を認め合い尊重することも大切だと思う。名簿の混合はあまり意味がないのではと考えています
差別と区別があいまいで現場を煩雑に混乱されていると思われる。配慮は必要と思うが、男女の区別をきちんとしないと名簿等で逆差別が行なわれはしないか。スポーツ競技等はどうするか、さまざまな乱れを生じさせる。現場の配慮、意見をもっともっと取り入れていかないと恐ろしい。

混合名簿については反対です。ただでさえ多い事務作業が増えることが予想され、そうなることで、一番大切な「子どもと向き合う時間」が減ってしまいます。男女平等は形式的なことではないと思います。意識を変えるためにも向き合って話す時間を確保したいです。
学校は男女差別です。理由は部の顧問は男性からあてはめられていて、女性は副顧問が多いです。また、体罰は禁止なのに、生徒指導主任は男性です。「男の先生だから厳しく指導して」と言われたこともあります。女性の先生には、「あんた男の子でしょ」と生徒に言っているのをみたこともあります。女尊男卑です。
沖縄市の研修に参加させていただき、LGBT について知ることができました。今後意識していきたい。
ここ数年、知人の夫婦などをみていて、夫も家事・育児に協力する姿が増えたと思います！男女共同参画の理念が、少しずつ、広がりつつあると感じています！これからも家庭生活や教育現場にて意識して取り組んでいきたいです！
男女別の授業では混合名簿は不都合が多い
何でも学校で教育するのはまちがっている。
LGBT について悩んでいる生徒への支援の仕方が学べる研修に参加したい。
LGBT と思われる生徒、又はだった生徒と関わってきました。ほとんど苦しんでいて→不登校、ひきこもり、自殺…。子ども達だけでなく親も苦しんでいるケースがあるので情報が必要。トランスジェンダー→裁判所で性の変更ができる。市によっては結婚など。ただ就職はまだまだ厳しい。
過剰な対応は必要ないと思います。
男子は青、女子は赤、ピンクとか生活に根深い意識を変えるのはゴールが遠い。けど千里の道も一歩から。
ジェンダーとセックスの違いはしっかり分けるべき。ジェンダーフリーと称してあんでも Mix にするのは違うと思う。男・女それぞれ生物学的役割がある。生物学的性質もある。LGBT の人には配慮するし、配慮するのが当たり前。特別なことではないという社会になればよい。「差別」「順位」と「区別」「順序」は分けて考えるべき。
差別は良くないですが、男女それぞれの体のつくり等によって役割があるので、ある程度の区別は必要だと思います。男女混合名簿について、あくまで児童生徒管理のためなので、男女分けたものでないと本末転倒では？と感じます。それが直接、子どもたちの男尊女卑的な意識につながるのでは今のところ思えません。先生が適切な態度と声かけをすることで良いのではないかと思います。あと、男女の平等については何よりも、家庭での親の態度が重要だと思います。
身体的に男女の差・違い(ホルモン)がある事実を受け止め、尊重し、助け合うことが大切。全て同じにはなれない。
男女混合名簿はいらない。
Q26.27・小学校なので、支援に関しては、現段階では未だ必要無いのではとも思う。もう少し時間が経過して社会で、より認知される様になってからでも良いのではと思う。
男女が性や家庭設計について話し合う事ができる事は大切だと思う「違う」事は、きっと「わからない事」が多い意外に。言葉で思いを伝えられる様にできたらもっとお互いを理解できるのかなと思います。
LGBTQ 等について、児童等にもわかりやすいポスターやパンフレット等を作成してほしい。

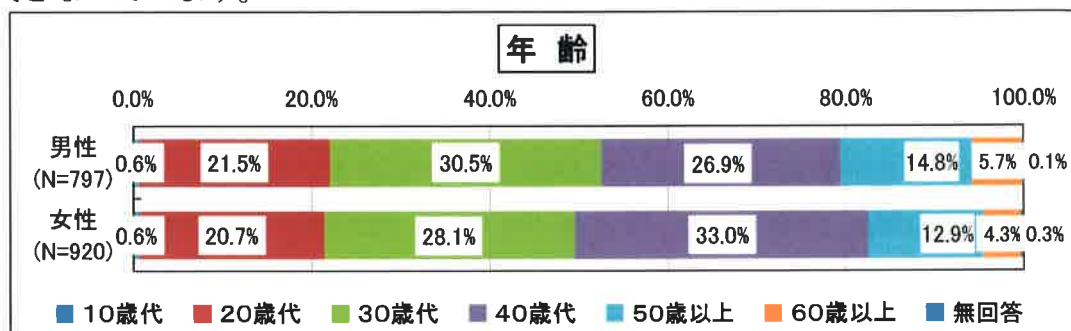
男女共同参画の根底には、人権意識が大切である。その上で、長時間労働を減らし、特に沖縄では、夜のつきあいが多いため、夜のつきあい(もあい)等をへらし、家庭生活を大切に、夫も妻も家事を分担することで、いろいろな可能性が広がっていく
理解もできるし現状も知っているが、やっぱり女性は女性で男性は男性で体の作りが違うように役割が違うと思う。ただ性同一障害に関しては、周りの支え(理解)が必要だと思う
ジェンダーフリーが聞かれるようになって日本の社会がいろいろ批判的になったような気がする。
その取り組みが浸透してきて、職場で大型の荷物や物を学校行事で運ぶ際、”女だから持てない””女だから大変”と言わなくても、男女平等だから運べなどと言われたことで…体格や力が明らかに違う男女なのに、同格という考え方からとても大変な思いをした。
これからも多くの方に周知されるよう取組等をがんばってほしいと思います。これからの時代、とても大切で必要な取組だと感じています。
行政が取り組みを充実させ、沖縄市が魅力あるよりよい街づくりに尽力することに期待します(沖縄市民より)
すべての人権が尊重されすべてに寛大な社会になって欲しい。
今年度より男女混合名簿を導入した。混乱は特になく、意識もせず、ふつうにだせていると思われる。
男女が共に生活するうえで、知識を広く知ることだと考えています。なぜ、今それが必要なのか、知る機会をもっとつくることかな。学校側も道徳の時間、人権教育で「多様性」について学んでいます。
問29→この問いはジェンダーフリーではない気がしますが…結局女性は～男性は～という分析なのは？
このような、アンケートがある事が悲しい。互いを思いやり、尊重できる、学校教育が出来たら、こんなアンケートはいらない。
名簿に関しては、差別とかではなく、男女別の方が何かと便利です。作るのと分けるのに時間がかかり、大変でした。(名簿は別で、並び順は男女…とかで混乱する)
男女以上に人として尊重し合う社会作りをしていきたい。
アンケートの実施が、学期末の多忙な時期であり、しかも、提出期間が4日間というのは厳しかった。もっとゆとりをもって依頼してほしい。混合名簿については、現場の意見を聞いてからスタートしてほしい。
男性の育休取得率を上げたいと思うなら、職場の理解(男女問わず)は必須だし、取りやすいシステムを作してほしい。(1歳以降の育休手当)←今のシステムは、同一人物じゃないと取れないので。
価値観が多様になり、社会のあり方が難しい状況にあり、今の社会でどう生きて満足を得るか、厳しい。社会が「共同」から「個」へ移り、人の在り様が、壁に当たってしまっている。アンケートを取る姿勢は良いと思うが、世はそんなに変わらないだろうと思う。
大人よりも高校生の方がLGBTの理解がすすんでおり、柔軟に受け入れているように感じる。性の多様性や個を大切にする取組は、行われていると思う。小学生くらいから必要だと思う。
誰もが住みやすい、社会を皆で作り上げていきたい。そのために、意識改革と教育を充実させたい。

育児や保育、介護などの法、制度が立案される段階から、男女ともに全ての労働者が対象であることを忘れないで欲しい。全て同権。女も男も誰でも好きな生き方をしても誰にもとがめられず、罪悪感を感じずに済む取り組みや、人々の意識づくりを未来に期待しています。
まずは小さいことからできることから始めるべき。(例えばすぐにできる男女混合名簿とか)
差別はだめだけど区別は必要！
男女共同参画にするためには、育休中の給与、職場復帰の保障を企業や社会まかせではなく、フランスみたいにきちんと法律を作り政治がきちんとやるべき！
門中(父系血縁集団)の制度からなる男女関係のひずみの是正が必要、自立しようとする人への障壁(位牌、墓問題→子供への経済的・精神的依存→離婚・失業・進学率に影響)フランスのコルシカも、おきなわとの共通点が多いと聞いたことがあり「沖縄」を客観的に図るいいサンプルだと思うので、男女共同参画を考えるうえで参考にするのもいいと思います
どんなにまじめに働いても、軽く見られる。経験を積むチャンスが少ない。男同士のなあなあの働き方にうんざりする。これほど見えない天井を感じる学校は無い
男女混同名簿は必要ないと思います。本稿は混同名簿を採用していて非常に使いにくいです。5ページにあるような「男が先」「女は後」という固定概念を性別を分け阿多名簿が区別の習慣を助長するものにはならないと思います。必要ならば奇数クラスは男子が先の名簿を、偶数クラスは女子が先の名簿を等やり方はいくらでも考えられると思います。男子が何名、女子が何名、出席番号での男女の区別など、事務的な作業には男女は分けた名簿の方が断然使いやすい現状がある、男女平等の社会は推進すべきだが、混同名簿には反対です
誤解を恐れずに言えば、このようなアンケートがない社会、それが実現できれば LGBT に関しても親しみやすくなるかと思います。テレビ等で話題になる LGBT の方は良いが、でも特別視されていることに変わりはないので LGBT だから活躍の場があるのではなく普通になったらいいし、あえて、ソコを強調せずに世に出ることができると良いと思う。
男女が共に尊重することで、住みよい社会になると思う
当たり前のことだと思います
何事も平等が一番
性別による役割の違いを認識しながら男女平等な社会が出来ればよいと思います
Q3 の職名にあてはまる回答がありませんでした、高校には実習実験に携わる職種があり(実習経論が実習助手)Q6 の質問の「学校教育の場で」は誰を対象にしていますか？「児童・生徒」なのか親の立場から見て「子どもがどう扱われているのか」を指しているのかわからなかった
男女共同参画や LGBT のどちらについても、過度に配慮し過ぎることなく社会(市民)全体の利益となるような取り組みをお願いします

（５）市役所職員アンケート

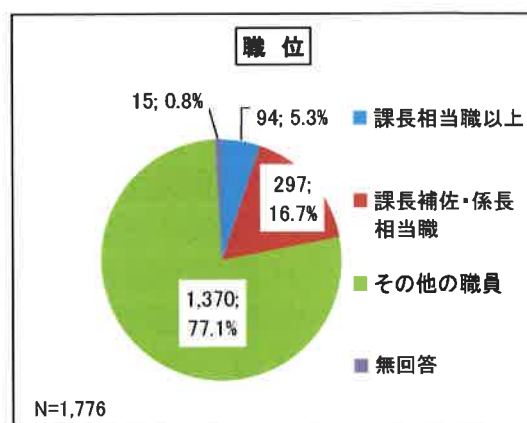
問１ 年齢

アンケートの回答者の年齢で最も割合が高いのは、男性が「30 歳代」、女性が 40 歳代となっています。



問２ 職位

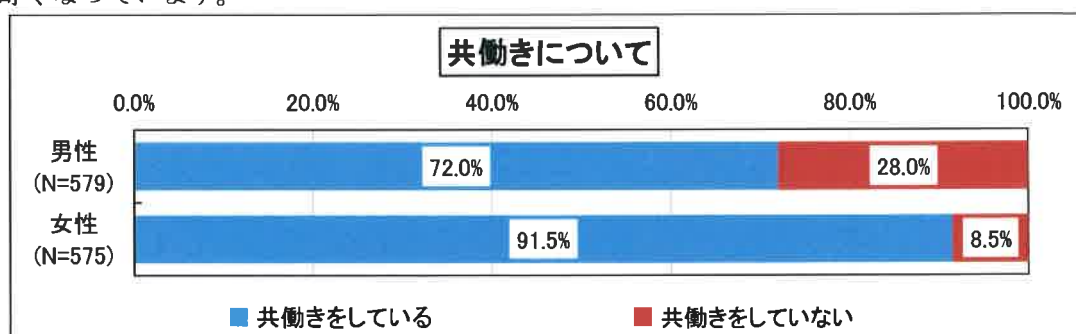
回答者の職位で最も割合が高いのは、男女ともに「その他の職員」で 77.1%、次いで「課長補佐・係長相当職」で 16.7%、「課長相当職以上」で 5.3%となっています。



問３ 共働きについて

（既婚「未婚だが同居のパートナーがいる場合を含む」の方のみ）

共働きについて最も割合が高いのは、男女ともに「共働きをしている」という割合が高くなっています。

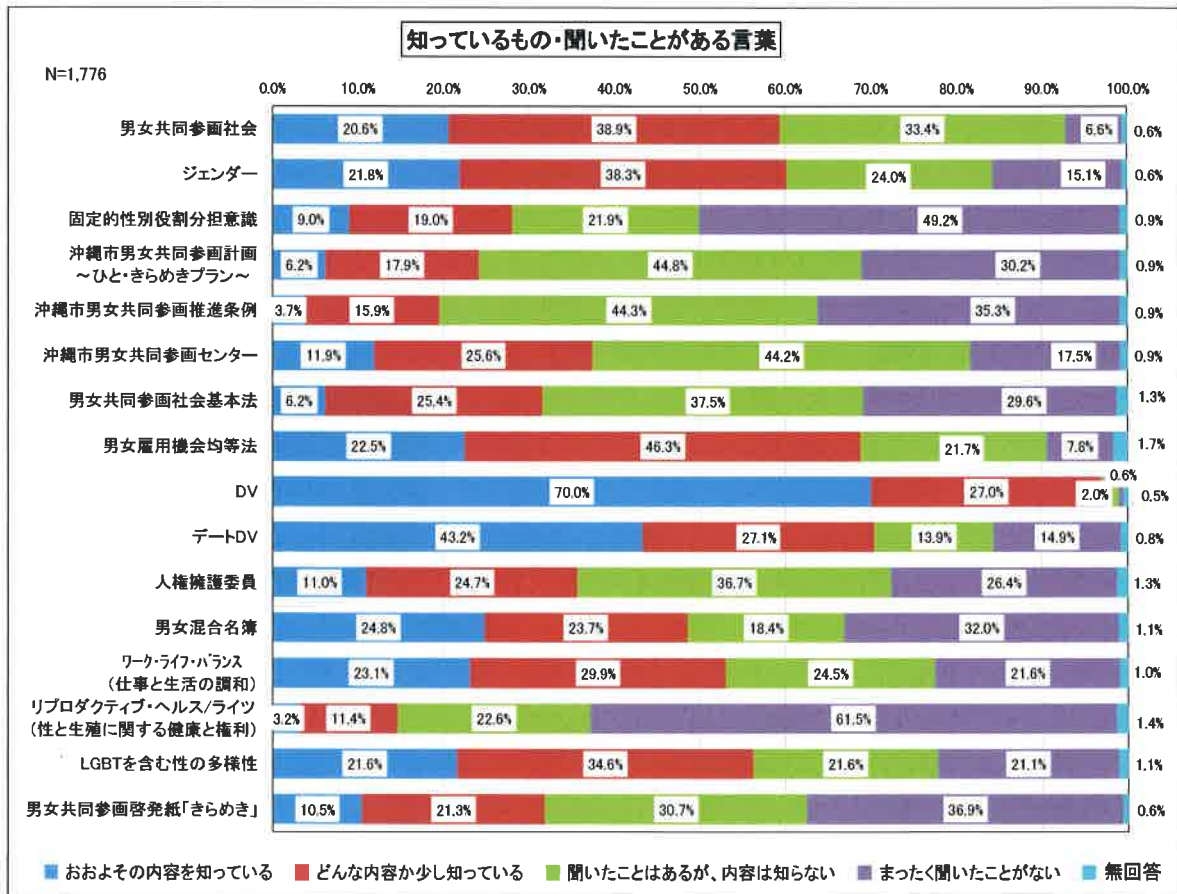


男女共同参画に関する言葉について

問4 言葉の認知度

次の言葉の認知度について、「おおよその内容を知っている」という回答割合が最も高いのは「DV」で70.0%、次いで「デートDV」が43.2%、「男女混合名簿」が24.8%、「ワーク・ライフ・バランス」が23.1%、「男女雇用機会均等法」が22.5%となっています。

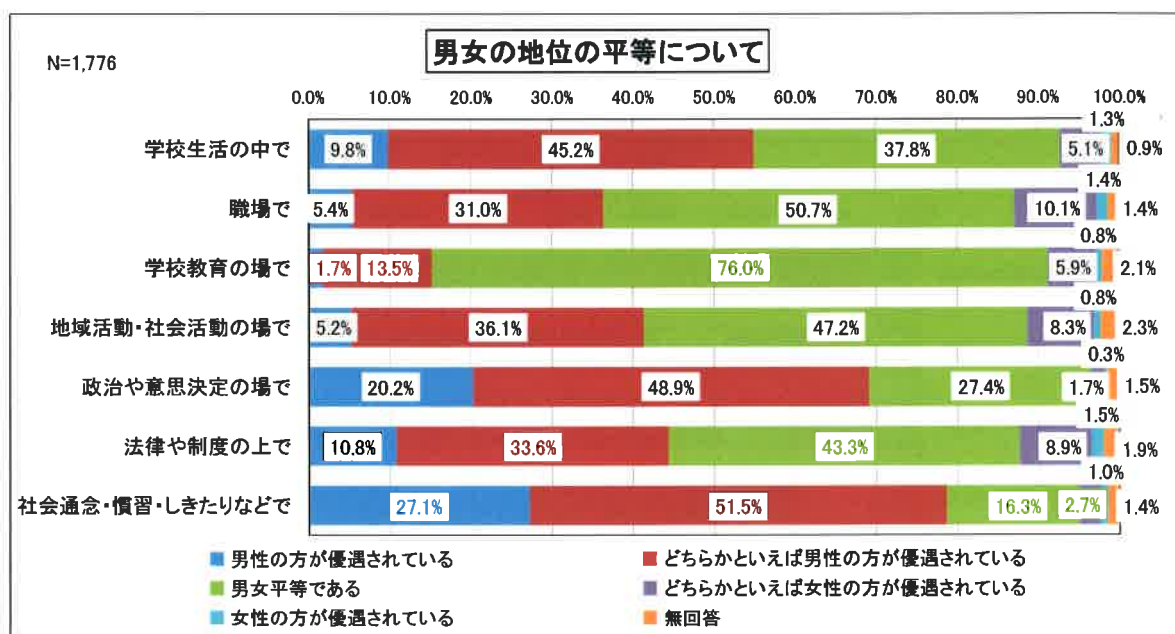
「沖縄市男女共同参画推進条例」(3.7%)、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)」(3.2%)については、認知度が低い状況にあります。



男女平等に関する意識について

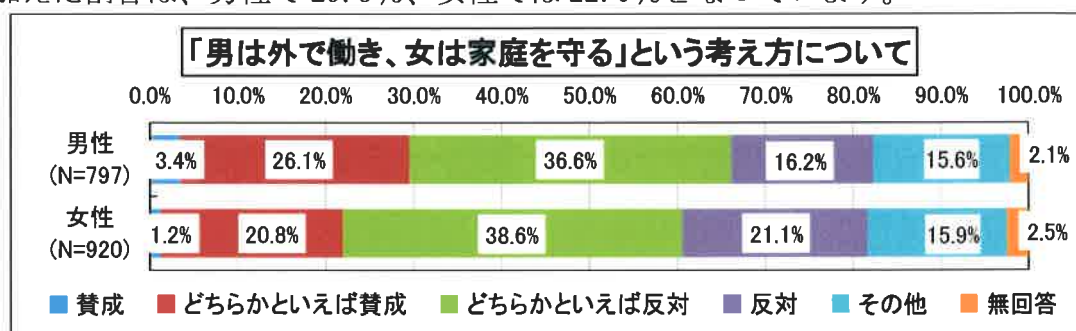
問5 男女の地位について

男女の地位は平等になっているかについて、「男女平等である」という割合が最も高いのは、「学校教育の場で」で76.0%、「職場で」で50.7%、「地域活動・社会活動の場で」で47.2%、「法律や制度の上で」で43.3%、「学校生活の中で」で37.8%となっています。



問6 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて

「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて、男女ともに「どちらかといえば反対」の割合が最も高くなっています。「賛成」と「どちらかといえば賛成」を加えた割合は、男性で29.5%、女性では22.0%となっています。

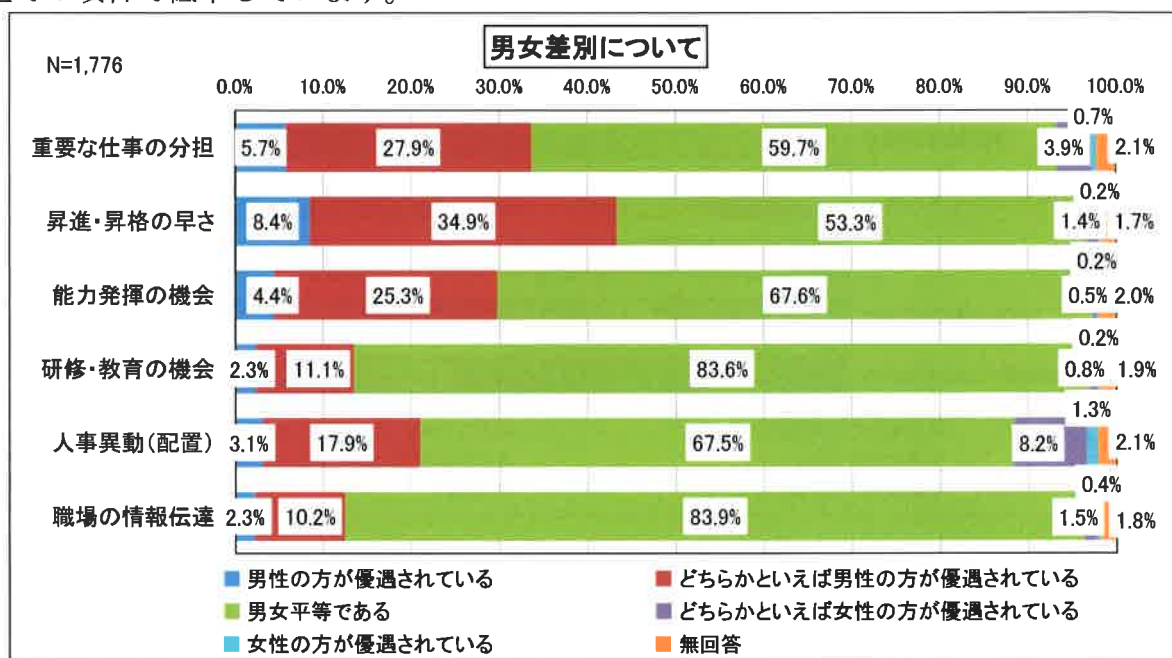


職場、就労について

問7 男女差別について

今の職場で男女の固定化された役割あるいは男女差別があると感じられるかについて、7つの分野で男性と女性どちらが優遇されていると思うかという問いに対して、全ての項目で男性が優遇されている（「優遇されている」と「どちらかといえば優遇されている」の合計）という割合が、女性が優遇されている（「優遇されている」と「どちらかといえば優遇されている」の合計）割合よりも高くなっています。

これを平成24年意識調査結果と「男女平等である」との回答割合を比較すると、全ての項目で低下しています。

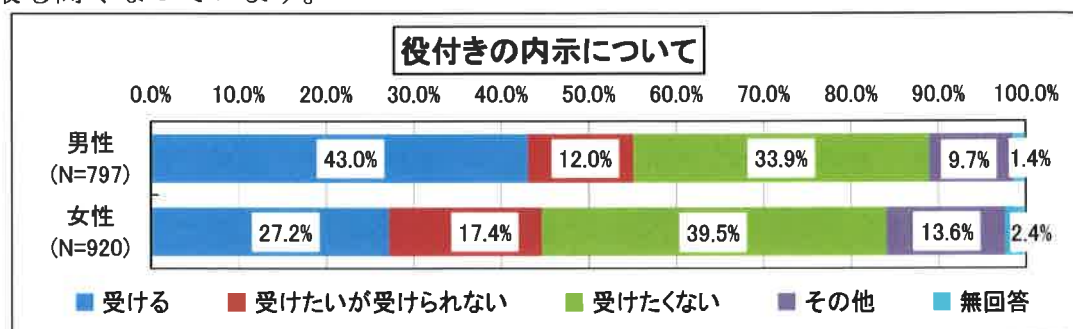


男女差別について「男女平等である」という回答割合

	平成29年	平成24年	H29-H24
重要な仕事の分担	59.7%	60.1%	-0.4
昇進・昇格の早さ	53.3%	56.1%	-2.8
能力発揮の機会	67.6%	68.2%	-0.7
研修・教育の機会	83.6%	85.6%	-2.1
人事異動(配置)	67.5%	68.4%	-1.0
職場の情報伝達	83.9%	84.2%	-0.3

問8 役付きの内示について

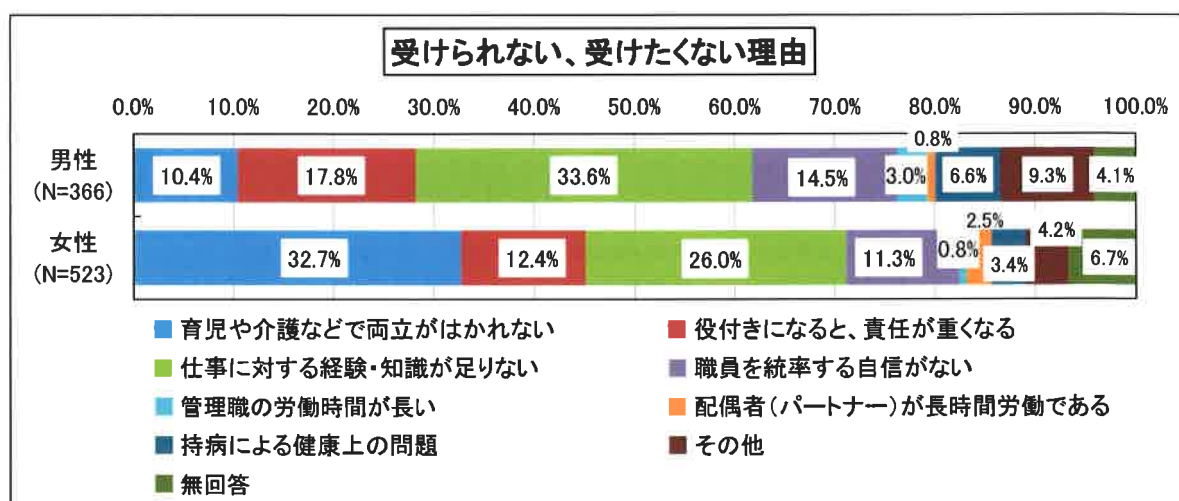
役付き（今の職制より上位の職制）の内示があったら受けるかについて、男性では「受ける」（43.0%）という割合が最も高いのに対し、女性では「受けたくない」（39.5%）が最も高くなっています。



問9 受けられない、受けたくない理由

（「受けたいが受けられない」または「受けたくない」が対象者）

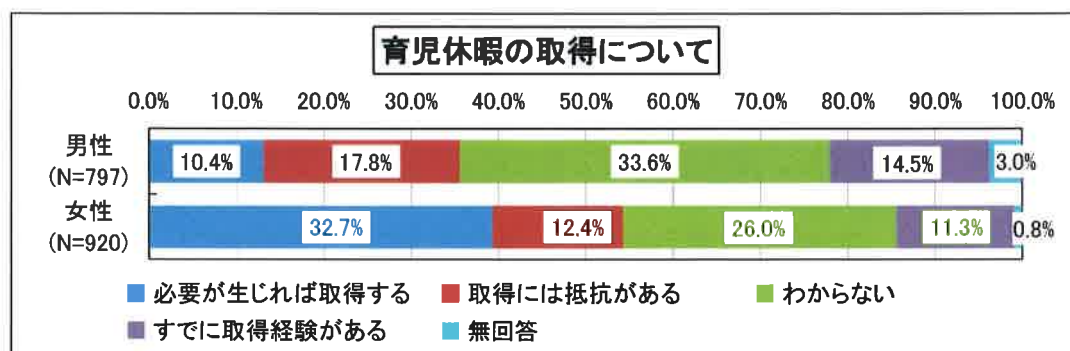
役付の内示があっても「受けられない、受けたくない理由」について、男性では「仕事に対する経験・知識が足りない」という割合が最も高く 33.6%、女性では「育児や介護などで両立がはかれない」が最も高く 32.7%となっています。



問 10 育児休暇や介護休暇の取得について

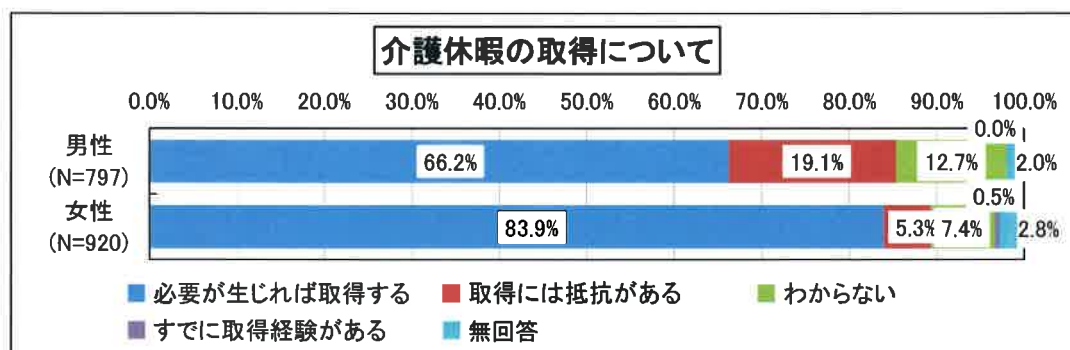
【育児休暇】

「育児休暇の取得」について、男性では「わからない」(33.6%)という割合が最も高いのに対し、女性では「必要が生じれば取得する」(32.7%)が最も高くなっています。



【介護休暇】

「介護休暇取得」については、男女ともに「必要が生じれば取得する」という割合が最も高くなっており、男性で66.2%、女性では83.9%となっています。



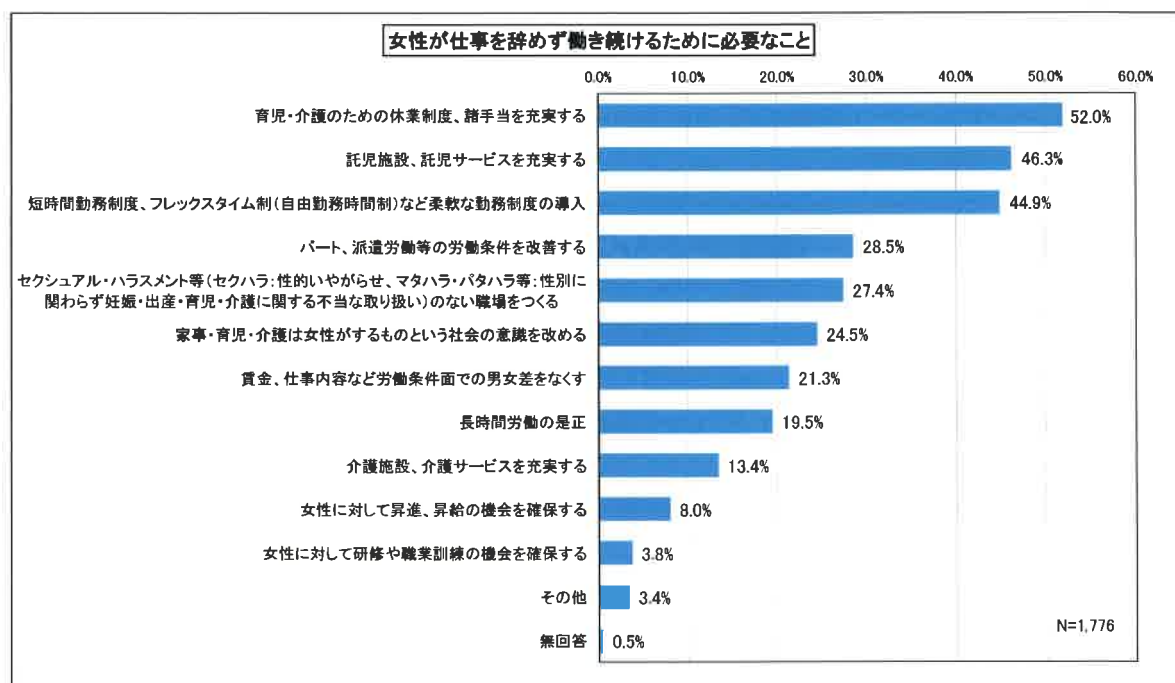
問 11 抵抗を感じる主な理由

(問 10 で「取得には抵抗がある」と回答した方)

抵抗を感じる主な理由としては、「周りへの気遣いや迷惑がかかる」、「取りづらい雰囲気がある・理解がない」、「仕事へ支障がでる」、「育児・介護休暇は女性が取得するものという雰囲気がある」、「職場復帰への懸念」、「収入の面での心配」、「立場上取りづらい・自分の変わりがいない」などの意見がありました。

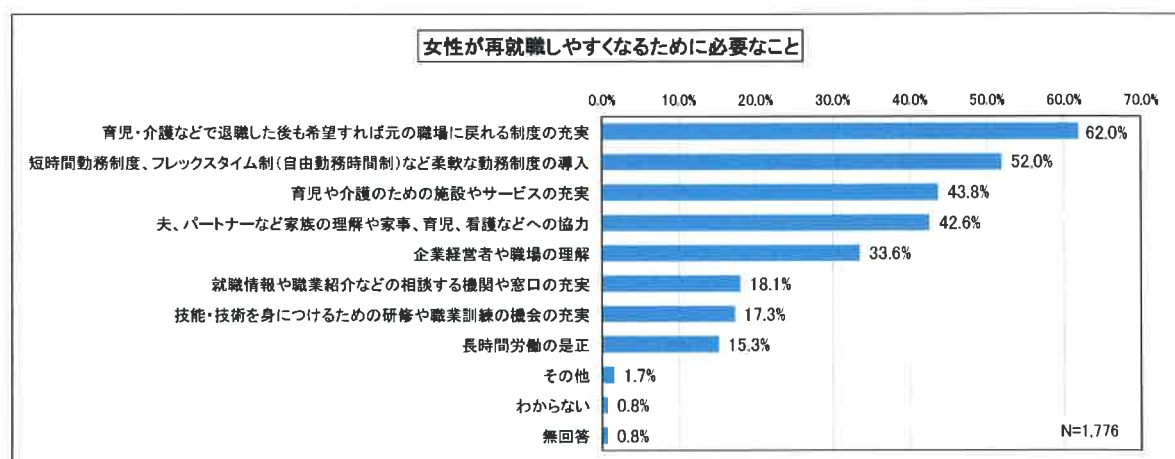
問 12 女性が働き続けるために必要なこと

女性が仕事を辞めずに働き続けるために必要なことの第1位は、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」で52.0%、第2位は「託児施設、託児サービスを充実する」で46.3%、第3位は「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で44.9%となっています。



問 13 女性が再就職するために必要なこと

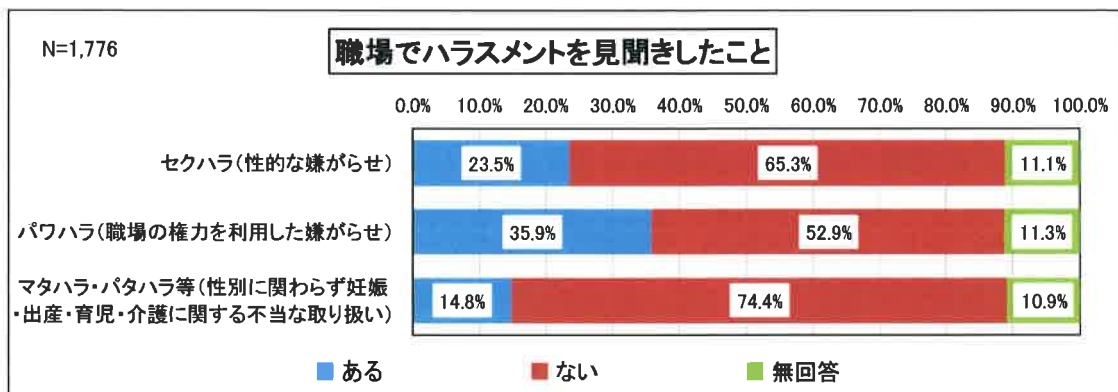
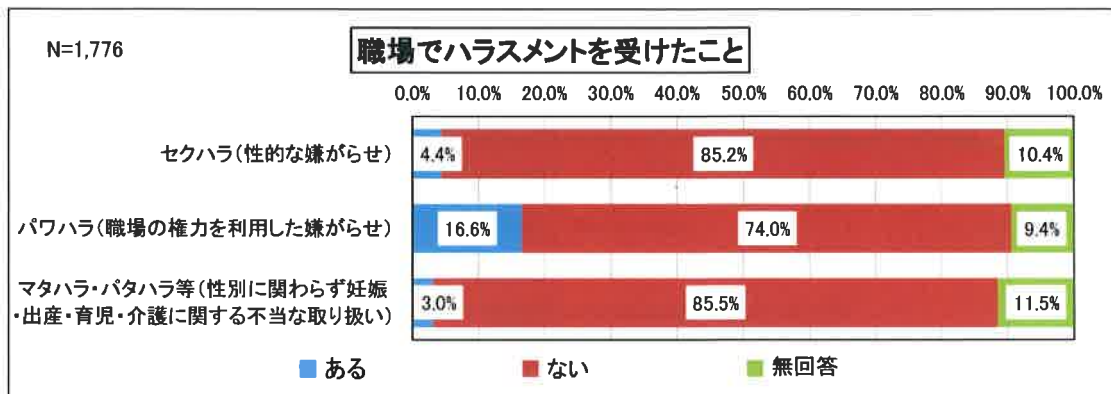
出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めた女性が再就職しやすくするために何が必要だと思うかの第1位は、「育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度の充実」で62.0%、第2位は「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で52.0%、第3位は「育児や介護のための施設やサービスの充実」で43.8%、第4位は「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力」で42.6%、第5位は「企業経営者や職場の理解」で33.6%となっています。



問 14 職場でハラスメントを受けたこと、見聞きしたことの有無

職場でハラスメントを受けたこと、見聞きしたことがあるかの有無について、「ある」と回答した方の割合で最も高いのは「パワハラ（職場の権力を利用した嫌がらせ）」となっています。「受けたこと」があるで16.6%、「見聞きしたこと」があるで35.9%となっています。

男女別にみると、「受けたこと」があるについて、全ての項目において男性よりも女性の方が「受けたことがある」という割合が高いが、「見聞きしたこと」があるについては、「パワハラ（職場の権力を利用した嫌がらせ）」の項目において、男性の割合が高くなっています。



受けたこと

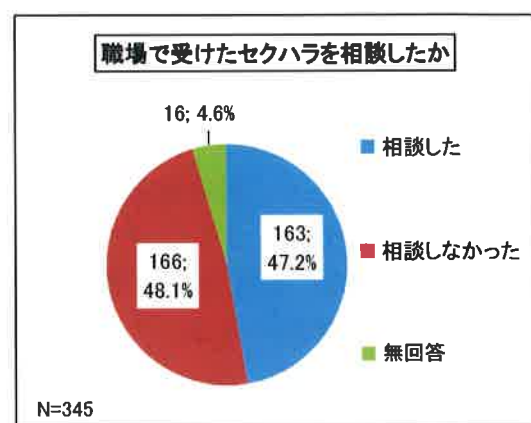
	男性		女性	
	ある	ない	ある	ない
セクハラ(性的な嫌がらせ)	0.9%	99.1%	8.2%	91.8%
パワハラ(職場の権力を利用した嫌がらせ)	17.3%	82.7%	18.4%	81.6%
マタハラ・パタハラ等 (性別に関わらず妊娠・出産・育児・介護に関する不当な取り扱い)	0.6%	99.4%	5.9%	94.1%

見聞きしたこと

	男性		女性	
	ある	ない	ある	ない
セクハラ(性的な嫌がらせ)	25.1%	74.9%	27.7%	72.3%
パワハラ(職場の権力を利用した嫌がらせ)	41.0%	59.0%	39.4%	60.6%
マタハラ・パタハラ等 (性別に関わらず妊娠・出産・育児・介護に関する不当な取り扱い)	11.5%	88.5%	20.7%	79.3%

問 15 職場で受けたセクハラを相談したか

職場で受けたセクハラを相談したかについて、「相談しなかった」が 48.1%、「相談した」が 47.2%となっています。



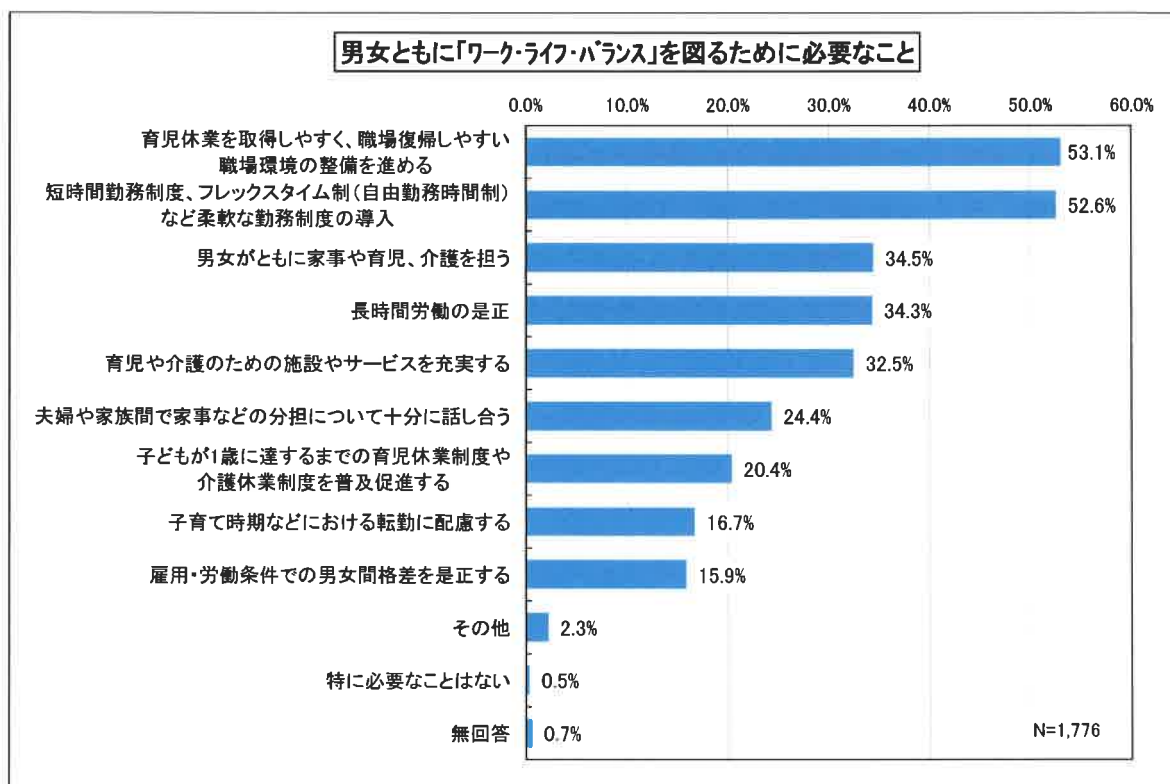
問 15 相談できなかった理由

相談できなかった主な理由としては、「どこに、誰に相談していいかわからなかった」、「相談しても無駄だと思った」、「自分で解決した」、「同じ課内や立場の問題がある」、「仕方ない、あたりまえ、あきらめた、気にしない」、「休暇を取った、仕事を辞めた、転職した」、「ハラスメントの判断ができない」などの意見がありました。

ワーク・ライフ・バランスについて

問 16 男女がともに「仕事と家庭の両立」を図るために

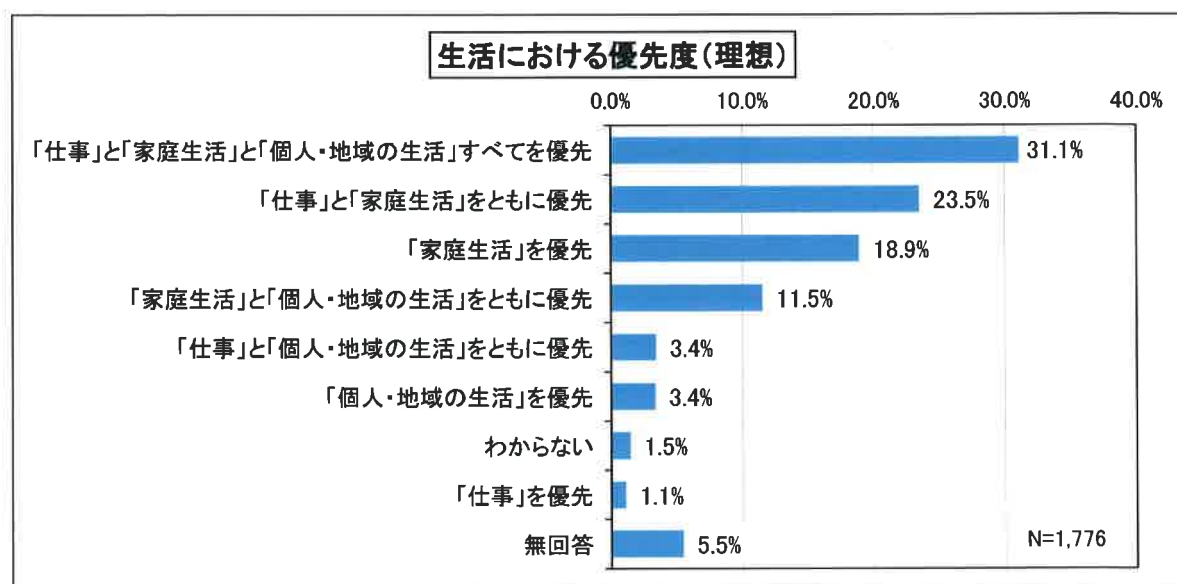
男女がともに「仕事と家庭の両立」を図るために必要なことの第 1 位は、「育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい職場環境の整備を進める」で 53.1%、第 2 位は「短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入」で 52.6%、第 3 位は「男女がともに家事や育児、介護を担う」で 34.5%、第 4 位は「長時間労働の是正」で 34.3%、第 5 位は「育児や介護のための施設やサービスを充実する」で 32.5%となっています。



問 17 生活の中での優先度

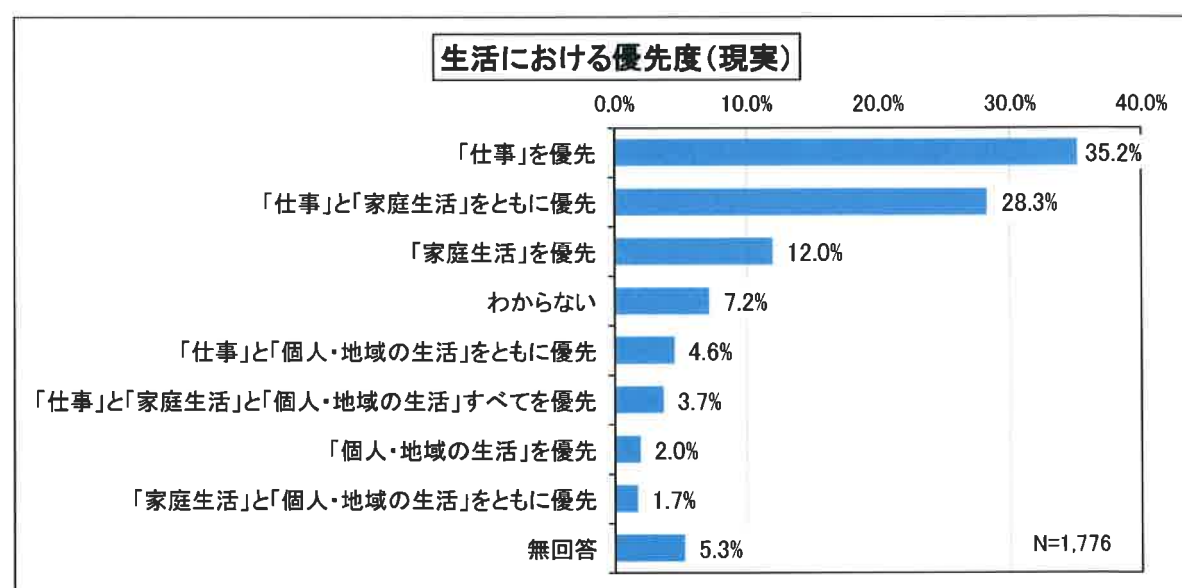
【理想】

生活における優先度の理想について、最も高いのは「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」すべてを優先」で 31.1%、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」で 23.5%、「家庭生活」を優先」で 18.9%となっています。



【現実】

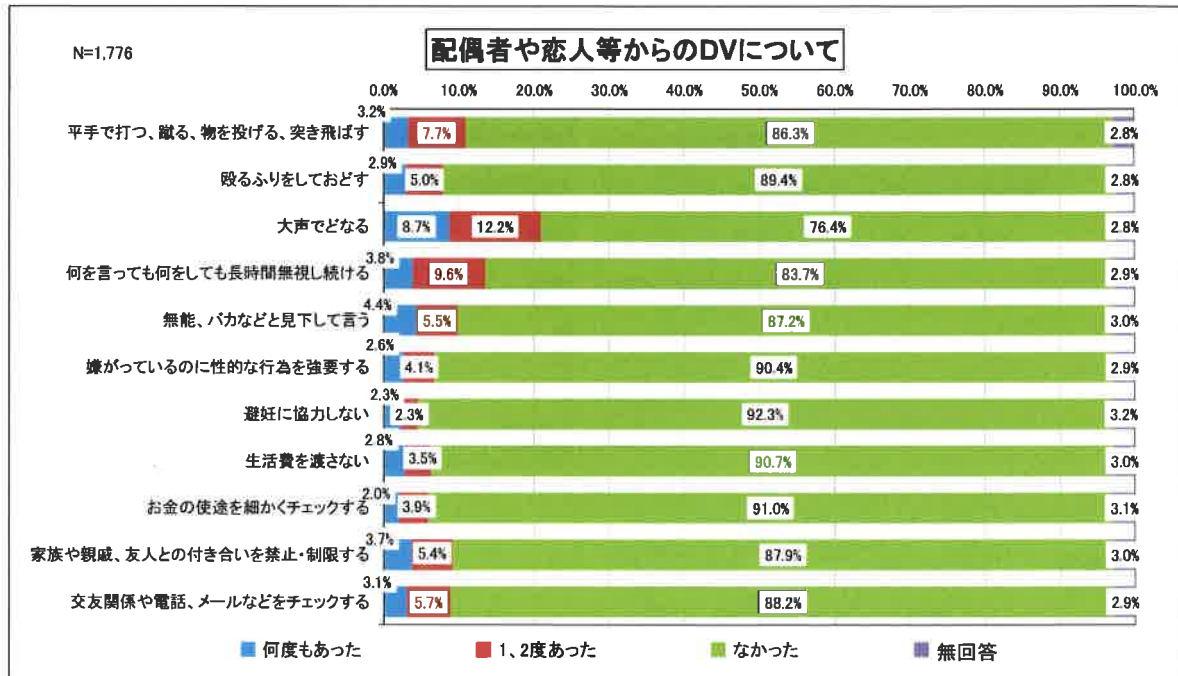
生活における現実の優先度で最も高いのは、「仕事」を優先」で 35.2%、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」で 28.3%、「家庭生活」を優先」で 12.0%となっています。「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」すべてを優先」したいという理想に対して、現実には仕事を優先している状況となっています。



DVについて

問 18DVの経験の有無

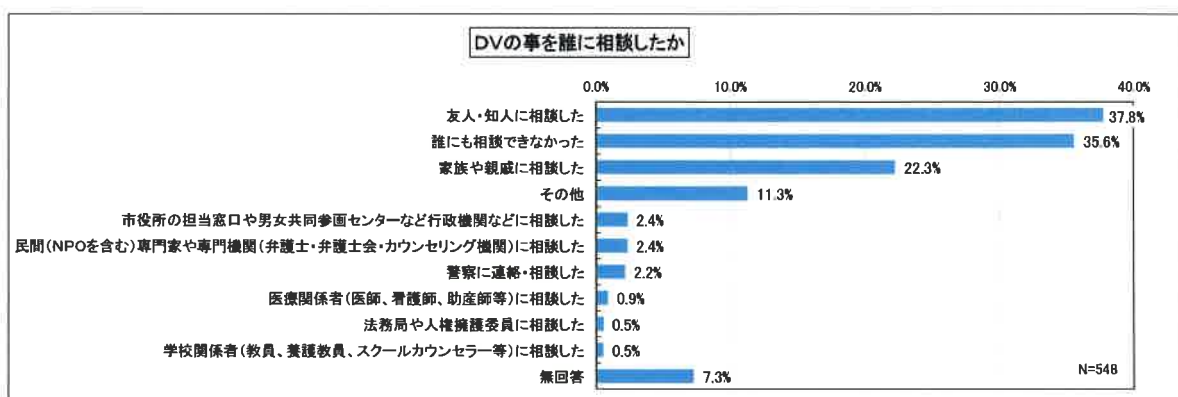
配偶者や恋人等からのDVについて、「何度もあった」と「1、2度あった」を加えた、DVを経験したことのある割合は、「大声でどなる」が20.9%、「何を言っても何をしても長時間無視し続ける」が13.4%、「平手で打つ、蹴る、物を投げる、突き飛ばす」が10.9%、「無能、バカなどに見下して言う」が9.9%、「家族や親戚、友人との付き合いを禁止・制限する」が9.1%となっています。



問 19DVの事を誰に相談したか

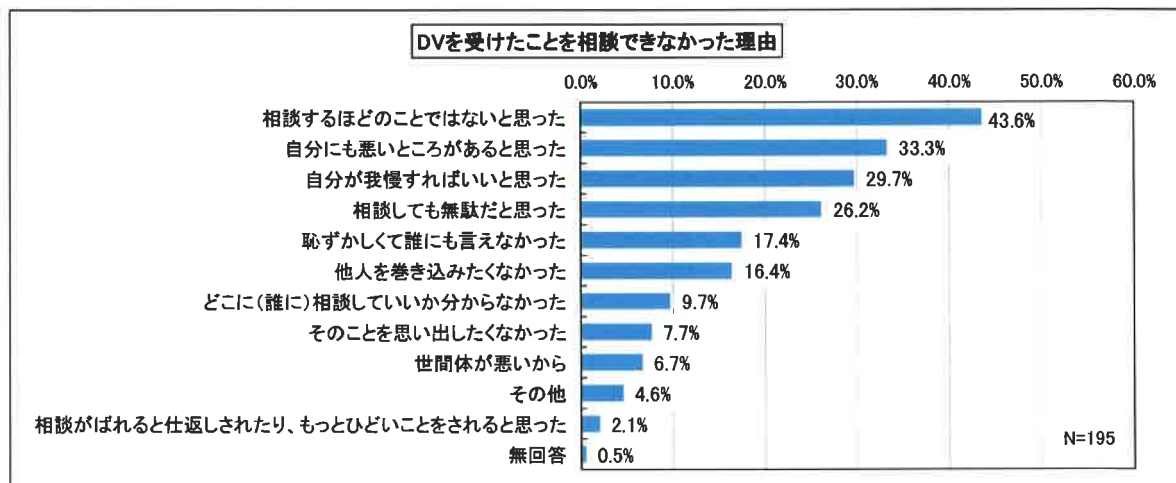
(「何度もあった」または「1、2度あった」が対象)

DVを経験したことがある回答者のうち、その事を誰かに相談したかに関して、回答の第1位は「友人・知人に相談した」で37.8%、第2位は「誰にも相談できなかった」で35.6%、第3位は「家族や親戚に相談した」で22.3%、第4位は「その他」で11.3%、第5位は「市役所の担当窓口や男女共同参画センターなど行政機関などに相談した」及び「民間(NPOを含む)専門家や専門機関(弁護士・弁護士会・カウンセリング機関)に相談した」が2.4%となっています。



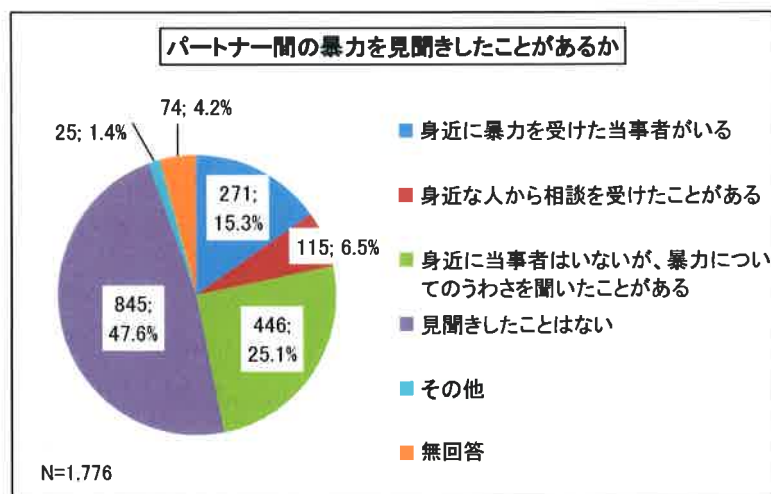
問 20 DVを誰にも相談できなかった理由

DVを誰にも相談できなかった理由の第1位は、「相談するほどのことではないと思った」で43.6%、第2位は「自分にも悪いところがあると思った」で33.3%、第3位は「自分が我慢すればいいと思った」で29.7%、第4位は「相談しても無駄だと思った」で26.2%、第5位は「恥ずかしくて誰にも言えなかった」で17.4%となっています。



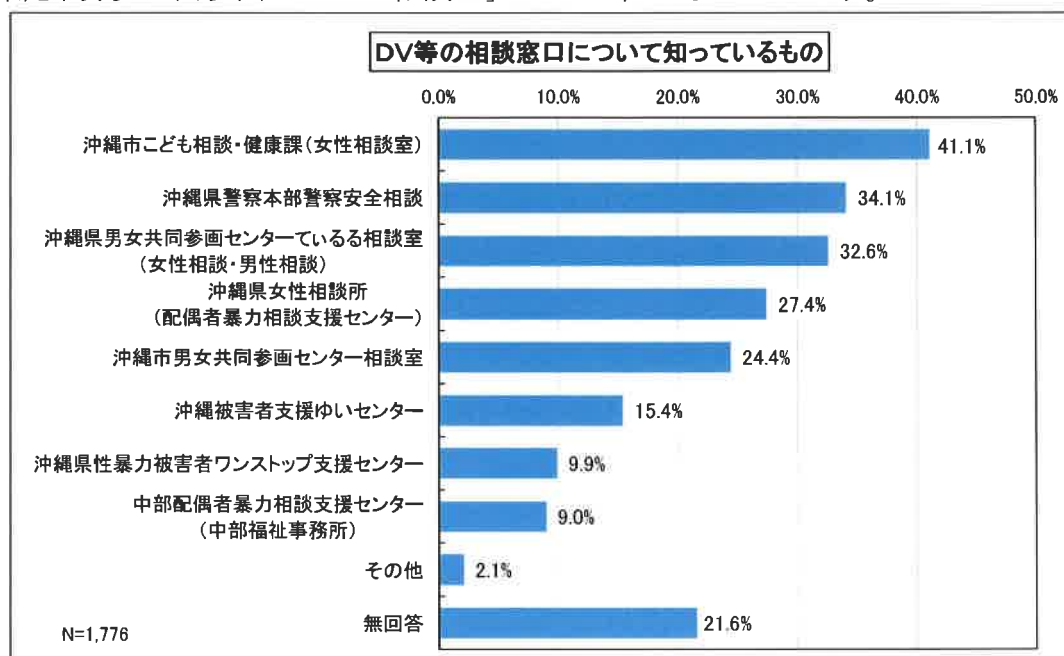
問 21 身近な暴力について

パートナー（配偶者・恋人）間の暴力について見聞きしたことがあるかについて、「見聞きしたことはない」という回答割合が最も多く47.6%、次いで「身近に当事者はいないが、暴力についてのうわさを聞いたことがある」が25.1%、「身近に暴力を受けた当事者がいる」が15.3%、「身近な人から相談を受けたことがある」が6.5%、「その他」が1.4%となっています。



問 22DVについての相談窓口

DV等の相談窓口について知っている窓口の第1位は、「沖縄市こども相談・健康課（女性相談）」で41.1%、第2位は「沖縄県警察本部警察安全相談」で34.1%、第3位は「沖縄県男女共同参画センター ているる相談室（女性相談・男性相談）」で32.6%、第4位は「沖縄県女性相談所（配偶者暴力相談支援センター）」で27.4%、第5位は「沖縄市男女共同参画センター相談室」で24.4%となっています。



男女共同参画に関すること

問 23 男女共同参画や男女平等の意識について

日常の業務において、「男女共同参画」や「男女平等」を意識しているかについて、「意識していない」という回答割合が最も多く 52.8%、次いで「わからない」が 26.6%、「意識している」が 18.5%、「その他」が 0.8%となっています。

平成 24 年意識調査結果と比較すると、「意識している」が男女ともに減少し、「意識していない」という割合は増加しています。

男女共同参画や男女平等の意識について

		意識している	意識していない	わからない	その他	無回答
平成29年	男性(N=797)	24.1%	47.6%	26.6%	1.0%	0.8%
	女性(N=920)	13.6%	58.2%	27.0%	0.7%	0.7%
	全体(N=1,776)	18.5%	52.8%	26.6%	0.8%	1.4%
平成24年	男性(N=672)	24.6%	43.5%	29.0%	1.2%	1.8%
	女性(N=650)	16.8%	55.4%	26.0%	0.8%	1.1%
	全体(N=1,328)	20.6%	49.2%	27.4%	1.0%	1.8%

問 24 男女共同参画に関する研修や講演会への参加の有無について

「男女共同参画」に関する研修や講演会等に参加したことがあるかについて、「受けたことはない」という割合が最も多くなっています。反対に研修等を受けた経験者の（1回以上受けている）割合は、男性で 24.0%、女性で 17.5%と男性が上回っています。

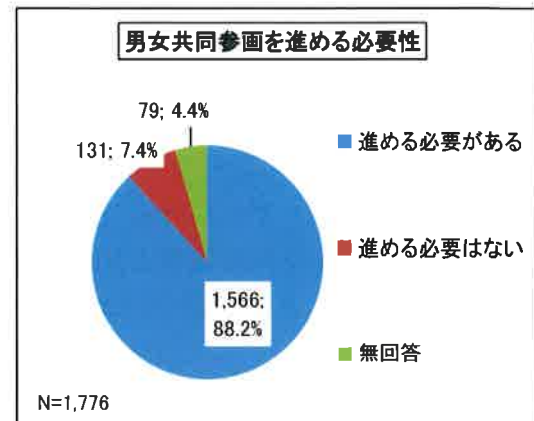
平成 24 年意識調査結果と比較すると、研修等を受けた経験者の（1回以上受けている）割合は、男女ともに増加しています。

男女共同参画に関する研修や講演会への参加の有無

		a 1回	b 2回	c 3回以上	d 受けたことはない	e 無回答	参加あり (a+b+c)
平成29年	男性(N=797)	16.4%	4.5%	3.0%	75.4%	0.6%	24.0%
	女性(N=920)	10.0%	3.2%	4.3%	81.8%	0.7%	17.5%
	全体(N=1,776)	12.7%	3.8%	3.9%	78.4%	1.2%	20.4%
平成24年	男性(N=672)	12.5%	3.7%	2.5%	79.5%	1.8%	18.8%
	女性(N=650)	7.7%	4.0%	3.4%	83.7%	1.2%	15.1%
	全体(N=1,328)	10.1%	3.8%	2.9%	81.3%	1.9%	16.9%

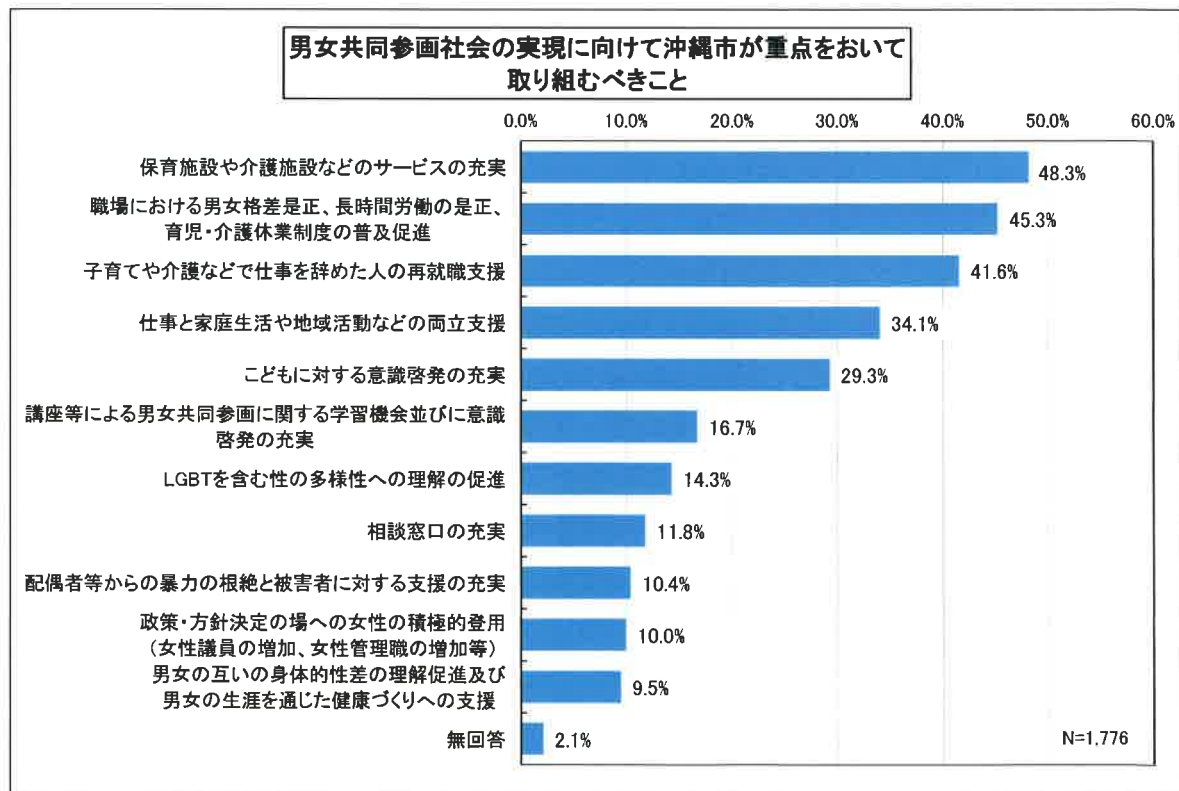
問 25 男女共同参画を進める必要性について

男女共同参画を進める必要性について、「進める必要がある」が88.2%、「進める必要はない」が7.4%となっています。



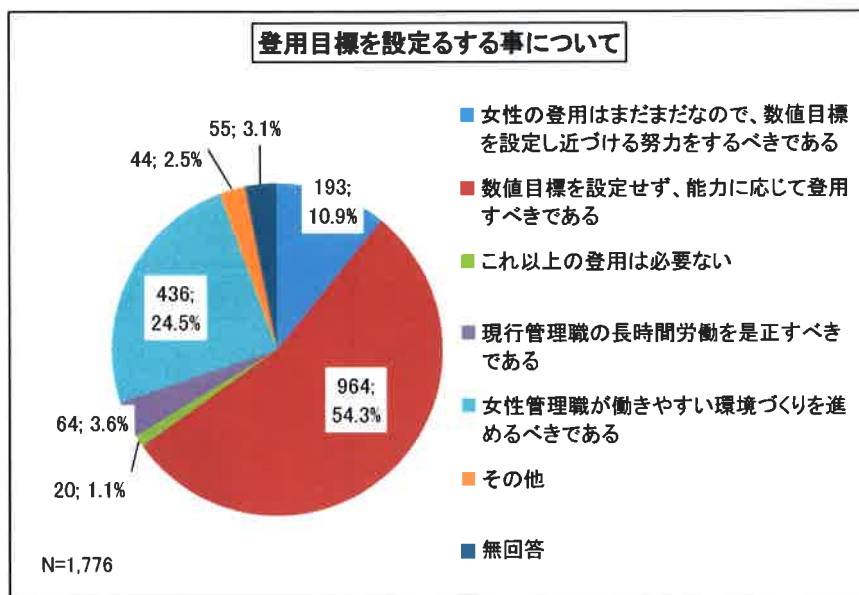
問 26 男女共同参画社会の実現に向け重点的に取り組むべきこと

男女共同参画社会の実現に向け沖縄市が重点をおいて取り組むべきと思うことの第1位は、「保育施設や介護施設などのサービスの充実」で48.3%、第2位は「職場における男女格差是正、長時間労働の是正、育児・介護休業制度の普及促進」で45.3%、第3位は「子育てや介護などで仕事を辞めた人の再就職支援」で41.6%、第4位は「仕事と家庭生活や地域活動などの両立支援」で34.1%、第5位は「こどもに対する意識啓発の充実」で29.3%となっています。



問 27 登用目標を設定する事について

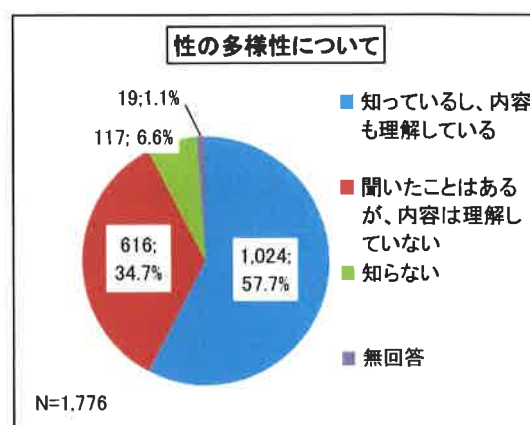
沖縄市の女性の管理職以上の登用目標を 30% の設定をする事については、「数値目標を設定せず、能力に応じて登用すべきである」という回答割合が最も多く 54.3%、次いで「女性管理職が働きやすい環境づくりを進めるべきである」が 24.5%、「女性の登用はまだまだなので、数値目標を設定し近づける努力をするべきである」が 10.9%、「現行管理職の長時間労働を是正すべきである」が 3.6%、「その他」が 2.5%、「これ以上の登用は必要ない」が 2.1%となっています。



L G B T を含む性の多様性への理解について

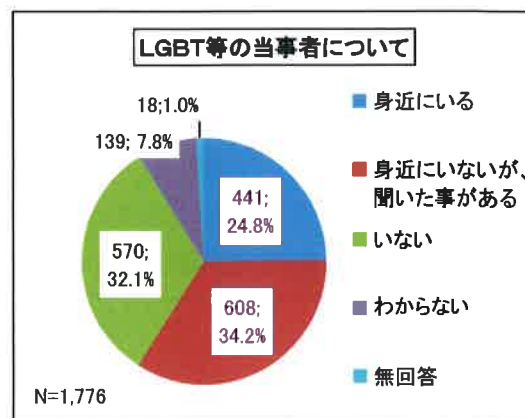
問 28 性の多様性への理解について

L G B T を含む性の多様性について知っていたかについて、「知っているし、内容も理解している」という割合が最も高く 57.7%、次いで「聞いたことはあるが、内容は理解していない」が 34.7%、「知らない」が 6.6%となっています。



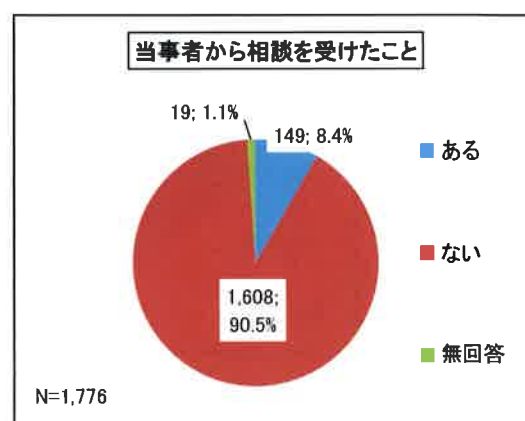
問 29 L G B T等の当事者について

L G B T等の当事者の方が身近にいるかについて、「身近にいないが、聞いた事がある」という割合が最も高く 34.2%、次いで「いない」が 32.1%、「身近にいる」が 24.8%、「わからない」が 7.8%となっています。



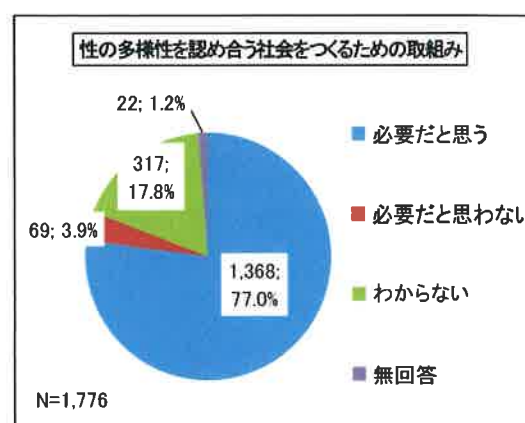
問 30 当事者から相談を受けたこと

L G B T等の当事者の方から相談を受けたことがあるかについて、「ない」が 90.5%、「ある」が 8.4%となっています。



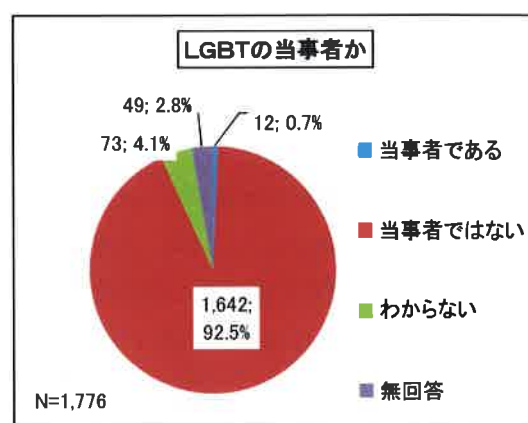
問 31 性の多様性を認め合う社会をつくるための取組みの必要性

L G B T等の当事者への偏見や差別をなくし、性の多様性を認め合う社会をつくるための取組みが必要だと思うかについて、「必要だと思う」という割合が最も高く 77.0%、次いで「わからない」が 17.8%、「必要だと思わない」が 3.9%となっています。



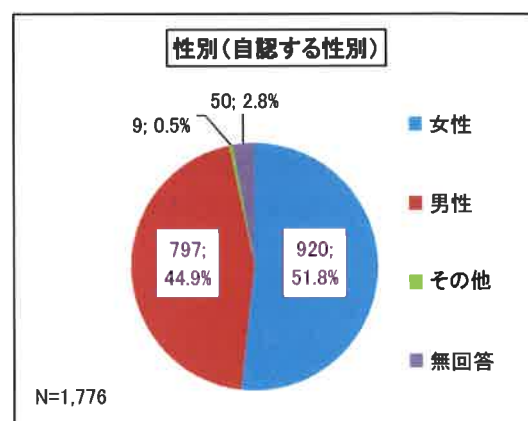
問 32 L G B T等の当事者ですか

あなたはL G B T等の当事者ですかについて、「当事者ではない」という割合が最も高く 92.5%、次いで「わからない」が 4.1%、「当事者である」が 0.7%となっています。



問 33 性別（自認する性別）

性別（自認する性別）について、「女性」という割合が最も高く 51.8%、次いで「男性」が 44.9%、「その他」が 0.5%となっています。



自由意見

- ・男女の「平等」化が良いかどうか分からない。身体の違いによる人生の生き方、時間に差が出てしまうと思うので同じ条件を整備することではなく、様々な条件に対応する柔軟さがほしい。
- ・どうして女性も働き続けなければならないのか、を考えると生活の為に収入が必要だから、どなるのでしょうか…多くの女性が出産、子育てを経るとき、子どもが小さいうちだけでもずっと一緒に過ごすことが出来たらいいのに…と思います。働いて、子育ての大切な時間を削ることがなければとても良いのに、と思います。
- ・「男女共同参画」の男女という部分に性のしぼりを感じる。LGBTの方たちはどう思ってるのだろう？知りたい名前を変えた方が良い。

性の多様性について広く理解してもらうにあたって「男女共同参画」の「男女」は不要では？

家庭や子どもが母親を必要としているので、仕事で残業が続くと夕食を外食したり子どもを寝かせる時間がおくれ、何のために仕事をしているのか。お金のため？社会のため？。家庭の安定がないと人にもやさしくなれず自分を責めてしまいます。残業がなくなれば助かります。家に帰って夕食を食べるだけの父親と平等に働けと求められても困ります。残業している人は、祖父母や配偶者の助けありきで生活しているはず。身近に頼る人がいない人は、家庭と仕事どちらも中途半端で悩んでいます。女

性管理職は、独身や家庭があっても身内はかなり助けられている人が多いです!!こんな社会どうかしてほしいです!!仕事はします!!勤務時間内でお願いしたいです!!

LGBTを含む性の多様性の相談や、嘱託職員もいるので、他市町村に先駆けて色々な取り組みをした方がいいと思います。

職場における男女共同参画については、労働問題と密接な関係があると思います。近代、特に太平洋戦争以降に日本社会に定着し、近年に至って問題として取りあげられることの多くなった終身雇用、メンバーシップ型の労働環境のなかで、男性が稼ぎ手、女性が家庭運営という役割分担の概念も、当たり前のものと考えられるようになっていきます。正規／非正規の問題も、同じ土台の上にあると思います。「生活の糧」をいかにして手に入れるか、という切実な課題から遊離した「男女共同参画」は、かけ声だけに終わるでしょう。決して、形而上のことに留まらない議論を深めて施策に反映いただけるようお願いいたします。

問1、問2により個人特定されますよね…「どちらともいえない」という解答欄がほしかった

基本まだまだ男性優位の社会。特に男をこどもの頃から教育していく必要があると思う。

男女、弱者に対して、均等に機会を与える「平等」と、性差・能力に応じて機会を与える「平等」の両方を、大人だけでなく、子どもたちにも教育・理解させる必要があると思う。一律に、全員を同じ扱い、あるいは、一方的に救済するのは本当の「平等」ではないと思う。LGBTの理解教育はとても大切で、そのことを中傷するのは絶対にダメだと思う。が、そのことに対してすいません、長くなるので、別の機会で述べます。

「男性または女性とはこうあるべき」という個人の考えを他者に押し付ける人がいなくなればいいけど…。

男性のための対策はありますか？

今の世の中女性の方が強い 負担も少ない(仕事)

DVの問題について、子育てについて、LGBTについて、孤独を感じたり生きづまりを感じる人が多くいると感じています。もっともっと開けた社会や相談しやすい環境づくりが必要ではないかと思っています。

男女平等をうたうなら(問33)も女性、男性が番号1番になっているとか2番になっているかという問題が出てきます。そういったことを社会は大きく取り上げて過ぎている感があります。もっと大事なことを話し合える社会になってほしい。

自分に素直に生きていける世の中になればいいと思います。(LGBT、発達障がい等 その人の個性と認められる等)

- ・男女関係なく、子育て、教育等に重点的意識していくことが大事。共働きの中で、子の将来性を大事に考えると、家庭の重要性、そして、仕事を時間内に終わるように努力ができると思う。
- ・現在の社会が、多種多様になっていることを、皆で、理解していかなければならないと思う。特に65才以上の男性達に伝えたい!!

性別だけでなく、年齢や、障がいの有無など、一人一人の特性に応じた対応ができる社会になったら良い。特に、小学生のうちから教育しておくことで、偏見がなくなっていくと思う。

今回のアンケートを資料として、職員全体に男女共同参画に関してこれまで以上に理解をしてもらい研修等を多く開催して欲しい。

性別に関わることなく、他者を排除することなく、対等な立場で受け入れられるような社会の実現。大変な取り組みだと思いますが、その実現に向けてがんばって欲しい。

問18が、パートナーが居る事を前提とした質問となっているが、そもそもパートナーが居ない人への適切な回答が用意されていないので、前問として『パートナーの有無』を設問したほうが良いのでは？

TV でとりあげられたり、各自治体でとりくみがあったりして、だいぶ知られるようになってきていますが、まだ無関心、知らない人も多いと思うので、子どものうちから学んでいくことが必要だと思います！

男女共同参画と男女平等とは、別のはなしでしょうか？

女性側が何かと不利な状況が多いと感じていますが、幼少期からの刷り込み(男は…女は…)による子育ての流れが延々と続いており、意識改革には長い時間がかかると思います。そもそも”共同参画”という言葉すら不用な時代が来ると良いですね！

男女平等については「できる人ができることをやったらいい」と思っていますし、人それぞれ向き不向きもあります。マタハラやパワハラ等も、いつか自分もお世話になるかも、と思って接しています。でも、私みたいに思っていない人が多数いることも知っています。時々疲れます。「男女共同参画」というと難しく感じますが、皆が周りに優しく接することのできる社会づくりに向けて、がんばって下さい。

質問が少し恠意的に感じました。女性などの立場で受けたり感じたりしたことをたずねることと、介護などの問題は同列に論ずべきではないのでは？私がこれらの事をあまり理解してなくて、そう感じるのかな？男の方から見た場合、質問に答えにくい内容が多い様に感じました。

結婚しない女性・男性の前で恋愛の話はタブーなのかアドバイスなのか？わからなくなる。

男女共同参画に関する言葉で知らなかった、分からなかった言葉が多かったのであらためて、理解していけたらと思いました。

このアンケート結果が、今後役に立つことを祈っています。がんばって下さい

素敵な取り組みだと思うので私も協力していきたい。

女性の管理職の目標を50%にしてほしい。管理職は一般職、技術職の区別を無くしてほしい。女性は管理職に50代で管理職になれば手当を付して給与水準を引きあげてほしい。

LGBT の中でも、T(トランスジェンダー)の問題は深刻です。一昨年、指導課の由先生が企画した「砂川雅」さんによる、当事者の講演会がすばらしかったので、多くの人に内容を知ってもらいたい。子そだてや、家事も女性が行う風潮が強くなるので、まずは、女性の時短が必要だと思います。

将来的に、男性だから、女性だから、LGBT だからと意識することなく、1人の個人として付き合い、改めて男女共同参画と目標にしなくても普通に当たり前の事になれば良いと思います。

女性だから、男性だからではなく個人を尊重したほうがよい。能力がある人は性別は関係ないと思う。育児や子育てに関することでは、母の役割は大きい。母が仕事をしてもカバーできる環境を整えたいと思う。

職場での男女平等は大切だと感じはしますがまだまだ男は仕事、女は家庭という考えがあり、やっぱり女性は育児が優先であるし、育児に力をそそぎたいと思っています。育児しやすい仕事環境を整えつつ男性の子育て・家族参加を子どものうちから意識づけることも大切だと感じます。次世代の子どもたちの為によりよくねがいします。

教職員向け講座の「性の多様性に関する講座」や小学校での出前講座の「人権啓発講座」は必要だと思います。男女混合名簿については特に必要ないのではと思います。「男らしく、女らしく」も悪いことではないと考えます。

LGBT である事で、社会から孤立する事はとても悲しい事だと思います。身近に LGBT の方がいるのなら、友人と同じように接したいです。LGBT の方が普通に社会となじめるようになると良いと思いますが、LGBT の理解促進はとても大事だと思います。
LGBT、性の多様性への理解は”時代の流れ”の中でそれだけいろんな生き方や価値観があるということだと思います。しかしながら個人としては理解するには難しいです。
初めてきました。ひとまとめになっているが幅が広いので周知されてない部分が多いと思いました。
男の料理講座→「初心者向け、家庭料理講座」にしてはどうでしょうか？（女性も料理苦手な人はいるしまざって習った方がよいかも。）
質の良い介護施設が少なく、介護負担が大きくなり、介護と育児、仕事の両立が難しい。介護休暇を取りやすくしてほしい。
典型的な家庭（子育て世帯）、LGBT など対象をひろげていますが、独身者・おひとり様にも広げてほしい。また、企業・職場の理解は必要不可欠なので、この点に力を入れてほしい。政治の面でも、もっと当事者（女性・LGBT など）で進出して、制度を変えたほうが手取りばやい。
カミングアウトできない性同一性障がい者がまだたくさんいるので LGBT や GID 等の企画が増えていけると良いと思います。また、小児の LGBT（→中部病院に小児のジェンダーセンターが出来ています）等についての知識がまだなので研修があると良いと思います。
LGBT の深い内容性を、講演会など開いて広めて欲しい。
誰もが生きやすい社会を作るのは難しいことですが、気付いたところから少しずつ意識を変えていく必要性は感じています。行政がどこまで踏み込めるのか、また対策を打っていけるのかはラインが難しいですが、放置せずに、0を1にしていく地道な取り組みが必要だと思っています
社会的に男女は平等であるべき。（父親と母親）男性と女性は違う。考え方も違う。女性は管理職になりたくないと思っている人が多いだけでは？男性が優位と思ったことはないが、役割は違うと思う。
男も育休取得したい人は沢山いると思います。
男性、女性、共に思いやりを持って社会を作っていけたらいいですね！
男・女ではなく、どういう人間なのかということだけを考えれば良いと思う。自分の中の常識を相手に押しつけるような人間がいなくなる限り、差別・優遇はなくなる。
男女共同参画と LGBT が同じカテゴリーで組み入れられている事を知らなかった。
LGBT の方とのお付き合いはありますので、偏見等はありません。個性として接しています。今の時代、個性を伸ばす時代ですので、昔より理解度も高いと思います。堂々として頂きたい。
男女共同参画というのが、あまり知られていないと思うので、もっとたくさんの方が知るきっかけがあればいいと思います。男女共同参画→このネーミングがかたすぎて、よけいに分かりづらいと思うので、男女共同参画＝〇〇〇みたいに、かんたんで分かりやすい名前だと、理解しやすいです☆
男女共同参画がどの様なものか少しだけですが、知ることができました。
LGBT について、「平等に参画」というのが、意識するなというのが難しいと思う。差別という意味ではありませんが、隔たりができる。隔たりを無くそうとするのは理想だと思うが、周りが気を遣いそう。
過剰に意識するのではなく、その意識がなくなるくらい、男女が平等になればいいと思います。LGBT についてはよくわかりませんが、その取り組みは必要だと考えます！

男女の社会的格差について、それぞれの身体的・生理的な相違がある故、それぞれ優遇されている点があり、そのバランスを崩してまで実現しても決して現状より良くはならない。これまでの文化・伝統があり、それを留意した上で推進する必要があると考えます。

求職中だと、保育園(認可園)にまったく入れない。もう少し保育施設を増やす等、対策が必要だと思います。働きたいのに保育園が見つからない、保育園が見つからないから働けないという状況が続いてしまい、結局いつまでたっても仕事ができない。

問31 LGBTを認める取組みは必要ないと思います。

ワークライフバランス 働き方の多様性、出勤時間(自由度を上げる) 短時間で給料を下げない 男性の長時間労働は家庭環境の悪化、妻の育児負担になり、女性の社会進出のさまたげになる。職員の夫は平日も10時過ぎの帰宅、土日も出勤。業務の効率化 単純化してほしい。出勤時間減らして職員を増やしてほしい

現在の20～30代は教育自体が男女平等の教育を受けているので、若い人達に男女共同参画は必要としていないと思う!!しかし、50代の管理職には男女共同参画をもっと知って、男性に対しても家庭を守る時間をあたえることが、女性を活性化させることを理解してほしい!!男性も子育てや地域活動などをして人生を楽しみ仕事人間だけになりたくないと考え!!時代は進んでいるので上司が時代の考えを受け止める器が必要だと思う。

もっと働きやすい職場を作るために企業に推進するのも大切だが沖縄市役所などの公的な職場が改善しなければ推進できない。年休が取れないのが当たり前。昔は残業代も出なかった等言っていたら改善できないと思う。休みや時間外勤務の代金が取れる社会にしないといけないと思う。

能力に応じて登用すべきだと強く思います。

LGBTの人達を私は差別しない(理解できないけど)。でも、そういう人達が産まれてこないようにする対策が必要だと思う。妊娠中のストレスによりアンドロゲンシャワーの量が足りなくなったらLGBTになるといわれているので妊娠中の女性がストレスにされされないようにすることが大事になってくるんじゃないかと確信してますねー。男女共同参画はいらないです。男は男!女は女!

その場しのぎで何の解決にもならない。なぜこのような社会になったのか一人一人が本気になって考えればすぐに良くなる。特に日本がどのような社会構図になっているのか真剣に考えるべき。

私は、まだ勉強不足で男女共同参画に関して理解が足りないのですが とても大事なことであり知っておく必要があると感じるので是非機会があれば講演などに参加したり、男女共同参画に関して知れる機会があつてらイベントなどに参加したいと考えております。

女性が働きやすい社会を作してほしい。保育所への入所がスムーズだと働きたい女性はたくさんいる。保育所に入れないので仕事復帰に不安になっている。保育所に入れないので仕事復帰に不安になっている。保育所に入れないので第2子、3子と産める状況にない。

性別問わず子供の頃から家事・育児に必要な知識を積み重ねていくことで、親になった際の子育て環境の向上に繋がるとよいと思います。良い社会を作るためにも。

皆がある程度平等で過ごせる社会作りに協力していきたい。

これまで散々「男」「女」と分け、男は〇〇じゃないといけなく、という考えを学校教育や大人が言ってきたので、これを改善するには相当の時間と努力が必要だと思う。

男女平等はとても大切なことだと思いますが、何かにつけて〇〇ハラスメント等の病名化的な傾向が昨今見られますし、男性専用相談窓口が非常に少ないと思います。現在でも男性による問題が多いですが徐々に悪質な女性も増えていると思います。このアンケートが公平に役に立つ(本当に困っている人に)事を願います。
LGBTなどの性的少数者の理解を求めるにあたり「男女共同」はあわないと思う。「多様性」であるなら率先垂範でセンターのネーミングを考え直したほうがいい。「男女しか相談できない雰囲気になっているので。(応援の意味で)「男の料理講座」とか？
定期的に言葉の解説は必要だと思います。
一人一人を見抜く力が必要だと思います。
問27に対し女性の管理職以上の登用目標を決めるのはどうかと感じる。
男女が平等に生き不満を減らす環境は大事。
LGBTという言葉は初めて聞きました。こういったデリケートな部分は周りが何か言うのではなく本人たちに好きにさせて放っておいた方が良いと思う。
職種によって男女の差別ができてしまうのはあたりまえのことだと思います。無理に全ての職種で両立させることはどちらの負担も強くするのかと思う。その職種を希望するのであれば協力する制度があれば十分だと思う。
男女平等が進み女性が社会進出しやすい社会になってきたと思います。しかしその一方で女性が職に就くことと比例して保育園の待機児童が年々増しているのも現状です。女性も活躍できる社会になるということは就学前の子供たちの居場所を確保していくことが不可欠だと思います。
他の自治体のレベルに合わせるのではなく沖縄市は男女共同参画に関しての仕組み作り、市民の意識改革の先進地にしてほしい。
フルタイムで働いても12〜3万しかもらえない社会では貧困から抜け出せないし、その結果子供へのニグレットや家庭内暴力、精神的不安定な状況が生じると思う。収入を増やし経済的に安定しなければ人権問題は解決しないと思う。
様々な人が接する交流会や研修会を多く持ち人が人を見て(外見で判断するのではなく本質を見るといこと)共に生きる社会になっていけたらいいなと思う。
男女共同参画の」考え方は良いと思うが積極的に声をあげるのが女性の方が多いように感じる。女性からだけの意見だと勘違いする男性が増えかねないのが課題になってくると思う。女性がまた差別されていると考えているのが女性だけだと思われるのもったいないと思う。もっと男性から男女共同参画を推進していくようにできると良いと思う。
調停で裁判を現に行っていますが、ほぼ男性であり女性の自分がどこまで頑張っても、しっかりと聞いてくれないという感じをととても痛感していて、やりきれない気持ちの中で諦め感も持ちつつやっているのが現状です。もっとしっかりと女性としての気持ちを聞いてほしい。
男女の性別より能力のある人を大切にする社会であって欲しいと思う。女性ならではの職場がもっと増えてほしい。細やかさが求められたり、短時間の勤務時間だったりする。
まーちゃんさんのTVを見てとても心をうたれました。私も世界から男女差別(それによるいじめ)がなくなることを願っています。まーちゃんさんの言葉は、みんなに勇気を与えられる言葉だと思います！

LGBT について【我が子が LGBT ⇨ 我が子が離婚】⇒社会的理解 となるような社会へ！ 親としては一番の理解者でありたいが、正直 LGBTの方がシロクロが大きいと思う。そこを気にする LGBT 当事者はもとより親へのサポートも大切、親へ心配をかけさせたくないという当事者へのサポートにも繋がると思う。

判断できない質問があった。問28その他

私が小学校の頃は LGBT や性の多様性などは分からなかった。小学生の頃にバラエティー番組で知り始めたと思うがテレビの中での事だった。大人になって知識として持ちいろんな人があるんだと理解しているつもりだが実際に街中で見かけると二度見してしまったりするので自分自身が受け入れられているか疑問に思う。ただ、子供の頃から知識を持ち交流することで、いろんな人がいて当たり前と自然に思える社会になると思うので小学校などでの講座を頑張ってほしいと思う。

仕事の内容がよくわからない。

「男女平等」よりも「レディーファースト」であってほしい。弱者への思いやり。男は女になれないし、女も男になれない…。認め合うこと。仕事も「男女平等」と言っているうちはずっと変わらないかと…男女ではなく一人一人の人間として評価できる社会であればと思います。女性管理職 30%なんて、優遇してますよ！アピールとしか思えないかな。女性がちょっと下に見られてる感じ、それこそ男女差別だと思う。LGBT について…あまり活動してほしくない。子供たちが同性に対して恋愛感情と単なる憧れを勘違いしてしまわないか不安。今までのように本当に LGBT なのか考えることなく簡単に手術とかしてしまって後悔することがないか心配。

沖縄市では女性の管理職登用を増やそうと積極的に取り組んでいると感じます。その結果、本人の能力以上の役職に就いている女性の課長補佐・係長相当職が多数いるのではないのでしょうか。

女性管理職以外の登用は、能力があればもちろん東洋すべきだが、目標値達成のために能力や個人の生活状況を考慮せず登用してしまうと周りも苦勞するので人事部門と調整しながら進めてほしい。

問 27 のように無理して登用する必要はないと思う。男も女も能力に応じて登用すべき。逆に不平等とかになってしまう気がする。

問26⇒本市の取組内容について抽象的な選択肢が多いように感じる。問27⇒「登用目標」の設置について問ているのに対して選択肢 4 と 5 は不適用に感じる。※制度の導入も重要であるが、環境作りを進めることでしか企業への浸透は難しいと思う。

男の人が考える平等と女の人が考える平等は違うかもしれない。男の人に都合の良い平等になっていないかな？

どうしても男女には能力の違いが出ると思うので、必ずしも平等である必要はないが、意欲によって性の垣根を越えた挑戦は認めるべきだと感じる。

男女平等は広まりつつあるが LGBD は、まだまだ偏見が正直あると思う。共同参画課には、ラジオのパーソナリティの方もいて、大変おもしろい方だと思うので是非そういった部分を活用し、海外と同じくらい平等で意見を出せる沖縄市にしてほしい。自分も福祉関係に係って初めて平等の意味を知りました。頑張って下さい。

育児など理解をしていますが、実際に経験してみないと身にしみない(理解しているふり)

男女どちらも働きやすい環境づくりの為に、保育施設や介護施設などのサービスの充実を重点的に取り組んでいただきたいです。家庭環境が円満に整うことで安心して労働にも力を注げると思います。貧困や離婚率低下など社会全体の問題の改善にも繋がると思う。また、職場の環境も育児や産休などの職場全体で本人も周りの人達も気持ちよく取得できる環境にしていきたいと思います。

人はカテゴライズ(レッテル貼り)して安心したい・・・そんな生き物ですね。もっとみんなが「個」の確立ができていれば、「男」「女」「LGBT」・・・を越えた「その人個人」として尊重される、対等である。(言い方とてむずかしいのですが)世の中になれば良いと思います。又いろいろと教えて下さい。

アンケート調査お疲れ様です。

世間には色々な人々がいること理解し考えることが必要なのかな～？

今後も様々な活動を期待しています。・家庭の中心である女性(お母さん)に余裕を!!(余裕があれば笑顔になれる→子供達に良い影響→家庭円満)・貧困の連鎖を少しでも減らしたい。・支援の必要な子(障害児)を育てているお母さんたちの居場所提供？

男性側の意識を改革してほしい。社会や会社でいくら男女平等になっても家庭では育児や家事は今でも女性が主である。その中仕事だけ平等に機会を与えられても同じようには仕事はできない。

社会や関係法令、意識などを変えることはとても大変なことです、とても大切なことなので、ねばり強く、継続しつつデータを集め、1つずつ前進できるよう、みんなと一緒にガンバリましょう！

公務員のサービス残業にうんざり。家族との時間もとれなく負のスパイラル

平等ってなんですか？共同参画はわかるような気がします、男女平等は人それぞれのような気がします。アンケートの際は「平等」の定義が必要かも・・・ 例えば、夜の危険な作業や、重い荷物を運ぶ→男性の仕事 ①女性への配慮？②男性への差別？③女性への優遇？→個人としては①で平等だと思いますが・・・

特に深く考えた事はないが、女性だけが被害者でもないの女性だけの事を良くしようとするのはおかしい。

あまりよくわからない

社会に参加できる共同体であるべき ・思いある人間性・又・家族愛・助け合いのグループ必要だと思う。動物に愛情を傾ける方もその事は賛成だと思います。

今だに、男女共同参画に関するアンケートを取らないといけない社会なのかと思い残念に思う。男女平等が早く一般的あたりまえの社会になって欲しい。社会が変われば家庭も変わるのかな？

市役所にセクハラ・パワハラの相談窓口はありますか。例えば各課に相談担当者いますか？もしないとすれば今後検討する予定はありますか。

各者に対して有利不利の決め事を増やすより、大きな意味(哲学的)での平等・人権・コミュニケーション支援といった文化的意識向上の教育や職場や地域でそのことについての対話を定期的に行なうことが必要だと思う。※講座の進行等はえらい先生ではない方がよい

性別や男女など様々な課題はあると思うが、人と人が社会をつくりあげるの差別や優遇などで目標を設定するのではなく、コミュニケーションをもっと深める事が最優先だと思う

性別で差別は良くない事だが区別と差別の線引きは人それぞれなので、何をもって男女平等なのかよく分かってない。

現在、子供を望まない方々もいるので単に育児手当の金銭面をアップするのは反対です。税金を投入して〇〇手当を増やすのではなく、性別に関わらず「個」の生活が充実できるような勤務体制を作ることが本市の職員兼市民として望む事です。又、女性の課長級以上の役職登用も能力に応じて進め、本市が県内No.1の登用率になってほしいです！

小学校への出前講座を増やして欲しい。保育園児から教えてもいいと思う。子供達に伝えることによって、周りの大人(親・先生)の意識も変わると思う。

LGBTへの理解を深める事はとても大事な事だと思う。私自身、友達が性同一性障害で悩んでいてそこから知ろうと思った。だけど友達は「男」としての人生を歩み始めていて、女性であったことはあまり知られたくないし、こういう活動にも乗り気ではない。

誰もが能力や意欲に応じて、いきいきと暮らせる社会の現実に向けて頑張ってください。

市民が幅広く理解出来る様頑張ってください。応援します

女性天皇が実現したら日本全体が変わると思います。

男女平等といいつつ逆差別も多いのでバランスを考えながら進めていく必要がある。

質問が多すぎます。もっと練り込んでもらった方が協力しやすい。

・男女共同参画に関する言葉の解説が別紙で同封されていたのにありがたく感じました。熟読し勉強します。

・気になったのが、こちらのアンケートも女性側からの内容になっている様に感じました。

いろんな人がいて個々で違ってあたりまえ!!男女共同参画、LGBT等の言葉こそなくなることが1番望ましい。個人の生き方を尊重できる。そして尊敬できるような社会人でありたい。

男女はほぼ同数いるのもっと管理職に登用すべき。議員及び市町、副市長も半々でいいのでは。

男女の脳のあり方が違うことを理解した上での結婚生活などと話があるが、では平等とは何なのか単なる男女とか性別だけでなく能力によってできる者ができない者をおぎなう。また特性を活かしてお互い共存しあう心を養うなどの問題ではないかと思う。男女ではなく能力、体力、知力等を高めることにも目を向けて。もう、LGBTは受け入れられてるのでは？表にあまり出ていないが子供たちの教育(知育、しつけ、ルールをもっと!)に充実を。

もう少し簡潔だと協力を得やすいと思います。こういうことは広く意見を求めるべきだと思うので。

アンケートの設計内容が女性限りで作成されており男女平等と評価できない。

セクハラやこのようなアンケートが庁舎内で何回かあるがその結果を知りたいと思います。せっかく時間を割いたアンケートの結果をを協力した人に教えないのはなぜですか？紙一枚の統計だけ(分析結果はいいので)でもいいので教えてほしいです。

あまり「女性」を意識しすぎると「じょせいだから」と謙遜ではなく権利意識増長につながる危険性があると思う。

積極的に応援はできませんが影ながら応援します。

出産を得ていざ仕事に戻る再就職先を探すとすると中々みつからない。又、自分のやりたい仕事、就きたい仕事があっても面接を受けても採用にはならない事の方が多い。「未経験でも可」とあっても企業側は採用してはくれない。どうしてこういう書き方をするんですか？取り急ぎ仕事をみつけないのに受け入れてもくれない場合、どうしたらいいのか本当に困ります。

【市役所職員】

女性に向かない作業、男性には向かない作業も現実としてあると思います。すべてを平等にすることは難しいと思いますが、この差を活かしてどちらも尊重できる社会となればいいと思います。

男女共に働きやすい環境作り、特に長時間勤務是正と保育施設の充実をのぞみます。

小学生のうちから学校の授業(道徳)などで学習していく事が望まれる。

個人の実感として、中部は男性が優遇されている傾向が、南部で育った自分としては、言葉づかい含めてあると感じる場面が多いし、女性もそれを当たり前のように受け入れている印象が強い。男性の意識改善だけではなく、女性もそれを受け入れず、自立して生活できる自信や意識をもっていく必要があると思う。

（資料）調査票

①市民

「だれもがその人らしくいきいきと暮らせる沖縄市を目指して」 《男女共同参画に関するアンケートへのご協力のお願い》

日頃より男女共同参画社会の推進につきましては、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

男女共同参画では、だれもが性別、国籍、慣習等にかかわらず、能力や意欲に応じて、いきいきと暮らせる社会の実現を目指しています。そのためには、こどもも大人も男女共同参画について理解を深め、行政と市民、事業者、教育関係者等がみんなで協力し合うことが大切です。

本市では平成23年に「沖縄市男女共同参画推進条例」を制定し、現在「第2次沖縄市男女共同参画計画（ひと・きらめきプラン）」の見直しに取り組んでいます。

計画策定にあたり、男女共同参画に関する意識を把握し、基礎資料とさせていただくためアンケートを実施することとなりました。社会における性別のあり方の現状を調べることを大きな目的の1つにしているため、該当する回答のないことがある方もいらっしゃると思いますが、ご理解いただけましたら幸いです。お忙しいかと存じますが、ご協力よろしくお願いいたします。

平成29年9月 沖縄市長 桑江 朝千夫
(公印省略)

●ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、ご自身の考えでお答えください。
2. 答えの中に、当てはまる回答がない場合は、ご自身の考え方に最も近い番号に○をつけてください。性別については自認するもので結構です。
3. このアンケートは、名前を記入する必要はありません。また、調査結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままを回答していただくようお願いいたします。

※対象者は、沖縄市内にお住まいの18歳以上の方から2,600人を無作為に抽出いたしております。

※回答後は、返信用封筒にて平成29年9月29日（金）までにご投函くださいますようお願いいたします。（切手は不要です。）

※心ばかりの品ですがボールペンを同封いたしました。どうぞご活用ください。

問い合わせ

沖縄市男女共同参画センター

TEL：098-937-0170 FAX：098-937-0175

1. 基本的事項

問1 あなたの年齢はおいくつですか。

- | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 | 5. 50歳代 | 6. 60歳代以上 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|

問2 あなたは結婚していますか。

- | | | | | |
|-------|-------|-------------------------|-----------|-------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚 | 3. 結婚していないがパートナーと暮らしている | 4. 離別(離婚) | 5. 死別 |
|-------|-------|-------------------------|-----------|-------|

問3 ご職業についてお聞きします。なお、出産・育児等で休業中の方は働いているものとみなします。あなたのご職業は次のどれですか。(1つ選んでください。)

- | | | |
|-------------------------------|--------------|--------------|
| 1. 正社員(一般職) | 2. 正職員(技術職) | 3. 管理職・会社役員 |
| 4. 公務員 | 5. 契約社員、派遣社員 | 6. 常勤パートタイマー |
| 7. 臨時・アルバイト | 8. 内職 | 9. 農業・林業・漁業 |
| 10. 商工業・サービス業(卸・小売店、飲食店等サービス) | | |
| 11. 自由業(開業医師、弁護士、芸術家など) | | |
| 12. 主夫・主婦 | 13. 学生 | 14. 無職 |

問4 問3で「1. 正社員(一般職)」～「11. 自由業(開業医師、弁護士、芸術家など)」と答えた方のみに質問です。複数の仕事を掛けもち(Wワーク、副業)していますか。

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

問5 問2で「2. 既婚」「3. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方のみに質問です。あなたの配偶者(パートナー)の職業は次のどれですか。(1つ選んでください。)

- | | | |
|-------------------------------|--------------|--------------|
| 1. 正社員(一般職) | 2. 正職員(技術職) | 3. 管理職・会社役員 |
| 4. 公務員 | 5. 契約社員、派遣社員 | 6. 常勤パートタイマー |
| 7. 臨時・アルバイト | 8. 内職 | 9. 農業・林業・漁業 |
| 10. 商工業・サービス業(卸・小売店、飲食店等サービス) | | |
| 11. 自由業(開業医師、弁護士、芸術家など) | | |
| 12. 主夫・主婦 | 13. 学生 | 14. 無職 |

問6 あなたは現在どのような家族構成でお住まいですか。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦(パートナー)のみ |
| 3. 二世帯(夫婦(パートナー)・子ども) | 4. 三世帯(親・子ども・孫) |
| 5. ひとり親(母子・父子)家庭 | 6. その他(具体的に) |



2. 家庭について

ここでは、社会における男女のあり方の現状を調べることを大きな目的の1つにしているため、該当する回答のないことがある方もいらっしゃるかと思いますが、ご理解いただけましたら幸いです。

問7 問6で「2. 夫婦（パートナー）のみ」「3. 二世帯（夫婦（パートナー）・子ども）」「4. 三世帯（親・子ども・孫）」と答えられた方にのみ質問です。あなたのご家庭での男女の役割の現状をお答えください。（**それぞれ1つ**選んでください。）

	主に女性が担っている	男女同じくらい	主に男性が担っている
食事の用意（料理）	1	2	3
食事の後片付け	1	2	3
食料品などの日常の買出し	1	2	3
ゴミ出し	1	2	3
洗濯	1	2	3
掃除	1	2	3
子どもの世話やしつけ、教育	1	2	3
子どもの学校行事、クラブ活動などへの参加	1	2	3
高齢者の介護や病人の世話	1	2	3
家計の管理	1	2	3
家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3
沖縄の年中行事を含めた親戚付き合い	1	2	3

問8 あなたの家庭における男女の役割分担（家事や育児、介護など）について、納得していますか。（**1つ**選んでください。）

- | | | |
|----------------|-------------------|--------------------|
| 1. 納得している | 2. どちらかといえば納得している | 3. どちらかといえば納得していない |
| 4. まったく納得していない | 5. どちらともいえない | |



3. 男女共同参画に関する言葉について

問9 次のあげる言葉のうち、あなたが知っているもの・言葉を聞いたことがあるものはどれですか。
(それぞれ1つ選んでください。)

	おおよその内容を知っている	どんな内容が少し知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	まったく聞いたことがない
①男女共同参画社会	1	2	3	4
②ジェンダー	1	2	3	4
③固定的性別役割分担意識	1	2	3	4
④沖縄市男女共同参画計画 ～ひと・きらめきプラン～	1	2	3	4
⑤沖縄市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
⑥沖縄市男女共同参画センター	1	2	3	4
⑦男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
⑧男女雇用機会均等法	1	2	3	4
⑨DV	1	2	3	4
⑩デートDV	1	2	3	4
⑪人権擁護委員	1	2	3	4
⑫男女混合名簿	1	2	3	4
⑬ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
⑭リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3	4
⑮LGBTを含む性の多様性	1	2	3	4
⑯男女共同参画啓発紙「きらめき」	1	2	3	4

4. 男女平等に関する意識について

問10 次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ1つ選んでください。)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
家庭生活の中で	1	2	3	4	5
職場で	1	2	3	4	5
学校教育の場で	1	2	3	4	5
地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5
政治や意思決定の場で	1	2	3	4	5
法律や制度の上で	1	2	3	4	5
社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5

問11 「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて、どう思いますか。(1つ選んでください。)

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらかといえば反対	4. 反対
5. その他（ ）			

問 12 男女共同参画をすすめるためには、学校教育で何が大切だと思いますか。（それぞれ1つ選んでください。）

	大切だと思う	どちらかといえば大切だと思う	どちらかといえば大切だと思わない	大切だと思わない
男女共同参画についての子供向け、家庭向けパンフレット等を活用すること	1	2	3	4
性別によって役割や順番（例えば、名簿や座席など）を分けないこと	1	2	3	4
家庭科などを通じて、男女ともに家庭生活に必要な知識・技術を教えること	1	2	3	4
性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた進路指導を行うこと	1	2	3	4
性別に関わらず互いを尊重しあうことや命を大切にすることを育てること	1	2	3	4

問 13 年中行事（新（旧）正月・新（旧）盆・シーミーなど）で男性と女性どちらに多く負担がかかっていると思いますか。実際に行事を行っている、いないに関わらずお答えください。（1つ選んでください。）

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 男性の負担が大きい | 2. 女性の負担が大きい |
| 3. 男女とも同じぐらい | 4. 負担がかかっていると思わない |

問 14 トートーメー（位牌）は、誰が継ぐべきだと思いますか。家にトートーメーがある、ないに関わらずお答えください。（1つ選んでください。）

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 長男に限る | 2. 血縁の男性に限る（養子も含む） |
| 3. 血縁なら誰でもよい | 4. それぞれの家にまかせるべきである |
| 5. トートーメーを継ぐ必要はない | 6. その他（ ） |

5. 職場、就労について

問 15 育児休業は男女ともに利用できる制度ですが、男性がこの制度を利用することについて、どう思いますか。

（1つ選んでください。）

- | | | | |
|------------|-------------|------------|-------------|
| 1. 全く抵抗がない | 2. あまり抵抗がない | 3. 多少抵抗がある | 4. かなり抵抗がある |
|------------|-------------|------------|-------------|

問 16 一般的に、女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（1つ選んでください。）

- | |
|---|
| 1. 結婚、出産にこだわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい（産休、育休等を活用） |
| 2. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい |
| 3. 結婚して子どもができるまでは、職業をもつ方がよい |
| 4. 結婚するまでは、職業をもつ方がよい |
| 5. 女性は職業をもたない方がよい |
| 6. その他（ ） |

【女性の方で、現在、無職の方（学生除く）への質問です（そうでない方は問 18 へ）】

問 17 あなたは今後、働きたいとお考えですか。

1. 働きたい
2. 働きたくない
3. どちらとも言えない
4. その他（

）

【上記問 17 で「1. 働きたい」と回答した方にお聞きします】

問 18 今後、働きたいが、現在働くことができない理由は何ですか。（あてはまるものをすべて選んでください。）

1. 保育所に入所できなかったため
2. 延長保育や一時預かり、休日保育など保育サービスが身近にないため
3. 仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため
4. 家事で夫、パートナー、家族などの協力が得られないため
5. 育児で夫、パートナー、家族などの協力が得られないため
6. 看護・介護で夫、パートナー、家族などの協力が得られないため
7. 看護・介護で施設やサービスを利用できないため
8. 働くことについて夫、パートナー、家族などの同意が得られないため
9. 働くことと家族に迷惑がかかると感じるため
10. 仕事と家庭の両立をうまくやっていく自信がないため
11. 仕事に必要な能力があるか不安があるため
12. 職場での人間関係をうまくやっていけないか不安なので
13. 健康面に不安があって働けない
14. 年齢制限によって仕事が探せない
15. その他（

）

問 19 女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3 つまで選んでください。）

1. 賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす
2. パート、派遣労働等の労働条件を改善する
3. 長時間労働の是正
4. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
5. セクシュアル・ハラスメント等（セクハラ：性的いやがらせ、マタハラ・パタハラ等：性別に関わらず妊娠・出産・育児・介護に関する不当な取り扱い）のない職場をつくる
6. 女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する
7. 女性に対して昇進、昇給の機会を確保する
8. 育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する
9. 託児施設、託児サービスを充実する
10. 介護施設、介護サービスを充実する
11. 家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める
12. その他（

）

問 20 出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めた女性が再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選んでください。)

1. 就職情報や職業紹介などの相談する機関や窓口の充実
2. 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
3. 育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度の充実
4. 企業経営者や職場の理解
5. 長時間労働の是正
6. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
7. 育児や介護のための施設やサービスの充実
8. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力
9. わからない
10. その他（ ）

6. ワーク・ライフ・バランスについて

※性別や年齢にかかわらず、「あらゆる人」が子育て、介護、地域活動、自己啓発などさまざまなタイプの活動を「自ら希望するバランス」で展開できる状況を指すこと、そして働き方の見直しが仕事の効率を高め、同時に個人にとっての生活全般での充実が仕事の充実につながるなど、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の間に好循環をもたらしている状態をいう。

問 21 あなたは趣味の活動や地域活動など、個人の時間を過ごせていますか。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 過ごせている | 2. 過ごせていない |
|-----------|------------|

問 22 問 21において、「2. 過ごせていない」と答えた方に質問です。過ごせていないのはなぜですか。(3つまで選んでください。)

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1. 仕事が忙しく時間がない | 2. 家事・子育て・介護が忙しくて時間がない |
| 3. 自分の体調がすぐれない | 4. 家族の理解や協力が得られない |
| 5. 経済的に余裕がない | 6. 人間関係がわずらわしい |
| 7. その他（具体的に | ） |

問 23 男女がともに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）」を図るためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選んでください。)

1. 雇用・労働条件での男女間格差を是正する
2. 長時間労働の是正
3. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
4. 子どもが1歳に達するまでの育児休業制度や介護休業制度を普及促進する
5. 育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい職場環境の整備を進める
6. 子育て時期などにおける転勤に配慮する
7. 男女がともに家事や育児、介護を担う
8. 育児や介護のための施設やサービスを充実する
9. 夫婦や家族間で家事などの分担について十分に話し合う
10. 特に必要なことはない
11. その他（ ）

問 24 あなたの生活の中での「仕事」「家庭生活」「個人・地域の生活（趣味・地域活動・付き合い等）」の優先度についてお聞きします。「理想」と「現実」について、それぞれ1つ選び、回答欄へ記入してください。

1. 「仕事」を優先 2. 「家庭生活」を優先 3. 「個人・地域の生活」を優先 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先 5. 「仕事」と「個人・地域の生活」をともに優先 6. 「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先 7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」すべてを優先 8. わからない	理 想	
	現 実	

7. DVについて

※DV とは、ドメスティック・バイオレンスの略。「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振られる暴力」のことであり、同居をやめた後に暴力が続く場合も DV に該当する。DV のうち、交際相手からの暴力を「デート DV」と呼ぶことがある。

問 25 配偶者や恋人等からの以下の行為は、身体的・心理的、性的な暴力（DV）になります。あなたは、次のようなことをされたことがありますか。（それぞれ1つ選んでください。）

	何度もあった	1、2 度あった	なかった
1. 平手で打つ、蹴る、物を投げる、突き飛ばす	1	2	3
2. 殴るふりをしておどす	1	2	3
3. 大声でどなる	1	2	3
4. 何を言っても何をしても長時間無視し続ける	1	2	3
5. 無能、バカなどに見下して言う	1	2	3
6. 嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
7. 避妊に協力しない	1	2	3
8. 生活費を渡さない	1	2	3
9. お金の使途を細かくチェックする	1	2	3
10. 家族や親戚、友人との付き合いを禁止・制限する	1	2	3
11. 交友関係や電話、メールなどをチェックする	1	2	3

問 26 問 25 で「1. 何度もあった」「2. 1、2 度あった」と答えた方にお聞きします。そのことを誰かに相談しましたか。（あてはまるものをすべて選んでください。）

1. 警察に連絡・相談した 2. 法務局や人権擁護委員に相談した 3. 市役所の担当窓口や男女共同参画センターなど行政機関などに相談した 4. 民間（NPOを含む）専門家や専門機関（弁護士・弁護士会・カウンセリング機関）に相談した 5. 医療関係者（医師、看護師、助産師等）に相談した 6. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）に相談した 7. 家族や親戚に相談した 8. 友人・知人に相談した 9. 誰にも相談できなかった 10. その他（	）
--	---

問 27 問 26 で「9. 誰にも相談できなかった」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

1. どこに(誰に)相談していいか分からなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談がばれると仕返しされたり、もっとひどいことをされると思った
5. 自分が我慢すればいいと思った
6. 世間体が悪いから
7. 他人を巻き込みたくなかった
8. そのことを思い出したくなかった
9. 自分にも悪いところがあると思った
10. 相談するほどのことではないと思った
11. その他()

問 28 あなたは、DV について見聞きしたことがありますか。(1つ選んでください。)

1. 身近に DV を受けた当事者がいる
2. 身近な人から相談を受けたことがある
3. 身近に DV を受けた当事者はいないが、うわさを聞いたことがある
4. 見聞きしたことはない
5. その他()

問 29 DV 等に関する相談窓口のうち知っているものはありますか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

1. 沖縄県女性相談所(配偶者暴力相談支援センター)
2. 中部配偶者暴力相談支援センター(中部福祉事務所)
3. 沖縄被害者支援ゆいセンター
4. 沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター
5. 沖縄県男女共同参画センター ているる相談室(女性相談・男性相談)
6. 沖縄県警察本部警察安全相談
7. 沖縄市こども相談・健康課(女性相談室)
8. 沖縄市男女共同参画センター相談室
9. その他()



8. 男女共同参画の施策について

問 30 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、沖縄市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。（3つまで選んでください。）

1. 講座等による男女共同参画に関する学習機会並びに意識啓発の充実
2. こどもに対する意識啓発の充実
3. 職場における男女格差是正、長時間労働の是正、育児・介護休業制度の普及促進
4. 保育施設や介護施設などのサービスの充実
5. 子育てや介護などで仕事を辞めた人の再就職支援
6. 仕事と家庭生活や地域活動などの両立支援
7. 政策・方針決定の場への女性の積極的登用（女性議員の増加、女性管理職の増加等）
8. 配偶者等からの暴力の根絶と被害者に対する支援の充実
9. 男女の互いの身体的性差の理解促進及び男女の生涯を通じた健康づくりへの支援
10. LGBT を含む性の多様性への理解の促進
11. 相談窓口の充実

9. LGBT を含む性の多様性への理解について

※LGBTとは・・・

レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（心と体の性が一致しない人）の頭文字をとった言葉です。

※性の多様性とは・・・

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーや、心と体の性が一致せず心と体の性の一致を求める性同一性障害、自分の性別や好きになる性がわからない、または、あえて決めないクエスチョニング、どちらにもあてはまりきらないXジェンダーなどを含む、多様な性のあり方を示す言葉です。

問 31 あなたは LGBT を含む性の多様性について知っていましたか。（1つ選んでください。）

1. 知っているし、内容も理解している
2. 聞いたことはあるが、内容は理解していない
3. 知らない

問 32 LGBT 等の当事者への偏見や差別をなくし、性の多様性を認め合う社会を作るための取り組みが必要だと思いますか。（1つ選んでください。）

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 必要だと思う | 2. 必要だと思わない | 3. わからない |
|-----------|-------------|----------|

問 33 あなたは LGBT 等の当事者ですか。（この質問は、性が多様であることを数値で示すことを目的として
いるだけで、個人が特定されることはありません。また、答えたくない場合は、無記入で構いません。）

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. 当事者である | 2. 当事者ではない | 3. わからない |
|-----------|------------|----------|

問 34 あなたの性別は何ですか。（自認する性別で構いません。また答えたくない場合は、無記入で構いません。）

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

※男女共同参画に関して、あなたのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

アンケート調査へのご協力ありがとうございました！



②事業者

「だれもがその人らしくいきいきと暮らせる沖縄市を目指して」 《男女共同参画に関するアンケートへのご協力のお願い》

日頃より男女共同参画社会の推進につきましては、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

性別や国籍、慣習等にかかわらず、能力や意欲に応じて、だれもがその人らしくいきいきと暮らせる社会を実現するためには、行政と市民、事業者、教育関係者等が理解を深め、協力し合うことが大切です。

一人ひとりの意欲や能力に応じて働くことができる環境並びに育児休業等が利用できる環境など、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）を進めることは、男女共同参画社会の実現においても非常に重要となります。

本アンケートは「第2次沖縄市男女共同参画計画（ひと・きらめきプラン）」の見直しの基礎資料とするため実施しております。お忙しいかと存じますが、ご協力よろしくお願いいたします。

平成29年9月 沖縄市長 桑江 朝千夫
(公印省略)

●ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、事業主がご記入ください。
2. このアンケート調査は無記名式です。調査結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままを回答していただくようお願いいたします。

※対象は、沖縄市内に本社または支店・営業所を有する事業者を無作為に抽出いたしております。

※回答後は、返信用封筒にて平成29年9月29日（金）までにご投函くださいますようお願いいたします。（切手は不要です）

※心ばかりの品ですがボールペンを同封いたしました。どうぞご活用ください。

問い合わせ

沖縄市男女共同参画センター

TEL：098-937-0170 FAX：098-937-0175

※このアンケートは事業主の方がお答えください。

1. 事業所の概要

問1 貴事業所についてお伺いします。それぞれ該当する番号に○を付けて下さい。

所在地（本社）	1. 沖縄市内	2. 沖縄県内沖縄市外	3. 沖縄県外
業 種	1. 建設業 2. 製造業 3. 電気・ガス・熱供給・水道業 4. 情報通信業 5. 運輸業、郵便業 6. 卸売業、小売業 7. 金融業、保険業 8. 不動産業、物品賃貸業 9. 学術研究、専門・技術サービス業 10. 宿泊業、飲食サービス業 11. 生活関連サービス業、娯楽業 12. 教育、学習支援業 13. 医療、福祉 14. 複合サービス事業 15. その他サービス業 16. その他（ ）		
従業員数	1. 9人以下	2. 10～29人	3. 30人以上
従業員の人数及び雇用の種類と性別	正規雇用 （合計 名 女性 名 男性 名） 非正規雇用 （合計 名 女性 名 男性 名）		
正規従業員の勤続年数	【女性】 1. 5年未満（ 名） 2. 5年以上（ 名） 【男性】 1. 5年未満（ 名） 2. 5年以上（ 名）		
管理職数について	管理職 名（うち女性管理職 名）		
労働組合の有無について	1. ある 2. ない		

2. 女性従業員の活用について

問2 女性活用を困難にしている状況はありますか。

1. ない
2. ある

問3 問2で「2. ある」を選択された方にお伺いします。その原因に該当すると思われるものを3つまで選んで○を付けて下さい。

1. 女性の勤続年数が短い
 2. 家事や育児があることを考慮する必要がある
 3. 顧客・取引先の理解が得られない
 4. 上司や同僚である男性の理解や認識が不十分である
 5. 時間外勤務・深夜勤務をさせにくい
 6. 育児休業手当・代替要員確保等にコストがかかる
 7. その他（ ）



問4 「女性のみ」又は「男性のみ」となっている主要職務を行う部署（例：営業、販売、製造、現場、総務、企画等）はありますか。あてはまるもの1つに○を付けて下さい。

1. ある	2. ない
 女性のみ：(部署名) _____) 男性のみ：(部署名) _____)	

問5 問4で「1. ある」と回答した場合の理由について、あてはまるものすべてに○を付けて下さい。

1. たまたまそのような配置になっている	2. 従来の配置のままである
3. 該当者がいない	4. 資格を持った者がいない
5. その他（	）

問6 過去5年間で貴社の女性従業員の退職理由で最も多いと思うものは何ですか。 あてはまるもの1つに○
を付けて下さい。

1. 結婚	2. 妊娠、出産
3. 子育て	4. 配偶者（パートナー）の長時間労働
5. 配偶者（パートナー）の理解・協力がいない	6. 親などの介護
7. その他（ ）	

問7 女性従業員が活躍できる仕事・職場環境にするために必要だと思われるものすべてに○を付けて下さい。

1. 企業トップが女性の活躍促進に積極的である
2. 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解がある
3. 育児・介護との両立について職場の支援制度が整っている
4. 長時間労働の必要がない、又は勤務時間が柔軟である
5. 身近に活躍している女性（ロールモデル）がいる
6. 仕事が適正に評価される
7. 仕事の内容にやりがいがある
8. その他（ ）

3. 育児休業制度・介護休業制度の取組について

問8 育児休業制度を就業規則などで規定していますか。

1. 規定している	2. 規定していない
-----------	------------

問9 介護休業制度を就業規則などで規定していますか。

1. 規定している	2. 規定していない
-----------	------------

問10 育児や介護を行う従業員を支援するために、どのような措置を設けていますか。あてはまるものすべてに○を付けて下さい。

1. 短時間勤務制度	2. フレックスタイム制
3. 企業内託児所の設置	4. 出産・育児に対する経費の援助
5. 介護サービス費用の援助	6. 子ども看護休暇制度
7. 介護休暇制度	8. 特に措置していない
9. その他（ ）	

問11 今後、育児休業制度や介護休業制度を定着させるために、大切だと思われることは何ですか。あてはまるものに3つまで○を付けて下さい。

1. 休業中の代替要員の確保	2. 制度を利用しやすい雰囲気づくり
3. 休業中の賃金補償	4. 復職時の受け入れ体制づくり
5. 復職に向けた研修等	6. その他（ ）

問12 育児休業は男女ともに利用できる制度ですが、この制度を利用することについて、どう思いますか。それぞれ1つ選んで○を付けて下さい。

①男性が育児休業をとることについて

1. 全く抵抗がない	2. あまり抵抗がない	3. 多少抵抗がある	4. かなり抵抗がある
------------	-------------	------------	-------------

②女性が育児休業をとることについて

1. 全く抵抗がない	2. あまり抵抗がない	3. 多少抵抗がある	4. かなり抵抗がある
------------	-------------	------------	-------------

4. セクシュアル・ハラスメント等の防止について

問13 職場においてセクシュアル・ハラスメントについて必要な対策をとることは事業主の義務となっていますが、セクハラ（性的いやがらせ）及びマタハラ・パタハラ等（性別に関わらず妊娠・出産・育児・介護に伴う不当な取り扱い）防止の取り組みについて、実施しているものすべてに○を付けて下さい。

	セクハラ 対策	マタハラ・ パタハラ対策
1. 方針を就業規則等で明確化		
2. 相談・苦情などに対する窓口の設置		
3. ハラスメント防止のためのマニュアル作成		
4. ハラスメント防止のための研修の実施		
5. 職場での実態把握		
6. その他（ ）		

5. ワーク・ライフ・バランスについて

※ワーク・ライフ・バランスとは・・・

「仕事と生活の調和」のこと。企業において労働者個人の生活時間に配慮した働き方、働き方がその持てる能力を最大限に発揮させ、生産性の向上や優秀な人材の確保などのメリットにつながることを期待できる。

問14 沖縄県ワーク・ライフ・バランス企業認証制度についてお伺いします。あてはまるもの1つに○を付けて下さい。

1. 内容までよく理解している	2. だいたい理解している
3. 内容はよくわからないが聞いたことはある	4. 聞いたことはない

問15 貴事業所においてワーク・ライフ・バランスの取り組みは必要だと思いますか。あてはまるもの1つに○を付けて下さい。

1. 必要である	2. 必要ではない	3. わからない
----------	-----------	----------

6. LGBT を含む性の多様性への理解について

※LGBT とは・・・

レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（心と体の性が一致しない人）の頭文字をとった言葉です。

※性の多様性とは・・・

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーや、心と体の性が一致せず心と体の性の一致を求める性同一性障害、自分の性別や好きになる性がわからない、または、あえて決めないクエスチョニング、どちらにもあてはまりきらないXジェンダーなどを含む、多様な性のあり方を示す言葉です。

経済産業省では、平成 28 年度からセミナー「MeetUP!（ミートアップ）」を全国各地で開催し、ダイバーシティ（多様性）経営の普及を図っているところです。多くの企業で人材のダイバーシティ（多様性）の必要性が叫ばれるなか、女性、外国人、身体障がい者に加え、最近では LGBT 等についても、その重要性が強調されるようになってきています。

問 16 あなたは LGBT を含む性の多様性について知っていましたか。（1つ選んでください。）

1. 知っているし、内容も理解している
2. 聞いたことはあるが、内容は理解していない
3. 知らない

問 17 貴事業所には LGBT 等の当事者がいますか。（1つ選んでください。）

1. いる
2. いない
3. わからない

問 18 問 17 で「1. いる」と答えた方にお聞きます。LGBT 等の当事者が働き続けるために、どのような配慮をしていますか。

- レズビアンやゲイ、バイセクシュアルの当事者への配慮
 1. 福利厚生等で配偶者の定義を同性パートナーにも適用
 2. 従業員に対して理解を促進するための研修等の実施
 3. その他（ ）
- トランスジェンダーや性同一性障害の当事者への配慮
 1. トイレ面での配慮
 2. 更衣室面での配慮
 3. 治療支援体制面での配慮（性別適合手術や乳房切除に伴う、長期の休暇使用等）
 4. 従業員に対して理解を促進するための研修等の実施
 5. その他（ ）
- その他の当事者への配慮（ ）

問 19 貴事業所では LGBT 等の多様な人材の活躍並びに優秀な人材の確保のため取り組んでいることがありますか。（1つ選んでください。）

1. ある
2. ない

↓

具体的に

※男女共同参画に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

アンケート調査へのご協力ありがとうございました！



③中高生

～だれもがその人らしくいきいきと暮らせる沖縄市を目指して～

男女共同参画に関するアンケート

沖縄市の中学生・高校生のみなさんへ

これは、社会における性別のあり方の現状を調べることを
大きな目的としているアンケートです。

そのため、アンケートの中で、あなた自身にあてはまらない質問や
答えたくない質問がある場合は、無理して答えなくても大丈夫です。

あなたの答えは先生や他の人には知られないので、
あなたが普段思っていることを、素直に答えてください。
よろしくお願いします。

《アンケートの答え方》

- ① 名前は書かなくて結構です。
- ② あなたの考えにあてはまる（または考えに近い）ものに、○をつけてください。
○は、はっきりと書いてください。
- ③ 「その他（ ）」に○をつけたときは、（ ）の中にあなたの考えを書いてください。

問い合わせ

沖縄市男女共同参画センター

TEL：098-937-0170

FAX：098-937-0175

男女共同参画社会に関する中高生アンケート

1. 基本的事項

【問1】あなたは中学生ですか、高校生ですか。

1. 中学生	2. 高校生
--------	--------

【問2】 あなたの性別は何ですか。

()

【問3】あなたは「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」、または「男のくせに、女のくせに」と言われたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ選んで○をつけてください。

1. よく言われる 2. ときどき言われる 3. あまり言われない 4. 全く言われない

【問4-1】問3で「1. よく言われる」または「2. ときどき言われる」と答えた方にお聞きします。どんな時に言われましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 言葉づかい	2. 服装（色）	3. 身だしなみ	4. 整理整頓
5. 手伝い	6. 食事の仕方や座り方	7. 歩き方	8. 勉強
9. スポーツ	10. 趣味・遊び	11. 家に帰る時刻	12. 泣いた時
13. その他（			）

【問4-2】問3で「1. よく言われる」または「2. ときどき言われる」と答えた方にお聞きします。あなたは
その時どんな気持ちがありましたか。あてはまる番号に1つだけ選んで○をつけてください。

1. いやな気持ちでした	2. その通りだと思った	3. 何とも思わなかった
4. その他（		）

【問4-3】問3で「1. よく言われる」または「2. ときどき言われる」と答えた方にお聞きします。あなたに言うのは誰ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 父親	2. 母親	3. 祖父	4. 祖母
5. 兄・弟	6. 姉・妹	7. 男の友達	8. 女の友達
9. 男の先生	10. 女の先生	11. その他の人（ ）	

【問5】あなたは、「男に生まれてくやしい」または「女に生まれてくやしい」思いをしたことがありますか。

1. ない 2. ある ⇒ [具体的に]

2. 男女共同参画に関する言葉について

【問6】あなたは次の言葉を聞いたことがありますか。それぞれあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	聞いたことがない
男女共同参画社会	1	2	3
ジェンダー	1	2	3
固定的性別役割分担意識	1	2	3
DV	1	2	3
デートDV	1	2	3
セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）	1	2	3
LGBT を含む性の多様性	1	2	3

3. 家庭生活について

【問7】あなたが家の中で担当している役割はなんですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 食事のしたく	2. 食事のあとかたづけ	3. そうじ
4. 洗濯	5. 買い物	6. ゴミ出し
7. 弟や妹の世話	8. お風呂掃除	9. ペットの世話や花の水やり
10. 特にない	11. その他（ ）	

【問8】あなたは家の中で、食事のしたくやあとかたづけ、そうじ、洗濯のような家事は、誰がやるのが一番よいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ選んで○をつけてください。

1. 男の人が主にやるのがよい	2. 女の人が主にやるのがよい
3. 家族みんなで協力してやるのがよい	4. わからない
5. その他（ ）	

【問9】「男は外で働き、女は家庭を守る」という考え方もありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない
4. そうは思わない 5. わからない

【問10】あなたが将来結婚するとき、家庭を支えるため、仕事と家事はどのような形でするほうがいいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 夫婦ともに働き、ともに家事をする 2. 夫が外で働き、妻が家庭で家事をする
3. 妻が外で働き、夫が家庭で家事をする 4. その他（ ）



【問 11】女性が仕事をもつことについて、あなたはどのように考えますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 結婚、出産にこだわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい（産休、育休等を活用）
2. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
3. 結婚して子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい

【問 12】進路や将来の仕事について、保護者と話しをしたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ある
2. ない
3. これから話をしたい

【問 13】問 12 で「1. ある」と答えた方にお聞きします。あなたの希望する進路や仕事について、保護者は賛成していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 賛成している
2. 反対している
3. わからない

↓

（反対の理由

）

4. 学校生活について

【問 14】あなたのクラスまたは学校で、次のような時は女子と男子のどちらが多いですか。それぞれあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	女子の方が 多い	男女に差は ない	男子の方が 多い
生徒会長や学級委員長など	1	2	3
行事前の資料づくりや会場準備	1	2	3
行事後の後片付けや清掃	1	2	3
重い荷物を運ぶ	1	2	3
文化祭などの時に中心になって計画をたてる	1	2	3
学級会等で中心になって意見を述べる	1	2	3



5. DV、デートDVについて

※DVとは、ドメスティック・バイオレンスの略。「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力」のことで、同居をやめた後に暴力が続く場合もDVに該当します。

DVのうち、交際相手からの暴力をデートDVと呼ぶことがあります。中学生や高校生の間でも起こっています。

【問 15】あなたは家庭内でDVを見たことがありますか。(1つ選んでください。)

1. ある 2. ない

【問 16】交際相手や元交際相手からの以下の行為は、身体的・心理的、性的な暴力になります。あなたは、次のようなことをされたことがありますか。(それぞれ1つ選んでください。)

	何度もあった	1、2度あった	なかった
たたく、蹴る、物を投げつける	1	2	3
殴るふりをして、おどす	1	2	3
バカにする、暴言をはく、怒鳴る	1	2	3
何を言っても無視する	1	2	3
メールのチェックや友達付き合いを制限する	1	2	3
性的な行為を無理やりする	1	2	3
デートの費用やお金を無理やり出させる	1	2	3

【問 17】問 16 で「何度もあった」、「1、2度あった」と答えた方にお聞きします。だれか(どこか)に相談しましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。相談した方は相談したすべてのアルファベットに○をつけてください。

1. 相談した →
- | | | |
|------------|---------------------------------|---------|
| A. 親などの保護者 | B. きょうだい | C. 友人 |
| D. 先輩 | E. 先生 | F. 電話相談 |
| G. 警察 | H. その他 () | |

2. 相談したかったが、できなかった
3. 相談したいと思わなかった
- } → 相談しなかった理由

【問 18】問 16 のような行動について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. うわさを聞いたことがある
2. 身近な人がしたり、されたりしている → 【問 19】へ
3. 身近な人から相談されたことがある → 【問 19】へ

【問 19】問 18 で「2. 身近な人がしたり、されたりしている」「3. 身近な人から相談されたことがある」と答えた方にお聞きます。そのことを知ったときどうしましたか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。相談した方は相談したすべてのアルファベットに○をつけてください。

1. 親や先生、相談機関などにきちんと相談するようすすめた
2. 一緒に相談した →

A. 親などの保護者	B. きょうだい	C. 友人
D. 先輩	E. 先生	F. 相談電話
G. 警察	H. その他（	）
3. 何もする必要はないと思った
4. 何もできなかった
5. その他（

6. LGBT を含む性の多様性への理解について

※LGBTとは・・・

レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（心と体の性不一致の人）の頭文字をとった言葉です。

※性の多様性とは・・・

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーや、心と体の性が一致せず心と体の性の一致を求める性同一性障害、自分の性別や好きになる性がわからない、または、あえて決めないクエスチョニング、どちらにもあてはまりきれないXジェンダーなどを含む、多様な性のあり方を示す言葉です。

【問20】あなたはLGBTを含む性の多様性について知っていましたか。（1つ選んでください。）

1. 知っているし、内容も理解している
2. 聞いたことはあるが、内容は理解していない
3. 知らない

【問21】LGBT等の当事者の方が身近にいますか。

1. 身近にいる 2. 身近にいないが、聞いたことがある 3. いない 4. わからない

【問22】LGBT等の当事者への偏見や差別をなくすための取り組みが必要だと思いますか。(1つ選んでください。)

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 必要だと思う | 2. 必要だと思わない | 3. わからない |
|-----------|-------------|----------|

※このアンケートに関して、ご意見があれば自由にお書きください。

--

アンケート調査へのご協力ありがとうございました！

④学校教員

学校教員アンケート

「だれもがその人らしくいきいきと暮らせる沖縄市を目指して」
《男女共同参画に関するアンケートへのご協力のお願い》

日頃より男女共同参画社会の推進につきましては、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

性別や国籍、慣習等にかかわらず、能力や意欲に応じて、だれもがその人らしくいきいきと暮らせる社会を実現するためには、行政と市民、事業者、教育関係者等が理解を深め、協力し合うことが大切です。

男女共同参画社会の実現に向け、性別にかかわらず互いを尊重する心を育むための取り組みなど、教育の果たす役割は非常に重要となります。

本アンケートは「第2次沖縄市男女共同参画計画（ひと・きらめきプラン）」の見直しの基礎資料とするため実施しております。社会における性別のあり方の現状を調べることを大きな目的の1つにしているため、該当する回答のないことがある方もいらっしゃるかと思いますが、ご理解いただけましたら幸いです。お忙しいかと存じますが、ご協力よろしくお願いいたします。

平成29年9月 沖縄市長 桑江 朝千夫
(公印省略)

●ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、ご自身の考えでお答えください。
2. 答えの中に、当てはまる回答がない場合は、ご自身の考え方に最も近い番号に○をつけてください。性別については自認するもので結構です。
3. このアンケートは、名前を記入する必要はありません。また、調査結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままを回答していただくようお願いします。

※対象者は、市立幼稚園・小学校・中学校、市内高等学校・特別支援学校の教員となっています。

問い合わせ

沖縄市男女共同参画センター

TEL：098-937-0170 FAX：098-937-0175

男女共同参画に関する学校教員アンケート

1. 基本事項

【問 1】あなたの年齢はおいくつですか。

1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳以上
---------	---------	---------	----------

【問 2】あなたの所属学校はどちらですか。

1. 幼稚園	2. 小学校	3. 中学校	4. 高等学校	5. 特別支援学校
--------	--------	--------	---------	-----------

【問 3】あなたの職名は何ですか。

1. 教諭	2. 養護教諭	3. 栄養教諭	4. 主幹教諭
5. 管理職（校長、副校長、教頭）			

2. 男女共同参画に関する言葉について

【問 4】次にあげる言葉のうち、あなたが知っているもの、言葉を聞いたことがあるものはどれですか。（それ
ぞれ1つ選んでください。）

	おおよその内容を知っている	どんな内容が少し知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	まったく聞いたことがない
①男女共同参画社会	1	2	3	4
②ジェンダー	1	2	3	4
③固定的性別役割分担意識	1	2	3	4
④沖縄市男女共同参画計画 ～ひと・きらめきプラン～	1	2	3	4
⑤沖縄市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
⑥沖縄市男女共同参画センター	1	2	3	4
⑦男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
⑧男女雇用機会均等法	1	2	3	4
⑨DV	1	2	3	4
⑩デートDV	1	2	3	4
⑪人権擁護委員	1	2	3	4
⑫男女混合名簿	1	2	3	4
⑬ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
⑭リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3	4
⑮LGBTを含む性の多様性	1	2	3	4
⑯男女共同参画啓発紙「きらめき」	1	2	3	4

3. 男女平等に関する意識について

【問5】現在、男女共同参画社会の実現に向けた様々な取り組みが進められていますが、あなたの周りで男女共同参画（社会）について話題になったことがありますか。（1つ選んでください。）

1. ある 2. ない

【問 6】あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野について
あてはまる番号に○をつけてください。（それぞれ1つ選んでください。）

	男性の方が 優遇されて いる	どちらか といえば男性 の方が優遇 されている	男女平等で ある	どちらか といえば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる
家庭生活の中で	1	2	3	4	5
職場で	1	2	3	4	5
学校教育の場で	1	2	3	4	5
地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5
政治や意思決定の場で	1	2	3	4	5
法律や制度の上で	1	2	3	4	5
社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5

【問 7】あなたは、男女共同参画を進めるために何が大切だと思いますか。（3つまで選んでください。）

1. 性別によってその人の可能性を決めつけないこと
2. 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」など、性別によって役割を固定化しないこと
3. 性別によって、接し方やしつけ・教育を区別しないこと
4. あらゆる場で男女がともに尊重しあい対等に行動できるように努めること
5. 配偶者・パートナーとの関係が対等なものであるよう気をつけること
6. 特にない
7. その他（ ）

【問8】「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて、どう思いますか。（1つ選んでください。）

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対
5. その他（ ）



4. 職場・就労について

【問 9】一般的に、女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（1つ選んでください。）

1. 結婚、出産にこだわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい（産休、育休等を活用）
2. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
3. 結婚して子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他（ ）

【問 10】育児休業は男女ともに利用できる制度ですが、男性がこの制度を利用することについて、どう思いますか。（1つ選んでください。）

1. 全く抵抗がない
2. あまり抵抗がない
3. 多少抵抗がある
4. かなり抵抗がある

【問 11】女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選んでください。）

1. 賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす
2. パート、派遣労働等の労働条件を改善する
3. 長時間労働の是正
4. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
5. セクシュアル・ハラスメント等（セクハラ：性的いやがらせ、マタハラ・パタハラ等：性別に関わらず妊娠・出産・育児・介護に関する不当な取り扱い）のない職場をつくる
6. 女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する
7. 女性に対して昇進、昇給の機会を確保する
8. 育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する
9. 託児施設、託児サービスを充実する
10. 介護施設、介護サービスを充実する
11. 家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める
12. その他（ ）

【問 12】出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めた女性が再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選んでください。）

1. 就職情報や職業紹介などの相談する機関や窓口の充実
2. 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
3. 育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度の充実
4. 企業経営者や職場の理解
5. 長時間労働の是正
6. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
7. 育児や介護のための施設やサービスの充実
8. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力
9. わからない
10. その他（ ）

5. ワーク・ライフ・バランスについて

※性別や年齢にかかわらず、「あらゆる人」が子育て、介護、地域活動、自己啓発などさまざまなタイプの活動を「自ら希望するバランス」で展開できる状況を指すこと、そして働き方の見直しが仕事の効率を高め、同時に個人にとっての生活全般での充実が仕事の充実につながるなど、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の間に好循環をもたらしている状態をいう。

【問 13】男女がともに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）」を図るためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選んでください。）

1. 雇用・労働条件での男女間格差を是正する
2. 長時間労働の是正
3. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
4. 子どもが1歳に達するまでの育児休業制度や介護休業制度を普及促進する
5. 育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい職場環境の整備を進める
6. 子育て時期などにおける転勤に配慮する
7. 男女がともに家事や育児、介護を担う
8. 育児や介護のための施設やサービスを充実する
9. 夫婦や家族間で家事などの分担について十分に話し合う
10. 特に必要なことはない
11. その他（ ）

【問 14】あなたの生活の中での「仕事」「家庭生活」「個人・地域の生活（趣味・地域活動・付き合い等）」の優先度についてお聞きします。「理想」と「現実」について、それぞれ1つ選び、回答欄へ記入してください。

1. 「仕事」を優先	理想	
2. 「家庭生活」を優先		
3. 「個人・地域の生活」を優先	現実	
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先		
5. 「仕事」と「個人・地域の生活」をともに優先		
6. 「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先		
7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」すべてを優先		
8. わからない		



6. 学校教育について

【問 15】男女共同参画をすすめるためには、学校教育で何が大切だと思いますか。（それぞれ1つ選んでください。）

	大切だと思う	どちらかといえば大切だと思う	どちらかといえば大切だと思わない	大切だと思わない
男女共同参画についての子供向け、家庭向けパンフレット等を活用すること	1	2	3	4
性別によって役割や順番（例えば、名簿や座席など）を分けないこと	1	2	3	4
家庭科などを通じて、男女ともに家庭生活に必要な知識・技術を教えること	1	2	3	4
性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた進路指導を行うこと	1	2	3	4
性別に関わらず互いを尊重しあうことや命を大切にすることを育てること	1	2	3	4

7. 性別で区別しない名簿（男女混合名簿）について

※性別で区別しない名簿（男女混合名簿）とは・・・

男女共学の学校において、児童、生徒を、性別に関係なく、生年月日やその用いられる言語により姓名の五十音順、アルファベット順などの順序によって並べた名簿である。

学校の男女別名簿は、ほとんどが「男子が先」、「女子が後」という編制方式である。学校生活の中で毎日毎日繰り返されることで「男が先」、「女は後」という序列をつくり、子ども達の中に無意識のうちに、男女を区別する習慣を助長させることになり、それが性別による役割を固定化し、差別、偏見へとつながっていくことが考えられる。

性別で区別しない名簿（男女混合名簿）は「男らしく、女らしく」ではなく、「自分らしく」、「個」を大切に育て、互いに尊重し合う人間関係を築き上げるひとつの手段である。

文部科学省では、平成 27 年 4 月 30 日の通知「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」において、学校における組織的な支援体制づくりや学校生活の各場面での支援など、具体的な配慮事項等がまとめられている。性別で区別しない名簿（男女混合名簿）は、性同一性障害に係る児童生徒が有する違和感を減らすための支援策の一つになる。

【問 16】性別で区別しない名簿（男女混合名簿）は、男女平等や人権尊重の意識啓発に必要だと思いますか。（1つ選んでください。）

- | | | |
|-------------|-------------------|-----------------|
| 1. 必要だと思う | 2. どちらかといえば必要だと思う | 3. あまり必要ではないと思う |
| 4. 必要はないと思う | 5. よくわからない | |



8. DV、デートDVについて

※DV とは、ドメスティック・バイオレンスの略。「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振られる暴力」のことで、同居をやめた後に暴力が続く場合も DV に該当します。

DV のうち、交際相手からの暴力をデート DV と呼ぶことがあります。中学生や高校生の間でも起こっています。

【問 17】生徒のデートDVを見聞きしたことがありますか。（1つ選んでください。）

1. よくある 2. たまにある 3. まったくない

【問 18】生徒からデート DV について相談されたことがありますか。（1つ選んでください。）

1. よくある 2. たまにある 3. まったくない

【問 19】生徒のデート DV を見聞きした、若しくは相談されたことがある方に、その内容についてお聞きします。（あてはまるものをすべて選んでください。）

言動の種類	男性から女性へ	女性から男性へ
たたく、蹴る、物を投げつける	1	2
殴るふりをして、おどす	1	2
バカにする、暴言をはく、怒鳴る	1	2
何を言っても無視する	1	2
メールのチェックや友達付き合いを制限する	1	2
性的な行為を無理やりする	1	2
デートの費用やお金を無理やり出させる	1	2

【問 20】生徒からデート DV について相談を受けたとき、あなたはどのように対応しましたか。（3 つまで選んでください。）

1. よく話を聞いた 2. 相手に嫌だと言うようにすすめた 3. 別れるようすすめた
4. 専門機関を紹介した 5. 他の先生に相談した 6. 保護者に連絡した
7. 加害者に連絡した 8. 警察に連絡した 9. 分からない
10. その他（ ）

【問 21】生徒の生活環境における DV（保護者間の DV、保護者とそのパートナーの間の DV）について相談を受けたことがありますか。（1 つ選んでください。）

1. ある 2. ない

【問22】問21で「1. ある」と回答した方にお聞きします。相談を受けた際にどのように対応をしたか教えてください。（記述式）

記述例：配偶者暴力相談支援センターへ連絡した

9. LGBT を含む性の多様性への理解について

※LGBT とは・・・

レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（心と体の性が一致しない人）の頭文字をとった言葉です。

※性の多様性とは・・・

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーや、心と体の性が一致せず心と体の性の一致を求める性同一性障害、自分の性別や好きになる性がわからない、または、あえて決めないクエスチョニング、どちらにもあてはまりきらないXジェンダーなどを含む、多様な性のあり方を示す言葉です。

【問 23】あなたは LGBT を含む性の多様性について知っていましたか。（1つ選んでください。）

1. 知っているし、内容も理解している
2. 聞いたことはあるが、内容は理解していない
3. 知らない

【問 24】LGBT 等の児童生徒に対する支援のため研修等を受けたことがありますか。

1. ある
2. ない

【問 25】LGBT 等の児童生徒から相談、または間接的な相談（当事者の友人等）を受けたことがありますか。

1. ある
2. ない

【問 26】LGBT 等の児童生徒に対して、学校における支援の充実が必要だと思いますか。

1. 必要である
2. 必要ではない
3. わからない

【問 27】LGBT 等の当事者への偏見や差別をなくし、性の多様性を認め合う社会を作るための取り組みが必要だと思いますか。（1つ選んでください。）

1. 必要だと思う
2. 必要だと思わない
3. わからない

【問 28】あなたは LGBT 等の当事者ですか。（この質問は、性が多様であることを数値で示すことを目的としているだけで、個人が特定されることはありません。また、答えたくない場合は、無記入で構いません。）

1. 当事者である
2. 当事者ではない
3. わからない

【問 29】あなたの性別は何ですか。（自認する性別で構いません。また答えたくない場合は、無記入で構いません。）

1. 女性
2. 男性
3. その他

※男女共同参画に関して、あなたのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

--

アンケート調査へのご協力ありがとうございました！

「だれもがその人らしくいきいきと暮らせる沖縄市を目指して」
《男女共同参画に関するアンケートへのご協力のお願い》

本市では平成23年に「沖縄市男女共同参画推進条例」を制定し、だれもが性別、国籍、慣習等にかかわらず、能力や意欲に応じて、いきいきと暮らせる社会の実現を目指しています。また現在、平和・男女共同課において「第2次沖縄市男女共同参画計画（ひと・きらめきプラン）」の見直しに取り組んでいます。

男女共同参画に関わる分野は多岐にわたるため、男女共同参画の重要性に関して共通認識を図り、沖縄市のめざすべき姿を共有し、連携しながら取り組みを進めることが非常に重要となります。

男女共同参画に関する行政職員の意識を把握し、計画策定の基礎資料とするためアンケートを実施しております。社会における性別のあり方の現状を調べることを大きな目的の1つにしているため、該当する回答のないことがある方もいらっしゃるかと思いますが、ご理解いただけましたら幸いです。お忙しいかと存じますが、ご協力よろしくお願いいたします。

平成29年9月

●ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、ご自身の考えでお答えください。
2. 答えの中に、当てはまる回答がない場合は、ご自身の考え方に最も近い番号に○をつけてください。性別については自認するもので結構です。
3. このアンケートは、名前を記入する必要はありません。また、調査結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままを回答していただくようお願いします。

※全ての行政職員を対象とします。

問い合わせ

沖縄市男女共同参画センター

TEL：098-937-0170 FAX：098-937-0175

男女共同参画に関する意識調査（市役所職員）

1. 基本事項

【問1】あなたの年齢はおいくつですか。

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳以上

【問2】あなたの職位はどれですか。

1. 課長相当職以上 2. 課長補佐・係長相当職 3. その他の職員

【問3】既婚（未婚だが同居のパートナーがいる場合を含む）の方に伺います。共働きですか。

1. 共働きをしている 2. 共働きをしていない

2. 男女共同参画に関する言葉について

【問4】次にあげる言葉のうち、あなたが知っているもの、言葉を聞いたことがあるものはどれですか。（それぞれ1つ選んでください。）

	おおよその内容を知っている	どんな内容か少し知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	まったく聞いたことがない
①男女共同参画社会	1	2	3	4
②ジェンダー	1	2	3	4
③固定的性別役割分担意識	1	2	3	4
④沖縄市男女共同参画計画 ～ひと・きらめきプラン～	1	2	3	4
⑤沖縄市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
⑥沖縄市男女共同参画センター	1	2	3	4
⑦男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
⑧男女雇用機会均等法	1	2	3	4
⑨DV	1	2	3	4
⑩デートDV	1	2	3	4
⑪人権擁護委員	1	2	3	4
⑫男女混合名簿	1	2	3	4
⑬ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
⑭リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3	4
⑮LGBTを含む性の多様性	1	2	3	4
⑯男女共同参画啓発紙「きらめき」	1	2	3	4



3. 男女平等に関する意識について

【問5】あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野についてあてはまる番号に○をつけてください。（それぞれ1つ選んでください。）

	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性 の方が優遇 されている	男女平等で ある	どちらかとい えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる
家庭生活の中で	1	2	3	4	5
職場で	1	2	3	4	5
学校教育の場で	1	2	3	4	5
地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5
政治や意思決定の場で	1	2	3	4	5
法律や制度の上で	1	2	3	4	5
社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5

【問6】「男は外で働き、女は家庭を守る」という考えについて、どう思いますか。（1つ選んでください。）

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対

5. その他（ ）

4. 職場、就労について

【問 7】今の職場で男女の固定化された役割あるいは男女差別があると感じられますか。(それぞれ1つ選んでください。)

	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性の 方が優遇され ている	男女平等で ある	どちらかとい えば女性の方 が優遇されて いる	女性の方が優 遇されている
重要な仕事の分担	1	2	3	4	5
昇進・昇格の早さ	1	2	3	4	5
能力発揮の機会	1	2	3	4	5
研修・教育の機会	1	2	3	4	5
人事異動（配置）	1	2	3	4	5
職場の情報伝達	1	2	3	4	5

【問 8】あなたに役付き（今の職制より上位の職制）の内示があったら受けますか。（1つ選んでください。）

1. 受ける 2. 受けたいが受けられない
3. 受けたくない 4. その他（ ）

【問9】問8で「2. 受けたいが受けられない」または「3. 受けたくない」と答えた方へお聞きします。その理由は何ですか。（1つ選んでください。）

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 育児や介護などで両立がはかれない | 2. 役付きになると、責任が重くなる |
| 3. 仕事に対する経験・知識が足りない | 4. 職員を統率する自信がない |
| 5. 管理職の労働時間が長い | 6. 配偶者（パートナー）が長時間労働である |
| 7. 持病による健康上の問題 | 8. その他（ |

【問 10】育児休暇や介護休暇の制度は男女がともに取得できますが、取得についてどう考えますか。
(それぞれ1つ選んでください。)

	必要が生じれば 取得する	取得には抵抗が ある	わからない	すでに取得経験 がある
①育児休暇	1	2	3	4
②介護休暇	1	2	3	4

【問 11】問 10 で「取得には抵抗がある」と答えた方にお聞きします。抵抗を感じる理由をお答えください。

抵抗を感じる理由

【問 12】女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選んでください。)

1. 賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす
2. パート、派遣労働等の労働条件を改善する
3. 長時間労働の是正
4. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
5. セクシュアル・ハラスメント等（セクハラ：性的いやがらせ、マタハラ・パタハラ等：性別に関わらず妊娠・出産・育児・介護に関する不当な取り扱い）のない職場をつくる
6. 女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する
7. 女性に対して昇進、昇給の機会を確保する
8. 育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する
9. 託児施設、託児サービスを充実する
10. 介護施設、介護サービスを充実する
11. 家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める
12. その他（ ）

【問 13】 出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めた女性が再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選んでください。）

1. 就職情報や職業紹介などの相談する機関や窓口の充実
2. 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
3. 育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度の充実
4. 企業経営者や職場の理解
5. 長時間労働の是正
6. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
7. 育児や介護のための施設やサービスの充実
8. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力
9. わからない
10. その他（ ）

【問 14】あなたは職場でハラスメントを受けたこと、または見聞きしたことがありますか。「受けたこと」と「見聞きしたこと」について、それぞれ1つ選んでください。

	受けたこと		見聞きしたこと	
	ある	ない	ある	ない
セクハラ（性的な嫌がらせ）	1	2	3	4
パワハラ（職場の権力を利用した嫌がらせ）	1	2	3	4
マタハラ・パタハラ等（性別に関わらず妊娠・出産・育児・介護に関する不当な取り扱い）	1	2	3	4

【問 15】

問 14 で「受けたことがある」と答えた方へお聞きします。そのことをどこか（誰か）に相談しましたか。

1. 相談した 2. 相談しなかった

↓

(相談しなかった理由)



5. ワーク・ライフ・バランスについて

※性別や年齢にかかわらず、「あらゆる人」が子育て、介護、地域活動、自己啓発などさまざまなタイプの活動を「自ら希望するバランス」で展開できる状況を指すこと、そして働き方の見直しが仕事の効率を高め、同時に個人にとっての生活全般での充実が仕事の充実につながるなど、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の間に好循環をもたらしている状態をいう。

【問 16】男女がともに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）」を図るためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選んでください。）

1. 雇用・労働条件での男女間格差を是正する
2. 長時間労働の是正
3. 短時間勤務制度、フレックスタイム制（自由勤務時間制）など柔軟な勤務制度の導入
4. 子どもが1歳に達するまでの育児休業制度や介護休業制度を普及促進する
5. 育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい職場環境の整備を進める
6. 子育て時期などにおける転勤に配慮する
7. 男女がともに家事や育児、介護を担う
8. 育児や介護のための施設やサービスを充実する
9. 夫婦や家族間で家事などの分担について十分に話し合う
10. 特に必要なことはない
11. その他（ ）

【問 17】あなたの生活の中での「仕事」「家庭生活」「個人・地域の生活（趣味・地域活動・付き合い等）」の優先度についてお聞きします。「理想」と「現実」について、それぞれ1つ選び、回答欄へ記入してください。

1. 「仕事」を優先	理想	
2. 「家庭生活」を優先		
3. 「個人・地域の生活」を優先		
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先		
5. 「仕事」と「個人・地域の生活」をともに優先	現実	
6. 「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先		
7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」すべてを優先		
8. わからない		



6. DVについて

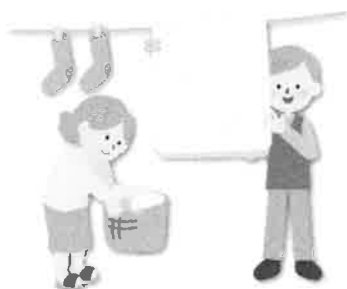
※DV とは、ドメスティック・バイオレンスの略。「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振られる暴力」のことであり、同居をやめた後に暴力が続く場合も DV に該当する。DV のうち、交際相手からの暴力をデート DV と呼ぶことがある。

【問 18】配偶者や恋人等からの以下の行為は、身体的・心理的、性的な暴力（DV）になります。あなたは、次のようなことをされたことがありますか。（それぞれ1つ選んでください。）

	何度もあった	1、2 度あった	なかった
1. 平手で打つ、蹴る、物を投げる、突き飛ばす	1	2	3
2. 殴るふりをしておどす	1	2	3
3. 大声でどなる	1	2	3
4. 何を言っても何をしても長時間無視し続ける	1	2	3
5. 無能、バカなどに見下して言う	1	2	3
6. 嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
7. 避妊に協力しない	1	2	3
8. 生活費を渡さない	1	2	3
9. お金の使途を細かくチェックする	1	2	3
10. 家族や親戚、友人との付き合いを禁止・制限する	1	2	3
11. 交友関係や電話、メールなどをチェックする	1	2	3

【問 19】問 18 で「1. 何度もあった」「2. 1、2 度あった」と答えた方にお聞きします。そのことを誰かに相談しましたか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

1. 警察に連絡・相談した
2. 法務局や人権擁護委員に相談した
3. 市役所の担当窓口や男女共同参画センターなど行政機関などに相談した
4. 民間（NPOを含む）専門家や専門機関（弁護士・弁護士会・カウンセリング機関）に相談した
5. 医療関係者（医師、看護師、助産師等）に相談した
6. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）に相談した
7. 家族や親戚に相談した
8. 友人・知人に相談した
9. 誰にも相談できなかった
10. その他（ ）



【問 20】問 19 で「9. 誰にも相談できなかった」と答えた方にお聞きます。それはなぜですか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

1. どこに(誰に)相談していいか分からなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談がばれると仕返しされたり、もっとひどいことをされと思った
5. 自分が我慢すればいいと思った
6. 世間体が悪いから
7. 他人を巻き込みたくなかった
8. そのことを思い出したくなかった
9. 自分にも悪いところがあると思った
10. 相談するほどのことではないと思った
11. その他 ()

【問 21】あなたは、パートナー(配偶者・恋人)間の暴力について見聞きしたことがありますか。(1つ選んでください。)

1. 身近に暴力を受けた当事者がいる
2. 身近な人から相談を受けたことがある
3. 身近に当事者はいないが、暴力についてのうわさを聞いたことがある
4. 見聞きしたことはない
5. その他 ()

【問 22】DV等に関する相談窓口のうち知っているものはありますか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

1. 沖縄県女性相談所(配偶者暴力相談支援センター)
2. 中部配偶者暴力相談支援センター(中部福祉事務所)
3. 沖縄被害者支援ゆいセンター
4. 沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター
5. 沖縄県男女共同参画センター ているる相談室(女性相談・男性相談)
6. 沖縄県警察本部警察安全相談
7. 沖縄市こども相談・健康課(女性相談室)
8. 沖縄市男女共同参画センター相談室
9. その他 ()



7. 男女共同参画に関すること

【問 23】 日常の業務において、「男女共同参画」や「男女平等」を意識していますか。(1つ選んでください。)

- | | | | |
|-----------|------------|----------|------------|
| 1. 意識している | 2. 意識していない | 3. わからない | 4. その他 () |
|-----------|------------|----------|------------|

【問 24】 これまで、「男女共同参画」に関する研修や講演会等に参加したことがありますか。(1つ選んでください。)

- | | | | |
|--------|--------|----------|-------------|
| 1. 1 回 | 2. 2 回 | 3. 3 回以上 | 4. 受けたことはない |
|--------|--------|----------|-------------|

【問 25】 男女共同参画を進める必要があると思いますか。(1つ選んでください。)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 進める必要がある | 2. 進める必要はない |
|-------------|-------------|

【問 26】 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、沖縄市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。(3つまで選んでください。)

- | |
|---|
| 1. 講座等による男女共同参画に関する学習機会並びに意識啓発の充実 |
| 2. こどもに対する意識啓発の充実 |
| 3. 職場における男女格差是正、長時間労働の是正、育児・介護休業制度の普及促進 |
| 4. 保育施設や介護施設などのサービスの充実 |
| 5. 子育てや介護などで仕事を辞めた人の再就職支援 |
| 6. 仕事と家庭生活や地域活動などの両立支援 |
| 7. 政策・方針決定の場への女性の積極的登用（女性議員の増加、女性管理職の増加等） |
| 8. 配偶者等からの暴力の根絶と被害者に対する支援の充実 |
| 9. 男女の互いの身体的性差の理解促進及び男女の生涯を通じた健康づくりへの支援 |
| 10. LGBT を含む性の多様性への理解の促進 |
| 11. 相談窓口の充実 |

【問 27】 沖縄市では、女性の管理職以上の登用目標を30%と設定していますが、登用目標を設定する事についてどう思いますか。(1つ選んでください。)

(※女性の管理職以上の登用率は平成 29 年 4 月 1 日現在で 14.3%です)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 女性の登用はまだなので、数値目標を設定し近づける努力をするべきである |
| 2. 数値目標を設定せず、能力に応じて登用すべきである |
| 3. これ以上の登用は必要ない |
| 4. 現行管理職の長時間労働を是正すべきである |
| 5. 女性管理職が働きやすい環境づくりを進めるべきである |
| 6. その他 () |

※LGBTとは・・・

レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（心と体の性不一致の人）の頭文字をとった言葉です。

※性の多様性とは・・・

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーや、心と体の性が一致せず心と体の性の一致を求める性同一性障害、自分の性別や好きになる性がわからない、または、あえて決めないクエスチョニング、どちらにもあてはまりきらないXジェンダーなどを含む、多様な性のあり方を示す言葉です。

1. 知っているし、内容も理解している
2. 聞いたことはあるが、内容は理解していない
3. 知らない

1. 身近にいる 2. 身近にいないが、聞いた事がある 2. いない 3. わからない

1. ある 2. ない

1. 必要だと思う 2. 必要だと思わない 3. わからない

1. 当事者である 2. 当事者ではない 3. わからない

1. 女性 2. 男性 3. その他

--

149

